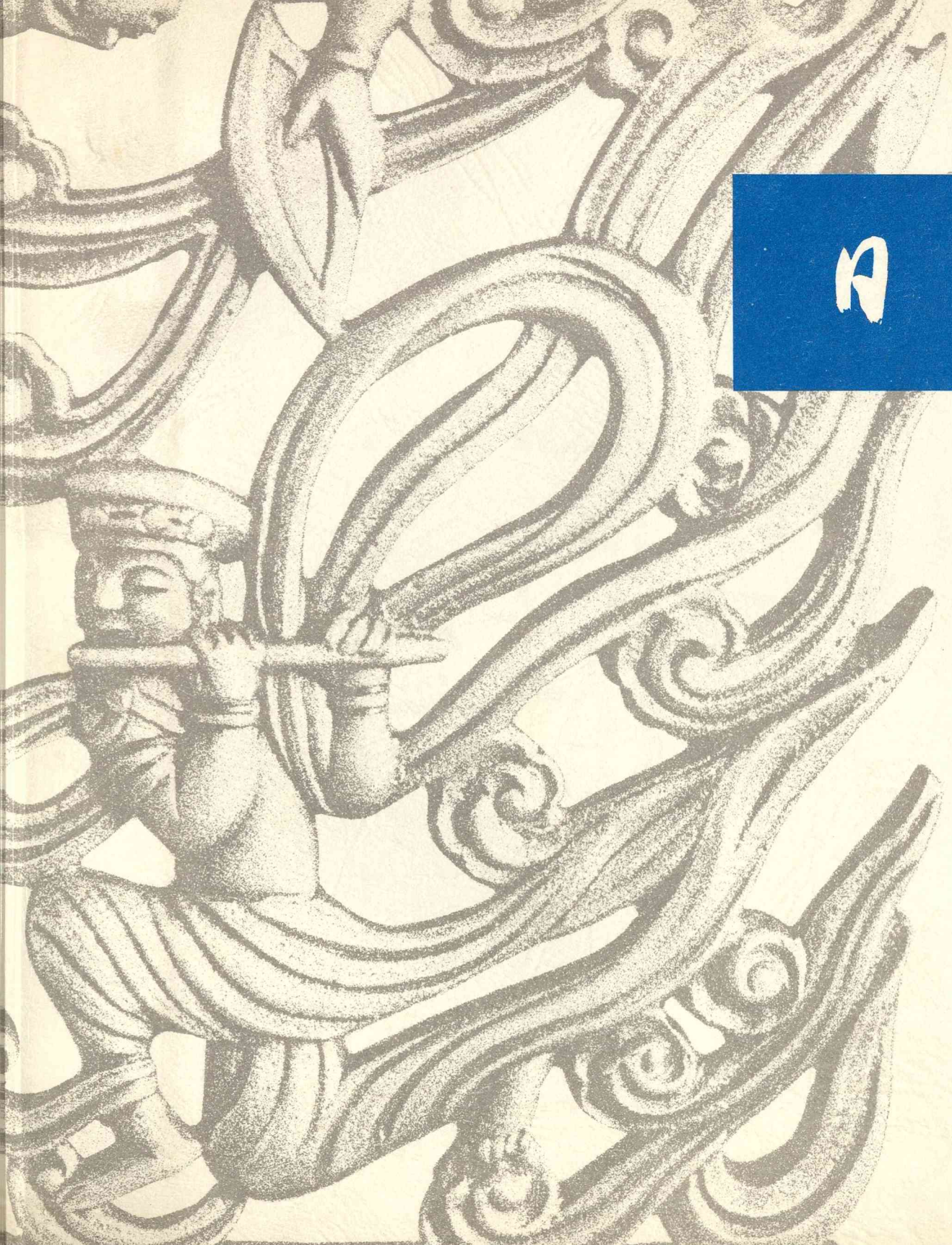


# 日本賞

1969

# 第5回日本賞教育番組国際コンクール

昭和44年11月5日—11月19日

広　島

日本放送協会

第５回　日本賞コンクールの会場となった広島市社会福祉センター全景

# 目　次


序……7

受賞番組一覧……8

佳作番組一覧……8

審査委員一覧……9

コンクールの概要……10

授賞式……15

審査報告……21

受賞番組解説……25

佳作番組解説……34

参加番組一覧……38

審査委員・オブザーバーの感想……43

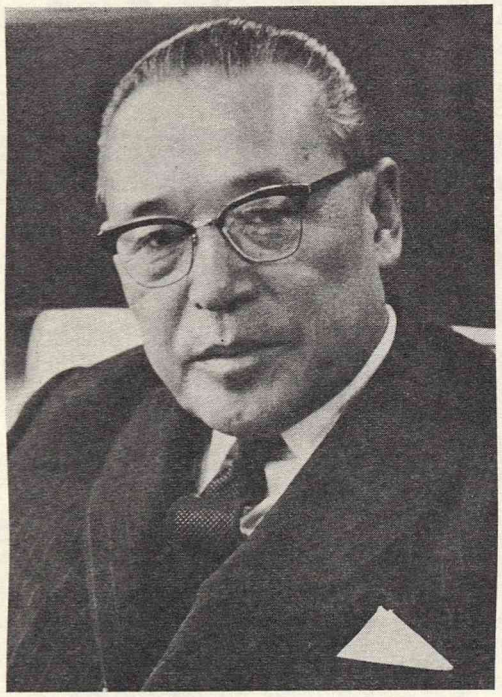
「日本賞」コンクール記念講演……71

過去4回の受賞番組……79

過去4回の審査委員……80

部門と賞の説明……82

# 目　次



日本放送協会会長
**前田義徳**

「日本賞」教育番組国際コンクールも，ことしで5回目を迎えました。

おかげをもちまして，ことしは世界56カ国，86放送機関から177本に及ぶ教育番組が送られてまいりました。これらの参加番組の形式・内容は全くさまざまでありますが，共通して感じられましたことは，ラジオ・テレビジョンという放送メディアを通して人類の進歩と調和，社会の繁栄と福祉を願う心が人種，言語，宗教の違いを越えて脈々と流れていることであります。これは，いうまでもなく，世界各国が教育の革新の必要性を強く感じ，また放送の教育への利用を真剣に考慮しつつあることのあらわれであると申せましょう。

このような時に，このコンクールが年を追って世界各国の関心と理解を得てまいりましたことは，私どもにとってまことに喜びにたえません。教育における放送の役割がますます重要になっております今日，私どもはこのコンクールが創設されたときの趣旨にそい，広く世界各国の教育番組の向上と，各国間の相互理解の増進にいささかなりともお役に立つことを念願しつつ，今後ともいっそうの努力を重ねてまいりたいと考えております。

第5回日本賞コンクールが非常な成功裡に終りましたのは，国の内外を問わず，政府，放送機関および関係各位の熱心なご支持と長時間にわたる多数の番組の審査に当られた審査委員のかたがたのご尽力によるものと感謝しております。

ここに第5回日本賞コンクールの報告書を作成して皆様のご高覧に供し，今後ともご支援いただきますことをあわせてお願いいたします。

# 受賞番組一覧

| 賞名 | ラジオ テレビ別 | 題名 | 部門別 | 制作機関 |
|---|---|---|---|---|
| 日本賞 | ラジオ | 惑星「メディア」の事件 | 中等 | ブルガリア国営放送 |
| | テレビ | 新しい数学「対応」 | 中等 | 日本放送協会 |
| 文部大臣賞 | ラジオ | 海におちたピアノ | 初等 | 日本放送協会 |
| 郵政大臣賞 | テレビ | 絵画教室「森の印象」 | 初等 | オランダ・テレビ放送連盟 |
| 広島市長賞 | ラジオ | 歌劇における歌唱の演劇的機能 | 成人 | リバーサイドラジオ WRVR（アメリカ合衆国） |
| 阿部賞 | テレビ | 音楽の世界　リズムI | 成人 | フランス放送協会 |
| ユニセフ賞 | テレビ | 新しい生活 | 成人 | イギリス放送協会 |
| 特別賞 | ラジオ | かや琴 | 初等 | 韓国国営放送 |
| | 〃 | 種の発芽 | 中等 | マラウイ放送協会 |
| | 〃 | 綿花の栽培 | 成人 | 中央アフリカ国営放送 |
| | テレビ | 成人学級「ことばと数」 | 成人 | コロンビア国営放送 |
| | 〃 | 稲作講座「田植」 | 成人 | コート・ジボアール国営放送 |
| | 〃 | テレビで学ぶアルファベット | 成人 | ユーゴスラビア国営放送 |
| 審査委員賞 | ラジオ | 7つの音符の冒険 | 初等 | ソビエト国営放送 |
| | 〃 | 英語教室「わかりましたか」 | 中等 | スウェーデン放送協会 |
| | テレビ | 手紙の旅 | 初等 | ベルギー（フランス語）放送協会 |
| | 〃 | 心臓移植～その法的側面～ | 成人 | WGN コンチネンタル放送会社（アメリカ合衆国） |

# 佳作番組一覧

| ラジオ テレビ別 | 題名 | 部門別 | 制作機関 |
|---|---|---|---|
| ラジオ | 「音」について | 中等 | スウェーデン放送協会 |
| 〃 | 音を利用した漁法 | 成人 | 日本放送協会 |
| 〃 | ベートーベンの第9交響曲 | 成人 | ルーマニア国営放送 |
| テレビ | 英語教室「モンタージュ写真」 | 初等 | イスラエル教育テレビセンター |
| 〃 | 二つの目 | 初等 | スイス放送協会 |
| 〃 | ドキュメンタリーと真実 | 中等 | スウェーデン放送協会 |

# 審査委員一覧

## 参加放送機関から派遣された審査委員（10名）

### ラジオ

| 地域別 | 国名 | 審査委員名 | 現職 |
|---|---|---|---|
| アジア | パキスタン | **K・G・アリ** | パキスタン国営放送副総局長 |
| アフリカ | マラウイ | **ジョージ・F・ローランド** | マラウイ放送協会学校放送顧問 |
| 西ヨーロッパ | ベルギー | **ディナ・ドン女史** | ベルギー(フランス語)放送協会文芸番組主幹 |
| 東ヨーロッパ | ブルガリア | **ゲオルギ・A・アブラモフ** | ブルガリア国営放送ラジオ局次長 |
| 日本 | 日本 | **山崎　誠** | 日本放送協会教育局長 |

### テレビジョン

| | | | |
|---|---|---|---|
| アジア | シンガポール | **ピーター・スー** | シンガポール教育テレビ局長代行 |
| アフリカ | アルジェリア | **メチジ・アブデルハミド** | アルジェリア国営放送事務局長 |
| 北アメリカ | アメリカ合衆国 | **ロバート・ラーセン** | WGBH 教育財団副総支配人 |
| 西ヨーロッパ | スウェーデン | **ロルフ・ルンドグレン** | スウェーデン放送協会学校放送部長 |
| ラテンアメリカ | コロンビア | **ルイス・E・フォンセカ** | コロンビア国営放送総局長 |

## 学識経験者の中から選ばれた審査委員（4名）

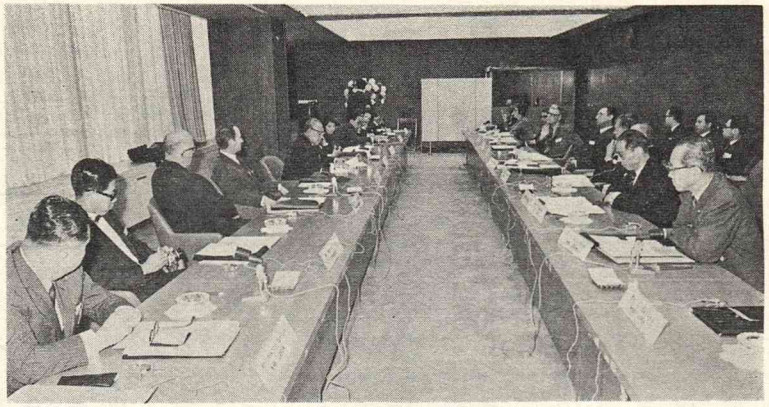
### ラジオ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 北アメリカ | アメリカ合衆国 | **ウィルバー・シュラム教授** | スタンフォード大学<br>コミュニケーション研究所長 |
| 中近東 | イラン | **アーマド・A・メールプール** | イラン教育省視聴覚教育部長 |

### テレビジョン

| | | | |
|---|---|---|---|
| 西ヨーロッパ | フランス | **ミッシェル・タルディ教授** | ストラスブール大学教育心理学研究所長 |
| 日本 | 日本 | **益井重夫** | 国立教育研究所第2研究部長 |

# コンクールの概要



組織会議

開会総会

広島市社会福祉センター

### 参加状況

第5回日本賞国際コンクールの招請状は1969年5月31日国際連合の国際電気通信連合（ITU）に加盟している133カ国，323機関に発送，8月14日の締切りまでに56カ国，86機関から参加申し込みがあり，10月1日の番組締切りまでにラジオ73，テレビ104，合計177本の番組が送られてきた。

初参加は7カ国，21機関，参加番組の使用言語は36カ国語を数えた。

**参加国・参加機関**

| 地域 | 参加国 | 参加機関 | 招待 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 国 | 機関 |
| アジア | 12 | 15 | 21 | 41 |
| アフリカ | 11 | 11 | 39 | 53 |
| 北アメリカ | 2 | 16 | 2 | 97 |
| 西ヨーロッパ | 15 | 21 | 19 | 38 |
| 東ヨーロッパ | 7 | 10 | 10 | 13 |
| 大洋州 | 2 | 2 | 6 | 7 |
| 中近東 | 2 | 3 | 12 | 18 |
| ラテンアメリカ | 5 | 8 | 24 | 56 |
| 合計 | 56 | 86 | 133 | 323 |

**参加番組数**

| ラジオ | | テレビジョン | |
|---|---|---|---|
| 初等教育部門 | 34 | 初等教育部門 | 30 |
| 中等教育部門 | 21 | 中等教育部門 | 37 |
| 成人教育部門 | 18 | 成人教育部門 | 37 |
| 計 | 73 | 計 | 104 |

## コンクールの経過

1969年11月5日（水）午前9時から東京・渋谷のＮＨＫ放送センター5階の役員会議室において審査委員14名およびＮＨＫ前田会長，吉田事務局長，西川放送業務局長，鈴鹿広島中央放送局長の出席のもとに組織会議が開かれ，前田会長の挨拶に続いて，審査委員長の選出が行なわれ，アメリカ合衆国・スタンフォード大学コミュニケーション研究所長のウィルバー・シュラム教授が選ばれた。

いったん休憩に入り，そのあと10時30分から審査委員長ウィルバー・シュラム教授の司会のもとに総会が開かれ，番組の審査基準，方法，賞の解釈，番組の資格審査等が協議された。引続いて次の役員が選出され，このあと審査委員および関係者は番組審査のため，第5回コンクールの開催地広島市に移動した。

副審査委員長兼ラジオ部会長

K・G・アリ氏　（パキスタン国営放送副総局長）

副審査委員長兼テレビ部会長

ロルフ・ルンドグレン氏

（スウェーデン放送協会学校放送部長）

参加番組の審査は，翌6日（木）から14日（金）まで日曜日を除く7日間，広島市社会福祉センターにおいて，ラジオ，テレビ部会に分かれて行なわれた。まず，6日午前9時からラジオ，テレビ両部会が開かれ，ラジオ副部会長にベルギー（フランス語）放送協会の文芸番組主幹ディナ・ドン女史，テレビ副部会長にアルジェリア国営放送の事務局長メチジ・アブデルハミド氏をそれぞれ選出，ただちに番組の審査に入った。連日，午前3時間半，午後5時間，各委員の熱心な視聴および討議が行なわれ，慎重に審査が進められた結果，11月14日（金）の午後各部会から推薦された候補番組は，ラジオ，テレビ部会でそれぞれ交換視聴されたのち，引続いて行なわれた総会でさらに討議されたが，部会の意向が尊重され，受賞番組が決定された。

ラジオ審査室

テレビ審査室

閉会総会

## 参加番組種別

### ラジオ

| 種別 / 地域 | 19cm S（スタンダード） | 19cm E（欧州方式） | 38cm S | 38cm E | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| アジア | 16 | — | — | — | 16 |
| アフリカ | 7 | 1 | — | — | 8 |
| 北アメリカ | 5 | — | — | — | 5 |
| 西ヨーロッパ | 7 | — | 6 | 3 | 16 |
| 東ヨーロッパ | | 5 | — | 10 | 15 |
| 大洋州 | 4 | — | — | 10 | 4 |
| 中近東 | 4 | — | 1 | — | 5 |
| ラテンアメリカ | 4 | — | — | — | 4 |
| 計 | 47 | 6 | 7 | 13 | 73 |

### テレビ

| 種別 / 地域 | 16mm COMOPT | 16mm SEPMAG | 16mm COMMAG | 35mm COMOPT | VTR 525 | VTR 625 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アジア | 2 | — | 1 | — | 5 | 6 | 14 |
| アフリカ | 1 | 2 | — | — | — | 5 | 8 |
| 北アメリカ | 7 | — | — | — | 9 | — | 16 |
| 西ヨーロッパ | 3 | 18 | 1 | — | — | 11 | 33 |
| 東ヨーロッパ | — | 5 | 2 | 6 | — | 1 | 14 |
| 大洋州 | 2 | — | — | — | — | 1 | 3 |
| 中近東 | — | — | — | — | — | 4 | 4 |
| ラテンアメリカ | — | — | — | — | 12 | — | 12 |
| 計 | 15 | 25 | 4 | 6 | 26 | 28 | 104 |

## 参加番組の放送

NHKではコンクールの終った昨年11月から今年の1月にかけて，日本賞コンクール参加番組のうちすぐれた番組を次のようにラジオ第1放送，FM放送，総合テレビ，教育テレビで放送した。

ラジオ第1放送

11月29日（土）　惑星「メディア」の事件
～ブルガリア国営放送～
海におちたピアノ　～日本放送協会～
音を利用した漁法　～日本放送協会～

FM放送

11月27日（木）　英語教室「わかりましたか」
～スウェーデン放送協会～
歌劇における歌唱の演劇的機能
～リバーサイドラジオ（アメリカ）～

総合テレビ

11月30日（日）　新しい数学「対応」～日本放送協会～
絵画教室～森の印象～
～オランダ・テレビ放送連盟～

12月7日（日）　音楽の世界　リズムI
～フランス放送協会～

教育テレビ

1月1日（木）　英語教室「モンタージュ写真」
～イスラエル教育テレビセンター～
自然の造形　～スウェーデン放送協会～
ワット・ポー寺院にて
～バンコック市営放送～

1月2日（金）　彫刻鑑賞
～オーストリア放送協会～
教室の空席　～ハンガリー国営テレビ放送～
彼らみずからのもの
～首都教育テレビ連盟（カナダ）～

1月3日（土）　レーザー光線　～カナダ放送協会～
通信高校講座物理　A　—落体の運動—
～日本放送協会～

**オブザーバー**

日本賞コンクールに寄せる海外の期待と関心が年々高まるにしたがって，海外の放送関係者でコンクールに参加するために日本にこられるオブザーバーの数は急激にふえている。特に今回は前回の15名を大幅にうわまわる24名のオブザーバーが参加され，連日，視聴室で熱心にコンクールを視聴したり，意見を交換する姿がみられた。

テレビ公開室

**オブザーバー**

| 地域別 | 国名 | オブザーバー名 | 職業 |
|---|---|---|---|
| アジア | 韓国 | ジプ・ホ・シン | 韓国中央視聴覚教育院院長 |
| | 韓国 | チュン・パル・ノー | 韓国国営放送ラジオ部長 |
| | 日本 | 蛯谷米司 | 広島大学教授 |
| | 日本 | 斎藤伊都夫 | 文部省社会教育審議官 |
| | 日本 | 林重政 | 広島大学教授 |
| | ネパール | ボジャ・プラサド・シャー | ネパール国営放送局長 |
| アフリカ | アラブ連合 | サミラ・エル・キラニ夫人 | アラブ連合国営テレビ放送教養番組主幹 |
| | シエラレオネ | オリーブ・H・ベンジャミン夫人 | シエラレオネ教育省教育番組主幹 |
| 北アメリカ | アメリカ合衆国 | ジョーン・シーバー女史 | スタンフォード大学教育心理学部助教授 |
| | アメリカ合衆国 | パトリック・スッピーズ | スタンフォード大学教授 |
| | アメリカ合衆国 | レイモンド・ディリー | アメリカ公共放送協会 |
| | アメリカ合衆国 | ウォーカー・G・バックナー | エドワード・E・フォード財団理事長 |

| 地域別 | 国名 | オブザーバー名 | 職業 |
|---|---|---|---|
| 北アメリカ | アメリカ合衆国 | ロバート・ラーセン夫人 | WGBH 教育財団副総支配人夫人 |
| | アメリカ合衆国 | モーリス・リッテンバーグ | NBC 教育エンタープライズ社長 |
| | カナダ | ジョージ・デイビッドソン | カナダ放送協会会長 |
| | カナダ | ジョージ・デイビッドソン夫人 | カナダ放送協会会長夫人 |
| 西ヨーロッパ | イギリス | ウォールター・ジェイムズ | ロンドンタイムズ編集長教育顧問 |
| | スイス | フランク・R・タポレ | スイス放送協会<br>バーゼル教育テレビセミナー事務局長 |
| | 西ドイツ | カール・ハインツ・グロスマン | 北ドイツ放送協会教育テレビ番組局長 |
| | 西ドイツ | ウォルフガング・ブロバイル | 第2ドイツテレビジョン放送協会教養番組部長 |
| 東ヨーロッパ | ソビエト | フェドル・クズネツォフ | ソビエト国営放送番組交換部長 |
| | チェコスロバキア | フレデリカ・ビーデルマンノワ | チェコスロバキア国営テレビ放送幼児番組劇作家 |
| | ポーランド | ウロツィミエーシュ・ソコルスキー | ポーランド国営放送会長 |
| | ユーゴスラビア | ツドラフコ・ブコビッチ | ユーゴスラビア国営放送<br>ベオグラード放送局長 |
| ラテンアメリカ | コロンビア | ルイス・フォンセカ夫人 | コロンビア国営放送総局長夫人 |
| | ペルー | フェルナンド・サミラン | ペルー教育省<br>社会教育テレビ局長 |
| 国際機関 | 経済開発協力機構 | カレル・ローハー | 経済開発協力機構情報局映画部長 |

# 授　賞　式

第5回「日本賞」教育番組国際コンクール授賞式は，11月19日午後3時30分から，NHK広島中央放送局第1スタジオで行なわれた。式には河本郵政大臣，坂田文部大臣（代理久保田文部政務次官）をはじめ，永野広島県知事，山田広島市長，ポーランド国営放送のソコルスキ会長，カナダ放送協会のデイビッドソン会長，その他世界各国の放送機関の代表，在日外国大公使，国会議員，教育関係者など約200名が出席された。

内外来賓の祝辞のなかで，河本郵政大臣は「近年飛躍的な発展を遂げた放送は，人類社会において極めて多様な役割を果し，我々の日常生活及び社会活動に欠くことのできないものとなっておりますが，ことに世界の国々において教育の重要性が強く叫ばれている今日，教育放送に課せられた使命は誠に大なるものがあろうと思うのであります。また去る7月打ち上げられたアポロ11号による人類初の月面着陸の壮挙は宇宙中継などにより，世界各国に向けて放送され，我々に深い感動を与えたのでありますが，このように国境を越えて地球上に住む人々の結びつきは一層深められつつあります。

このようなときに当り世界各国の秀れた教育放送番組を一堂に集め，各国から選ばれた識見豊かな審査委員各位により，厳正な審査と検討が加えられますことは，世界の教育放送番組の質的向上に寄与するばかりでなく，国際間の文化の交流と相互理解の促進に役立つところ極めて大なるものがあると思います。」と述べられた。

また坂田文部大臣は，「世界各国が放送のもつ教育的価値に大きな期待をかけている……」と前おきして，「人類はすでに38万キロの宇宙空間のかなたにある月にテレビ・カメラを持ち込み，その景観を刻々と電波によって地球に伝達することに成功しております。

私たちは放送のもつ偉大な伝達力をあらためて認識し，教育的利用についてさらに無限の可能性があることを確信するとともに，その開発に強い意欲を感じるのであります。教育放送の電波が地球の隅々まで覆いつくし，すべての人々に豊かな教育情報が提供されることを期待してやみません。」と述べられた。

つづいて開催地広島市を代表して，山田広島市長は，「……世界の恒久平和をめざし，人類の限りなき発展を祈るとき，教育放送こそわれわれが互に分ち合い，有効に駆使すべき最大最高の手段であると確信いたします。

残念ながら核兵器による世界戦争の恐怖がいまだに消えぬ今日，情報文化の向上をもって生命の尊厳を強調し，信頼と協調を深め人類が一体となるための力強い活動に期待するところ大なるものがあります。」と平和都市広島の市民の切なる願いを力説された。

このあと海外からのオブザーバーを代表して，アフリカ・シエラレオネ教育省教育番組主幹オリーブ・ベンジャミン夫人は，「……日本賞コンクールは世界各国の放送機関の教育番組の質の向上に寄与するところ大なるものがあると確信しています。審査委員の方々そして私達オブザーバーは，それぞれ，教育番組の審査および視聴という目的のために，ここ広島に2週間程滞在しましたが，この間に交換し得た貴重な知識と経験は，これからの番組制作のみならず

授賞式（広島中央放送局第1スタジオ）

国際理解の大きな源となることでしょう。」と述べられた。

また主催者としてNHKの前田会長は「ただ今まで5回のコンクールの足跡をふりかえってみますと，わたくしどもがこれを創設した目的は着々と達せられつつあるように感じられます。いまやわが国をはじめ世界各国では教育の革新が叫ばれ，ラジオやテレビジョンの教育への活用が真剣に考慮され，放送による大学の設立計画や衛星を利用した教育放送計画などが進められております。このようなときにあたって「日本賞」コンクールの果すべき役割は大きいと信じます。」と日本賞に寄せられた期待にこたえた。

最後にウィルバー・シュラム審査委員長から審査経過の報告があり，続いて次の順序で授賞が行なわれた。

**「広島市長賞」**

○ラジオ成人教育番組部門

“歌劇における歌唱の演劇的機能”

リバーサイドラジオ WRVR 制作　（アメリカ合衆国）

（贈呈者）　広島市長　　山田　節男

（受賞者）　広島・アメリカ文化センター館長

リン・S・フュー

**「文部大臣賞」**

○ラジオ学校放送番組初等教育部門

“海におちたピアノ”　　日本放送協会制作

（贈呈者）　文部政務次官　　久保田藤麿

（受賞者）　NHK 教育局青少年幼児班　　二宮　睦郎

**「阿部賞」**

○テレビ成人教育番組部門

“音楽の世界　リズムⅠ”　　フランス放送協会制作

（贈呈者）　NHK 会長　　前田　義徳

（受賞者）　フランス放送協会極東総支配人

ジャン・クールディ

**「郵政大臣賞」**

○テレビ学校放送初等教育番組部門

“絵画教室～森の印象～”　オランダ・テレビ放送連盟制作

（贈呈者）　郵政大臣　　河本　敏夫

（受賞者）　OECD 情報局映画部長　　カレル・ローハー

**「日本賞」**

○ラジオ学校放送中等教育番組部門

“惑星「メディア」の事件”　　ブルガリア国営放送制作

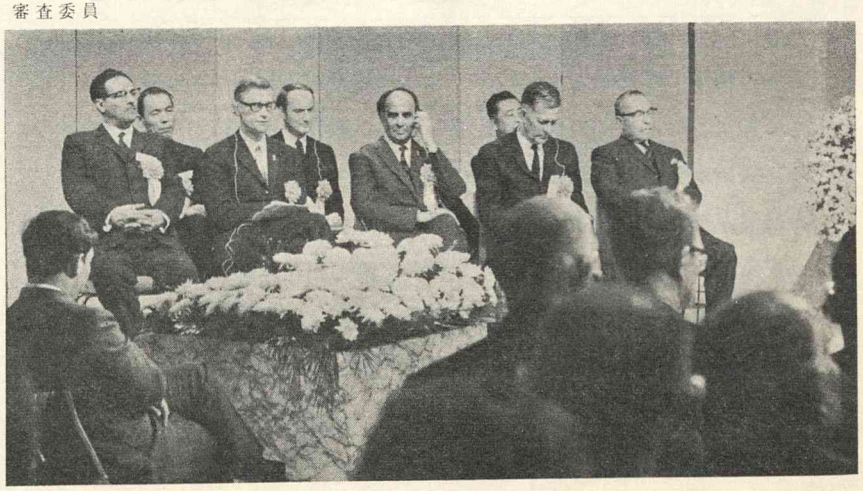
（贈呈者）　NHK 会長　　前田　義徳

（受賞者）　ブルガリア国営放送ラジオ局次長

ゲオルギ・アブラモフ

授賞式

審査委員



「日本賞」

○テレビ学校放送中等教育番組部門

“新しい数学～対応～”　日本放送協会制作

（贈呈者）　NHK会長　前田　義徳

（受賞者）　NHK教育局学校放送班　西内　久典

「ユニセフ賞」

○テレビ成人教育番組部門

“新しい生活”　イギリス放送協会制作

（贈呈者）　日本ユニセフ協会専務理事　橋本　正

（受賞者）　イギリス総領事　ロバート・M・ジョン

「特別賞」

○ラジオ学校放送初等教育番組部門

“かや琴”　韓国国営放送制作

（贈呈者）　スタンフォード大学コミュニケーション研究所長

ウィルバー・シュラム教授

（受賞者）　広島・韓国教育文化センター所長　魚　宗徳

○ラジオ学校放送中等教育番組部門

“種の発芽”　マラウィ放送協会制作

（贈呈者）　イラン教育省視聴覚教育部長

アーマド・アリ・メールプール

来　賓

（受賞者）　マラウィ放送協会学校放送顧問

ジョージ・ローランド

○ラジオ成人教育放送番組部門

“綿花の栽培”　中央アフリカ国営放送制作

（贈呈者）　NHK　教育局長　山崎　誠

（受賞者）　アルジェリア国営放送事務局長

メチジ・アブデルハミド

○テレビ成人教育放送番組部門

“成人学級～ことばと数～”　コロンビア国営放送制作

（贈呈者）　スタンフォード大学コミュニケーション研究所長

ウィルバー・シュラム教授

（受賞者）　コロンビア国営放送総局長

ルイス・フォンセカ

○テレビ成人教育放送番組部門

“稲作講座～田植～”　コート・ジボアール国営放送制作

（贈呈者）　シンガポール教育テレビ局長代行

ピーター・スー

（受賞者）　アルジェリア国営放送事務局長

メチジ・アブデルハミド

○テレビ成人教育放送番組部門

“テレビで学ぶアルファベット”　ユーゴスラビア国営放送制作

（贈呈者）　アメリカ合衆国 WGBH 教育財団副総支配人

ロバート・ラーセン

（受賞者）　ユーゴスラビア国営放送ベオグラード放送局長

ツドラフコ・ブコビッチ

「審査委員賞」

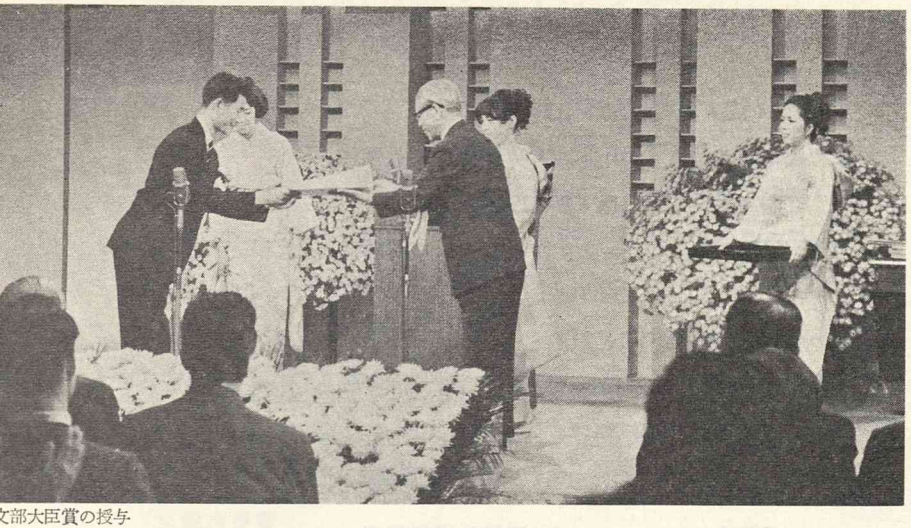
○ラジオ学校放送初等教育放送番組部門

“7つの音符の冒険”　ソビエト国営放送制作

（贈呈者）　パキスタン国営放送副総局長　K・G・アリ

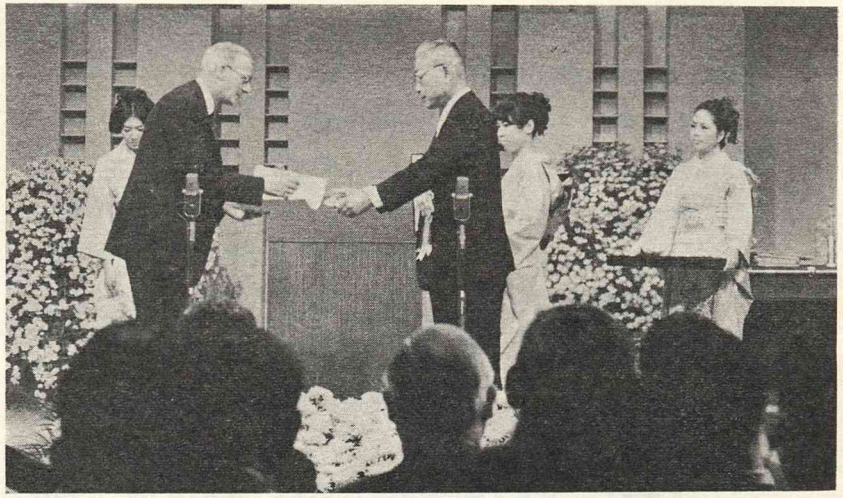
（受賞者）　ソビエト国営放送東京特派員夫人

E・オクシュケービッチ夫人



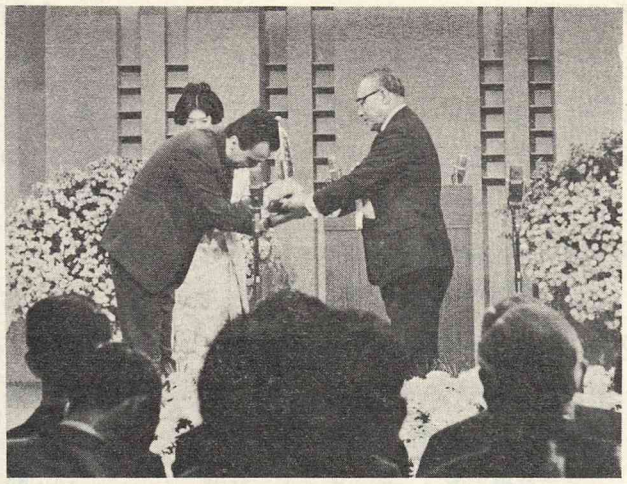
文部大臣賞の授与

郵政大臣賞の授与



広島市長賞の授与

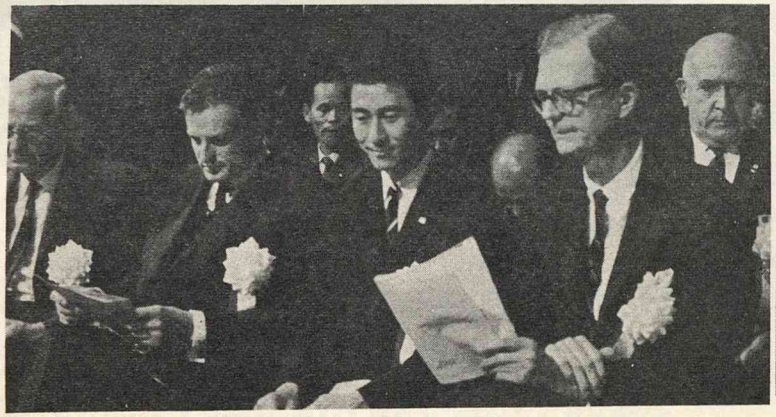
日本賞（テレビ）の受賞者



日本賞（ラジオ）の授与

審査委員賞（ラジオ）の授与

受賞者



受賞者

○ラジオ学校放送中等教育番組部門

“英語教室～わかりましたか～”　スウェーデン放送協会制作

（贈呈者）　パキスタン国営放送副総局長　K・G・アリ

（受賞者）　スウェーデン放送協会東京特派員

ピア・ブランデリウス夫人

○テレビ学校放送初等教育番組部門

“手紙の旅”　ベルギー（フランス語）放送協会制作

（贈呈者）　スウェーデン放送協会学校放送部長

ロルフ・ルンドグレン

（受賞者）　ベルギー（フランス語）放送協会

文芸番組主幹　ディナ・ドン女史

○テレビ成人教育放送番組

“心臓移植～その法的側面～”

アメリカ合衆国 WGN コンチネンタル放送会社制作

（贈呈者）　スウェーデン放送協会学校放送部長

ロルフ・ルンドグレン

（受賞者）　WGN コンチネンタル放送会社副社長

A・C・フィールド

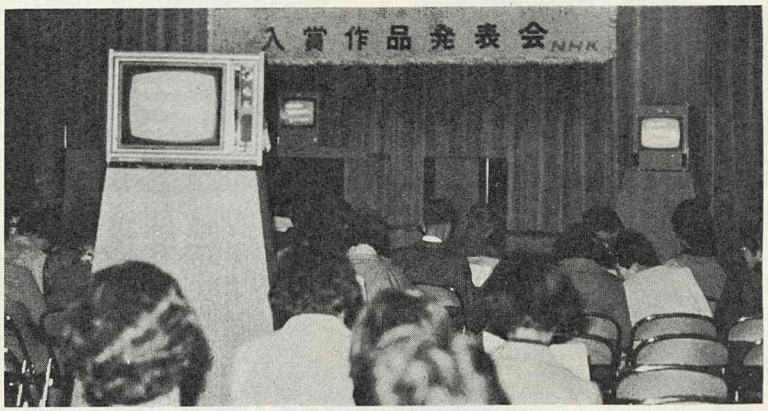
来賓代表の挨拶

## 受賞作品発表会

期　日　11月19日（火）午前9時30分から

場　所　広島市社会福祉センターホール

| | | |
|---|---|---|
| 9：30 | 開　会 | 司会　NHK 教育局通信教育1班<br>チーフ・ディレクター　小島　明<br>番組紹介　坂本　真琴 |
| 9：35 | 「文部大臣賞」<br>ラジオ・初等 | 海におちたピアノ<br>日本放送協会制作 |
| 9：55 | 「郵政大臣賞」<br>テレビ・初等 | 絵画教室～森の印象～<br>オランダ・テレビ放送連盟制作 |
| 10：20 | 「阿部賞」<br>テレビ・成人 | 音楽の世界　リズムⅠ<br>フランス放送協会制作 |
| 11：00 | あいさつ | 日本賞事務局長　吉田　正 |
| 11：05 | 「日本賞」<br>テレビ・中等 | 新しい数学～対応～<br>日本放送協会制作 |
| 11：25 | 閉　会 | |




発表会々場

# 審 査 報 告

**審査委員長**
スタンフォード大学
コミュニケーション研究所長
**ウィルバー・シュラム教授**

ご列席の大臣閣下
ご来賓の皆様，そして皆さん，

第5回日本賞コンクールの審査委員一同を代表いたしまして，審査の経過をご報告しますことは，私の光栄とするところであります。

私達は177本のラジオ・テレビジョン番組を視聴いたしましたが，いずれも優れたものばかりでありました。

これらの番組は，5つの大陸，56カ国の86放送機関から提出されたもので，開発途上にある国々ならびに経済的に進んだ国々から寄せられて来たものでございます。現在の放送の世界で最も優れた教育番組がこれ程幅広く集められる機会は，他には到底ないと思われます。

参加番組の数について一言申し述べてみたいと存じます。今年このコンクールに参加した放送機関の数は，今までになく多く，テレビジョンの参加番組数は過去4回に比べて最高で，104本の多きを数えました。1965年の第1回コンクール以来，回を重ねるごとにテレビジョンの参加番組の数は増えておりますが，ラジオの参加番組は減少の一途をたどっており，今回は73本でした。しかし，これらの数字に対して誤った解釈をなさらないようご注意申しあげます。参加番組の数はこれらラジオおよびテレビジョンの教育面での利用度ならびに教育的重要性を必ずしも反映しているとは言えないのです。テレビジョン部門の参加番組数が多くなって来た理由は，恐らく，テレビジョンが急速な勢いで各国に拡がり，教育面で利用される範囲がひろまって来ているためと思われます。かといって，ラジオ教育放送の存在意義が全くなくなったのでもなく，なくなりかけているのでもなく，その重要性を失いつつあるのでもありません。ラジオは日本のように非常に進んだ国々でも，教育手段として重要な役割を果しており，また，テレビジョンが全国的に普及するにはまだかなりの年月がかかるであろうと思われる開発途上の国々では，決定的な役割を果しているのです。

さて，ここでラジオ，テレビジョン両部会の部会長をつとめられた方々から審査した種々の番組に対する印象というようなものを簡単に述べていただきたいと思います。最初に，ラジオ部会長を務められましたパキスタン国営放送の副総局長K・G・アリ氏にお願いいたします。

ラジオ部会報告

**ラジオ部会長**
パキスタン国営放送副総局長
**K・G・アリ**

まず始めに，第5回日本賞コンクールの受賞者の皆さんに心からお祝いの言葉を申し述べたいと思います。そして受賞なさらなかった方々には，あなたがたのご協力により今年の日本賞コンクールが成功裡に終りましたことをお伝えしたいと存じます。

2. 今年の番組は粒揃いで，激しく競い合ったコンクールでした。ラジオ部会長としていえますことは，ほとんどの参加番組が内容の面でも，また番組の構成としても高い水準を示していたことでしょう。

3. 世界各国では，ラジオというメディアが自然科学，人文科学，語学等の分野の教育番組に寄与できる可能性を開発するために，いろいろな試みがなされていることを，数多くの参加番組が示していました。今回，私は審査員の一人として，このような努力の積みかさねを検討する機会を与えられたことを深く感謝いたしております。

4. 成人教育の分野で，より優れた番組を制作しようとする努力がなされて来たことを知り，喜ばしい限りです。言語や人種の異なるグループを結びつけようと意図した番組が幾つかあったのを記憶しております。同様に，世界全般にわたる食糧不足を背景として開発途上にある国々で農業に従事している人達に最新の技術を教え刺激を与えているラジオ放送設備の発達もまた称賛に値するものです。

5. 結論として，日本賞コンクールは純粋な教育目的に貢献している唯一の国際コンクールであると申しあげたいと思います。この偉大で壮大なコンクールが，たとえどのように間接的であろうとわずかなものであろうと，今日の偏見と無知と紛争に満ちた世界に，啓蒙と相互理解，ひいては世界平和と繁栄というもう一つの次元を顕示することを心から希望してやみません。

*　*　*　*

（審査委員長）

次はテレビジョン部会長を務められましたスウェーデン放送協会の学校放送部長ロルフ・ルンドグレン氏にお願いいたします。

テレビジョン部会報告

**テレビジョン部会長**
スウェーデン放送協会
学校放送部長
**ロルフ・ルンドグレン**

104本の番組を7日半で視聴するということは，1日当り14本の番組ということになり，大変な仕事のように思われることでしょう。確かにその通りで，ハード・ワークでなかったとはいえませんが，同時に感謝しなければならない仕事でもありました。というのは，世界的に有名な日本賞コンクールの審査にあたりますと，今日の世界の教育放送界の現状を展望することができるからであります。

どれ程多くの国々が教育目的のためにテレビジョンを利用してい

るか，またどんなに沢山の利用法があるかを知って，私は非常に勇気づけられました。しかもこのようなことを知ることによって，各国の教育的必要性の姿，あるいは，少なくともそのような教育的必要性が現在どう評価されているかを理解できるのです。

私達は教育テレビジョンが余暇の利用のために，新しい興味をよびおこすためにどのように利用されているかを見て来ました。また，視聴者の要求に応じてユニークな素材を与え教授法の水準を向上させる方法や，教師のみならず医師にも最新の開発を紹介して，これに追いついて行けるよう質の向上をはかる方法，さらに身体障害者のおかれている環境を改良するためどう使われているか等々をみてまいりました。

しかしテレビジョンの最も意義ある利用法は，恐らくテレビジョンがなければ教育を全然受けられないか，あるいは，極めてお粗末な教育しか受けられない人々にテレビジョンを使って教育の機会を施すことだと私は思います。このような国際的な概観において，最も印象深かったのは，この分野での開発途上の国々の努力をみたことでした。ご存知のように，現在，世界各地で目覚ましい運動が進行しつつあります。例えばコロンビアやアルジェリアの文盲追放運動，インドやコート・ジボアールの農業開発運動，ガーナの健康増進運動等がそれで，これらの運動の感銘的な例が私達が審査したもののなかに幾かありました。

工業化の進んだ国では，教育テレビジョンは贅沢品であるかも知れませんが，先に述べた開発途上の国では贅沢品でなくむしろ必需品と言えましょう。これらの国々では，教育テレビジョンが教育の基礎的な仕事を成し遂げているのですが，この基礎的な仕事は遅かれ早かれ先進国でも実行に移されることになるでしょうが，恐らくその分野は別のものとなるでしょう。このような観点からいいますと，ある開発途上の国が先進国より遙かに進んでいると言えます。

さきほど，世界各国から送られて来た全番組を視聴するのは大変興味ある仕事だと申しあげました。勿論，これは，番組素材そのものが面白いためでもありますが，そればかりではありません。このような大きな仕事は，この美しい，心さわやかな環境，即ち広島という素晴らしい都市でなかったならば成し遂げられなかっただろうと思うのです。私達審査委員は約10年前の有名なフランス映画の題名「ヒロシマ——モナムール」とともに広島のことを思い出すことと確信しております。

*　　*　　*　　*

（審査委員長）

最後にひと言だけつけ加えさせていただきます。この日本賞コンクールは，ラジオ・テレビジョン教育放送の向上・発展に少なからず貢献しているのでありますが，その貢献度というものを，日本の皆さま方のなかで，私達海外から来たものほどに容易に認めることが出来るかたは，恐らく数少ないことでしょう。NHKが5年前に，世界各国の教育放送番組の向上と各国間の相互理解の増進を目的として，国際コンクールを創設したことは，極めて意義あることだといえます。また，このコンクールの運営に実際に従事したものでなければ，NHKがこのコンクール運営にあたって行なう綿密な計画と諸々の業務を真に評価し得えないと思います。審査委員一同に代り，NHKの公共精神に満ちた先見の明ある活動に対し敬意を表するとともに，日本賞事務局の方々がコンクール運営に示された熱意と私達審査委員およびオブザーバーにさし向けられましたご配慮に対し感謝の意を表するものであります。

Domo arigato gozaimashita !

# 受賞番組解説

# 受賞番組解説

## ラジオ

**日本賞**

題　　名　惑星「メディア」の事件
部　　門　ラジオ学校放送中等教育番組部門
制作機関　ブルガリア国営放送
使用語　ブルガリア語
番組時間　19分
制作者　ゲオルギ・アブラモフ

（梗　概）

中学生のためのやさしい理科教室の中の1本で，我々人類の生活に最も必要である酸素をとりあげ，科学空想物語にドラマタイズして，その性質・組成・特徴などをわかりやすく説明している。

事件は21世紀の宇宙のはるか彼方にある惑星「メディア」で起った。そこには宇宙研究家ヘリヤンがひとりロボットを使って研究している。研究テーマは酸素。そこへ地球から交替要員のフェルンの1隊がロケットで到着するが，ヘリヤンは行方不明になっている。電子装置を使った大捜索の結果，やがて彼はある洞くつの中で液体空気の湖の中に水没しているのが発見され，無事助け出される。遭難の原因は，液体空気は唯一の磁性をもっている液体であることを忘れていたため，ヘリヤンの探検車のすべての鉄の部分に液体空気が吸いついてその機能をまひさせてしまったためと判明した。

このシリーズは，中学生に，すでに学習した各科目をより深く理解させるために毎月一度放送しているものである。

連絡先　Mr. Venko Kraichev
Chief of Foreign Relations Department, Bulgarian Radio and Television
Boul. Dr. Tzankov 4, Sofia, Bulgaria

**文部大臣賞**

題　　名　海におちたピアノ
部　　門　ラジオ幼稚園，保育所向け教育放送番組部門
制作機関　日本放送協会
使用語　日本語
番組時間　15分
制作者　山崎　誠
演出者　二宮睦郎

（梗　概）

世界の名作童話や日本の昔話を，佐野浅夫さんが語る幼児向けのラジオ番組「お話でてこい」シリーズの一つとして放送されたものである。「海におちたピアノ」はストリンドベリの原作を，ラジオの特性を生かし，音楽や効果音を背景にして再現したもの。

小さな港に近い海の底，魚達が楽しそうに泳ぎ回っていた。ある日一雙の船がその港に着いた。船荷がおろされる時，一台のピアノが海中におちてしまう。やがてピアノは波にゆられて美しい調べを奏でる。その音が一体何なのか。いぶかしく思いながらも魚達はこわごわピアノの中に入りこみ，やがてその中で楽しく遊ぶ。ピアノは少しづつこわれていった。ピアノは静かによこたわっていたが，

やがて，秋の嵐におそわれバラバラになってしまう。ピアノがころがっていた所に魚達が再び集まってきた頃には，もうそこには何にも残っていなかった。折から，海中のかなたからあのなつかしい調べが魚達にきこえてくるのであった。

いろいろな，世界の名作や日本の昔話などを美しく再現して子ども達に聞かせる名作鑑賞番組である。

連絡先　東京都渋谷区神南2—2—1
日本放送協会教育局長
山　崎　　誠

**広島市長賞**

題　　名　歌劇における歌唱の演劇的機能
部　　門　成人教育放送番組部門
制作機関　リバーサイドラジオ WRVR
使用語　英語
番組時間　30分
制作者　ウォルター・シェパード

（梗　概）

アメリカの有名な音楽評論家で，メトロポリタン歌劇場の解説者であるボリス・ゴルドフスキー氏が，歌劇における演劇的な表現の問題についてモーツァルトやヴェルディなどの歌劇の中から例を引きながら説明していく番組。人間の声の微妙さ，表現の幅の広さを基盤とし，ドラマのストーリー（筋）を歌唱の中においてどのように表現していくか，そのいろいろな方法について実例によって解説する。

歌劇の中の歌唱に要求される2つの大きな機能は，(1)ドラマの筋がわかるように物語を歌にのせて説明すること，(2)芸術として人に感動を与えるような音楽であること，であるが，この一見相反する要素を作曲家はどのように工夫して両者を成立させるように作曲するか，又，歌手は実際に音楽を表現していく場合に，どのように歌唱の中におり込んでいくか，といった問題をわかりやすく説明している。

連絡先　Mr. Walter P. Sheppard
General Manager, Riverside Radio WRVR, 490 Riverside Drive, New York, New York 10027, U. S. A.

**特　別　賞**

題　　名　かや琴
部　　門　ラジオ学校放送初等教育番組部門
制作機関　韓国国営放送
使用語　韓国語
番組時間　16分
制作者　パ・ギン・チェ

（梗　概）

音楽教室シリーズ「韓国の楽器」のなかの一つ。伝統的な楽器「かや琴」についてその由来，音階，演奏法などをドラマ形式によって説明し，自国の文化遺産として伝わる伝統楽器のもつ意義を理解させ親しみをもたせようとするものである。

単純なドラマ形式のなかにもかや琴に関するあらゆる説明がなされており，面白く教えている。

連絡先　Mr. Kyung Moh Hong
Director General, Korean Central Broadcasting Service
8, Ye-Iang Dong, Seoul, Korea

**特　別　賞**

題　　名　種の発芽
部　　門　ラジオ学校放送中等教育番組部門
制作機関　マラウイ放送協会
使用語　英語
番組時間　15分15秒
制作者　C・J・チャプリン

（梗　概）

この番組は通信教育生を対象にした生物のシリーズのなかの一つで，生物の生成過程や習性などを身じかにあるものをとおうして丹

念に観察する習慣をつけさせようとするものである。

長い寒い冬を地中に埋って過ごした種が，春の到来と共に雷の音で目を覚し，乾いていた地面に降って来た雨をたっぷり吸い込んで発芽していく過程をドラマ形式で，興味深く説明している。ドラマ化することによって種の発芽の様子を生き生きと面白くさせているが，この種のプロセスをラジオドラマで取扱うのはかなり困難なことであり，ドラマそのものがかなり複雑化し，ある種の問題点を提起しているような番組でもある。

連絡先　Mr. George F. Rowland
Head of Schools Broadcasting, Malawi Schools Broadcasting Unit, P. O. Box 283, Blantyre, Malawi

**特　別　賞**

題　　名　綿花の栽培
部　　門　ラジオ成人教育放送番組部門
制作機関　中央アフリカ国営放送
使用語　仏語，サンゴ語
番組時間　30分
制作者　ホアキン・ダ・スイルバ

（梗　概）

幅広い年令層の綿花耕作者に対する技術指導と勤労意欲を起させることをねらった番組である。

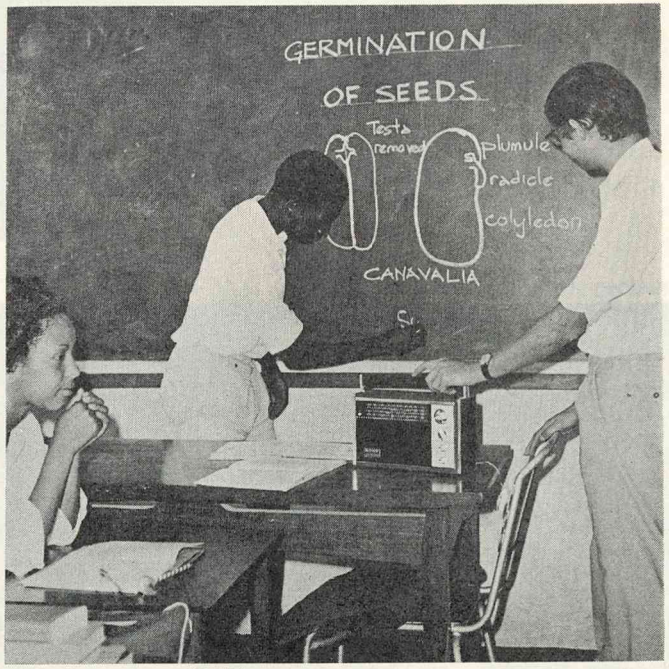
綿花の開花から始まって害虫駆除，収穫，売り渡しまでを，勤勉なバジンガと怠け者のボンゴを対照的に登場させ，多くの収穫を得て念願の牛を買うことができたバジンガの喜びで話を結んでいる。

連絡先　M. Joaquim Da Silva
Directeur des Programmes, Radiocentrafrique, B. P. 940, Bangui, Republique Centrafricaine

**審査委員賞**

題　　名　7つの音符の冒険
部　　門　ラジオ学校放送初等教育番組部門
制作機関　ソビエト国営放送

「海におちたピアノ」日本放送協会

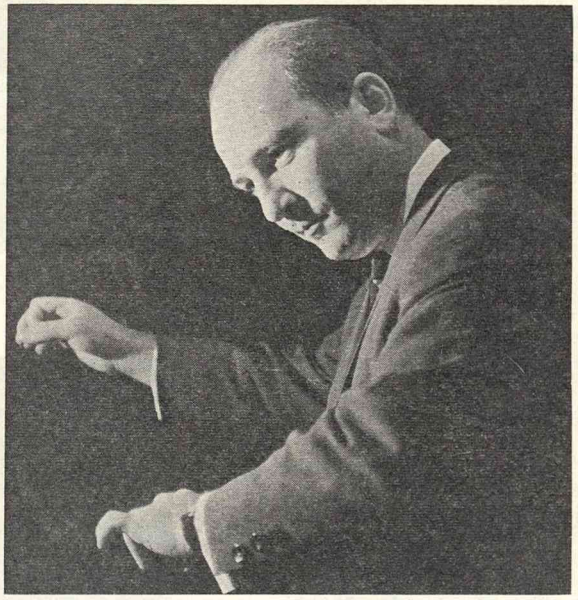


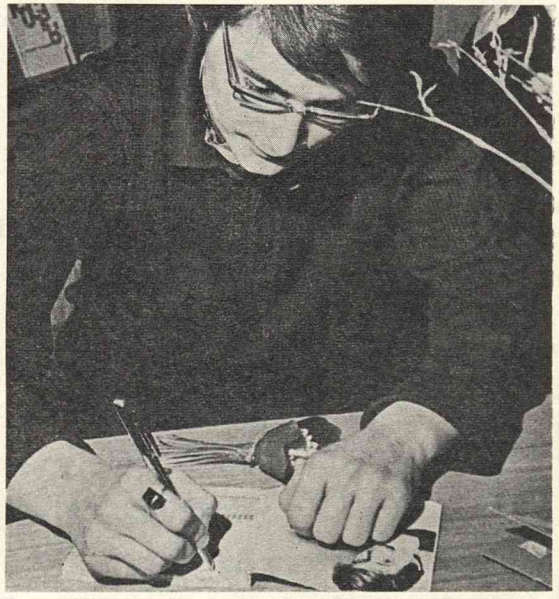

「種子の発芽」マラウィ放送協会

「絵画教室〜森の印象〜」オランダ・テレビ放送連盟

「かや琴」韓国国営放送

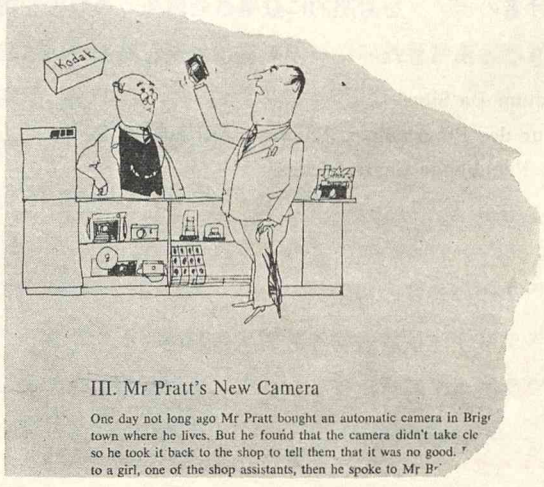
「7つの音符の冒険」の作曲者
ソビエト国営放送





「7つの音符の冒険」の作者

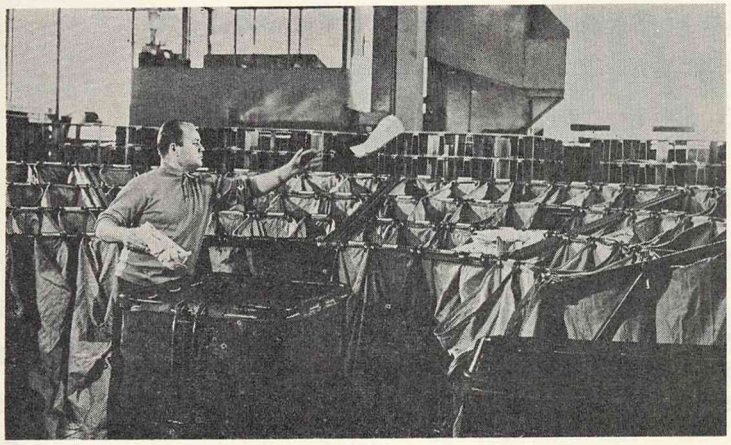
「綿花の栽培」中央アフリカ国営放送



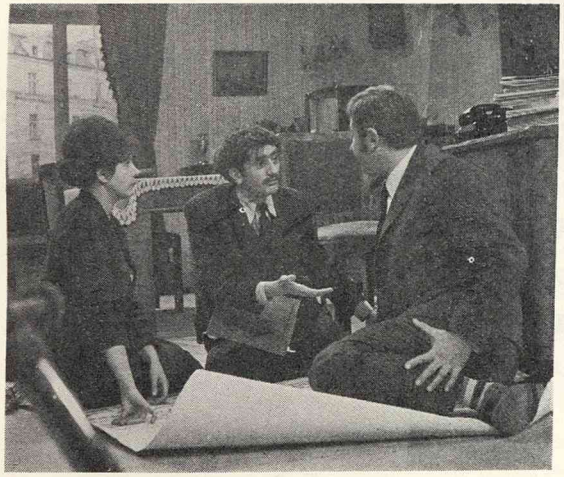

「英語教室〜わかりましたか〜」
スウェーデン放送協会

「歌劇における歌唱の演劇的機能」の解説者
リバーサイド・ラジオ（アメリカ）

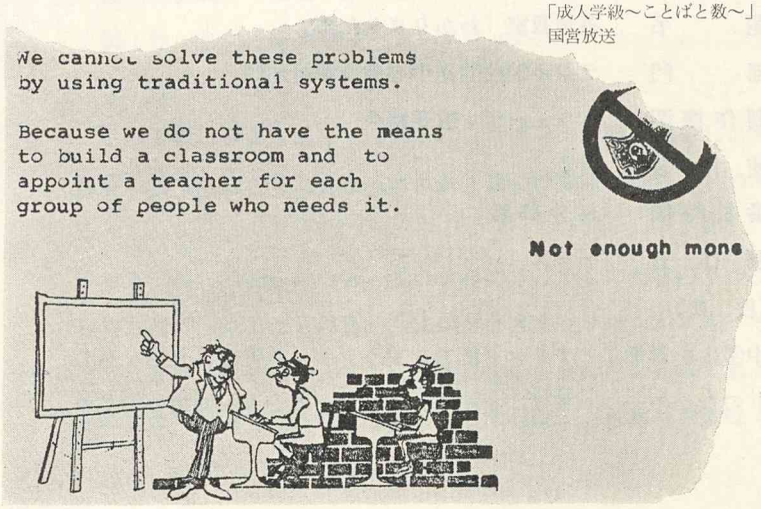
「絵画教室〜森の印象〜」の制作者
オランダ・テレビ放送連盟



「手紙の旅」ベルギー
（フランス語）放送協会



「テレビで学ぶアルファベット」ユーゴスラビア国営放送




「成人学級〜ことばと数〜」コロンビア
国営放送

使　用　語　　ロシア語

番組時間　　26分16秒

（梗　概）

9才から12才までの児童を対象に，音楽に親しみ，音楽を聞く喜びを教え，同時に音楽用語を自然に覚えさせ，また，メロディの豊かさや変化を鑑賞させることをねらいとしている。

ラルヤという少女の本の中に住んでいる7つの音符（ド・レ・ミ……）を中心にストーリーが展開する。ある夏休み，少女が旅行に出かけたため，彼らは家で退くつしてしまう。そこで小さな主人を探しに本からぬけ出し，猫，すずめ，クラビコードのおじいさんに会ってその生活を知るが，そのうち，7つの音符は離れ離れになり道に迷ってしまう。音符達はばらばらでは何も出来ないのだ。そのうち，ある少年に出会い，ピアノで音階を弾いてもらうと7つの仲間は集まって，元の7つの音符となり，楽しく音楽を演奏するという話。

面白いストーリーの中で知らず知らずのうちに音楽の楽しさ，音符の重要さを教える番組である。

連絡先　Mr. F. Kuznetsov
Deputy Head of International Exchange, Committee for Broadcasting and Television under the Council of Ministers of the U.S.S.R., Moscow, Pyatnitskaya 25, U.S.S.R.

**審査委員賞**

題　　名　　英語教室「わかりましたか」

部　　門　　ラジオ学校放送中等教育番組部門

制作機関　　スウェーデン放送協会

使　用　語　　英語

番組時間　　14分45秒

制　作　者　　デニス・ゴドベッド

（梗　概）

中学生を対象にヒアリング能力を養うシリーズ番組「英語を楽しく」のなかの一つ。まず，イギリスのラジオのショー番組の一部を聞かせるが，番組のなかの話し言葉がものすごく早口でとても理解できない。そこで，とにかくネイティブ・スピーカーの話し言葉に慣れさせるために，あるまとまりのある内容をもったスケッチへと番組は展開して行く。プラッツ氏がカメラが悪いと店に文句を言いに来て，女店員，男性の店員，マネージャーと次々に同じことを，しかも，次第に速く話すように構成されている。

かなり水準の高いもので，実に気が利いていて面白い。

連絡先　Mr. Rolf Lundgren
Head of Educational Broadcasting, Sveriges Radio, 105 10 Stockholm, Sweden

## テ　レ　ビ

**日　本　賞**

題　　名　　新しい数学「対応」

部　　門　　テレビ学校放送中等教育部門

制作機関　　日本放送協会

使　用　語　　日本語

番組時間　　15分

制　作　者　　山崎　誠

演　出　者　　西内久典

（梗　概）

いま多くの国々で数学教育の内容の革新が叫ばれている。そのひとつが初等教育の数学への集合論的考え方の導入である。このような数学教育界の動向は，今回の日本賞コンクールにも反映されていた。テレビ部門で数学関係の出品番組は全部で7本あり，そのうちの3本が集合の考え方の導入に関するものであった。

この番組は，単に原理の説明で終ることなく，習得した概念をもって問題を解くところまで，テレビの特性を生かしながら展開して

いる。

具体的には，荷物の預り証と荷物の荷札の対応，飛行機の座席番号と予約，台帳の上の番号との対応によって，混乱がないようになっていることを教える。このような対応を数学の術語では，集合と集合との間の１対１対応という。もし２つの集合の間に１対１対応が成立すれば，その集合に含まれているものの数は等しい。

この定理をボートのこぎ手とオールの数，卵と卵カップなどを通じて，明確に理解させる。そのうえで「自然数全体」と「偶数全体」とでは，どちらが大きいかに答えさせる。

連絡先　東京都渋谷区神南 2—2—1
日本放送協会教育局長
山　崎　　誠

**郵政大臣賞**

| | |
|---|---|
| 題　　名 | 絵画教室「森の印象」 |
| 部　　門 | テレビ学校放送初等教育番組部門 |
| 制作機関 | オランダ・テレビ放送連盟 |
| 使用語 | オランダ語 |
| 番組時間 | 19分20秒 |
| 制作者 | P・G・バレンツ |

（梗　概）

小学校高学年対象のペン画指導の番組で，こどもたちが身のまわりのものをよく観察し，その印象をもとにペン画をしあげていく過程をこまかく解説している。

この番組では，こどもたちと晴れた日の森にでかけて行き，木の幹や木の葉の茂みなどを見てその印象から構図を考えさせ，教室で画を完成していく。

こどもたちが身のまわりのものから画の題材を見つけることはむづかしいが，この番組では画をかく観察視点を実際場面で巧みに紹介し，こどもたちに絵にとりくむ意欲をたかめている点を審査員が高く評価している。

とくに番組冒頭では前回でとりあげたテーマに対する視聴生徒からの作品を集めてその一部を紹介し，簡単な批評を加えて番組をとおして視聴者とのつながりをはかっている。

連絡先　Mr. Kl. Sierksma
Staff Officer
Film Department, Nederlandse Omroep Stichting, P. O. B. 10
Hilversum, The Netherlands

**阿　部　賞**

| | |
|---|---|
| 題　　名 | 音楽の世界　リズム（I） |
| 部　　門 | テレビ成人教育放送番組部門 |
| 制作機関 | フランス放送協会 |
| 使用語 | フランス語 |
| 番組時間 | 35分 |
| 制作者 | オリビエ・ド・リニャク |

（梗　概）

この番組は音楽を愛好する人々に，音楽をより深く理解しながら鑑賞できるようにするシリーズ番組「音楽の知識」の中の一つである。

走る汽車，教会の鐘の音，光のきらめき，そして四季のうつりかわりなど，わたしたちのまわりにはさまざまなリズムがあり，そのようなリズムに慰められて毎日の生活をいとなんでいるのであるが，そのことにはなかなか注意を払おうとはしない。一体リズムは人間

の生活にどのようなかかわりあいをもっているのであろうか。また人間はこれまでにリズムを生活のなかにどのように取り入れ文化を高めてきたのだろうか。

この番組では，フランスの高名な音楽家モーリス・ルルー自身が，フランス放送協会フィルハーモニック・オーケストラを指揮しながら，解説者となってリズムの発見，リズムと韻律とのちがい，リズムの本質，リズムとメロディーの関係，グレゴリオ聖歌から現代音楽にいたるまでの歴史の中でのリズムの変遷など非常に個性的な見解で語っている。

解説・構成ともによく，洗練された音楽番組となっている。

連絡先　Mme. Ollivier de Lignac
Chargé de mission auprès du Directeur, ORTF-Office de Radio-diffusion-Télévision Française
116 Avenue du Président Kennedy, Paris 16e, France

**ユニセフ賞**

題　　名　新しい生活
部　　門　テレビ成人教育放送番組部門
制作機関　イギリス放送協会
使用語　英語
番組時間　28分
制作者　フェリシティ・キンロス
（梗　概）

この番組は，英本国に移住して新しく学校生活をはじめる子どもたちの受け入れ方を解説したものであるが，その問題点を通して，開発途上国の子どもの現状を理解させることに成功している。

番組でとりあげているのは，これらの移民の中で数も多く，宗教，風俗，習慣，ことばなどの相異から問題になりやすいインドのシーク族の5人のこどもたちである。

大ロンドン地区のある小学校に5人が転校して来てクラスに紹介される。英語を全くはなさず，つい昨日までパンジャブ州の村で生活していた5人には，新しい生活はたいへんな精神的重圧である。

パンジャブでの貧しい水道もない生活とロンドンでの学校生活とをフラッシュ・バック手法により対比させて，その精神的重圧をえがき，これらのこどもに教える場合の注意や教育法にまで及んでいる。

連絡先　Mr. G. del Strother
Head of Productions Television Enterprises
BBC-British Broadcasting Corporation
Broadcasting House, London W. 1, U. K.

**特別賞**

題　　名　成人学級「ことばと数」
部　　門　テレビ成人教育放送番組部門
制作機関　コロンビア国営放送
使用語　スペイン語
番組時間　59分25秒
制作者　エクトール・エスカヨン
演出者　ホセ・ガラット
（梗　概）

15才以上の文盲を対象に，月曜から金曜まで毎日放送されるもので，読み書きの練習，基礎的な算数，市民教育など日常生活に必要な知識を教えながら，歌や踊りなどレクリエーションを織り込んでいくワイド番組である。

連絡先　Dra. Pilar Santamaría de Reyes
Directora, Television Educativa, Instituto Nacional de Radio y Televisión, Inravisión, Via El Dorado, CAN, Bogotá, Colombia

**特別賞**

題　　名　稲作講座「田植」
部　　門　テレビ成人教育放送番組部門
制作機関　コート・ジボアール国営放送
使用語　フランス語
番組時間　13分51秒
制作者　クワム・エド
（梗　概）

いまだに従来の稲作を行なっているコート・ジボアールの農民に，田植と田植後の水のかけ方など，稲作管理の仕方について細かく現代技術を教える番組で，週2回放送されている稲作改善のためのシリーズ番組の一つである。

最後にもう一度，復習の意味で要点の解説があり，わかりやすく工夫してある番組である。

連絡先　Directeur des Programmes, Radiodiffusion Télévision Ivoirienne
Boîte Postale 2261, Abidjan, Côte d'Ivoire

**特　別　賞**

題　　名　テレビで学ぶアルファベット
部　　門　テレビ成人教育放送番組部門
制作機関　ユーゴスラビア国営放送
使用語　セルボ・クロアチア語
番組時間　30分20秒
制作者　オリベラ・パビック
演出者　ブク・バビック

（梗　概）

文盲を対象に，読み書きの必要性を面白く解説し，日常生活の中で文字に対する興味，意欲を起させようとするもの。

文盲の婦人キカ・ビビックが夫の死後，都市に出てきて，駅に着いたとたん，文盲であることがいかに不便かを痛感する。キカのいとこ夫婦が彼女に文字の読み方を教えるところから展開していく。

連絡先　Mr. Vuk Babić
Beograd, Ognjena Price 20, Yugoslavia

**審査委員賞**

題　　名　手紙の旅
部　　門　テレビ学校放送初等教育番組部門
制作機関　ベルギー（フランス語）放送協会
使用語　フランス語
番組時間　22分30秒
制作者　レオン・ダコ，ベティ・ファン・ベル
演出者　ジャン・ゴベール

（梗　概）

ポストに入れられた手紙が，中央郵便局に集められ，機械によって宛先別にスピーディに分けられ，確実に受取人に届くという過程を，つまり，現在の郵便のしくみを，8～9才の児童向けに易しく解説しているもの。この番組のねらいは，一通の手紙が，多くの人人の骨折りがなくては，こんなに速く簡単には届かないのだということを紹介するところにある。

連絡先　M. Pierre Deschamps, Chef de Production
RTB-Radiodiffusion-Télévision Belge
Cité de la Radio-Télévision, Place des Carabiniers, Bruxelles 4
Belgium

**審査委員賞**

題　　名　心臓移植～その法的側面～
部　　門　テレビ成人教育放送番組部門
制作機関　WGN コンチネンタル放送会社
使用語　英語
番組時間　28分53秒
制作者　ドン・ウィリング
演出者　マイク・フィッシャー，ドン・ウィリング

（梗　概）

この番組は，シカゴで最も古い学校教育セミナーをテレビで見せるもので，シリーズ中13回目に当る。今回は，現在関心を集めている心臓移植について，その法的問題点を専門家を招いて考える番組である。

連絡先　Mr. E. Boyd Seghers, Jr.
Chairman, Award Committee
WGN Continental Broadcasting Company, 2501 Bradley Place, Chicago, Illinois 60618, U. S. A.

# 佳作番組解説

## ラジオ

題　　名　「音」について
部　　門　ラジオ学校放送中等教育番組部門
制作機関　スウェーデン放送協会
使用語　英語
番組時間　19分45秒
制作者　フランク・エリクソン

中学生を対象に音をめぐる問題を音響学的見地から，やさしく解説するもので，表やグラフなどを示すスライド5枚を使用して説明するラジオビジョン番組である。人間の耳はどの範囲まで聞こえるか，また楽器，人声の音域，周波数と発音体の関係などを理解させる。よく構成された好番組である。

連絡先　Mr. Rolf Lundgren
Head of Educational Broadcasting, Sveriges Radio
105 10 Stockholm, Sweden

題　　名　ベートーベンの第9交響曲
部　　門　ラジオ成人教育放送番組部門
制作機関　ルーマニア国営放送
使用語　ルーマニア語
番組時間　46分20秒

19世紀の大音楽家ベートーベンの一生を顧みながら，彼の遺書を中心に精神的苦悩の遍歴，特に致命的な耳が聞こえなくなってしまった絶望の中から立ち上る姿を描く。暗く悲嘆の時代から，遂には宗教的な境地にまで達し第9交響曲を完成するに到る過程を述べるもの。後半は第9交響曲の第1～4楽章までの音楽を聞かせながら，彼の哲学的な高い精神が如何に表現されているかを解説する。

構成が素晴しく，音楽の劇的効果と共に非常に印象深い質の高い番組である。

連絡先　Mr. Victor Popa
Editor in Chief
Rumanian Radio and Television, 62, Nuferilor Street, Bucharest
Rumania

題　　名　音を利用した漁法
部　　門　ラジオ成人教育放送番組部門
制作機関　日本放送協会
使用語　日本語
番組時間　15分30秒
制作者　谷津精衛

日曜を除く毎日，放送されてる漁民対象の「漁民のみなさんへ」のシリーズ番組の中から，新しい水産技術をとり上げて紹介する「技術のしおり」の一つである。音を利用して魚をとったり，養魚場で飼っている魚をコントロールする方法などを様々な音を織り込みながら，魚の博士が語るもの。ストレートトークという最も素朴な番組型式をとるが，様々な音が豊富に用いられているため，固くなく，楽しい番組になっている。

連絡先　東京京渋谷区神南2—2—1
日本放送協会教育局長
山崎　誠

## テレビ

題　　名　英語教室「モンタージュ写真」
部　　門　テレビ学校放送初等教育番組部門
制作機関　イスラエル教育テレビセンター
使用語　英語
番組時間　19分45秒
制作者　シェイラ・アッカーマン

演　出　者　　ダニア・アビール

12～13才向けの英語講座で，普通名詞の所有格をわかりやすい寸劇で教えようという番組である。寸劇のあらすじは，袋を持ってベンチに座っていた少女が，一寸ベンチを離れたすきに隣りに座っていた見知らぬ男に袋を持ち去られる。帰ってきた少女はあわてて交番に届けでて，そこで犯人の人相をいうというもの。こうしてモンタージュ写真が出来て行く過程で，簡単ないろいろな普通名詞の所有格を教える。言葉も簡単で劇もわかりやすく面白くできているので楽しく言葉を憶えることができる番組である。

連絡先　Mr. Arie Shoval
Director General
Instructional Television Center, Ministry of Education and Culture, 14, Klausner Street, Tel-Aviv, Israel

題　　名　**二つの目**
部　　門　テレビ学校放送初等教育番組部門
制作機関　スイス放送協会
使用語　フランス語
番組時間　30分55秒
制作者　ピエール・ギスリング
演出者　ロベール・ルダン

10才の子ども向けに月に一度放送される番組で，現代社会における「視る」ことの真の意味を理解させようとしている。

(1) 人びとは自分が物を見ているということを普段は知覚していない。

(2) 一人として同じものを同じように見ているのではない。

この2点を子どもたちにわかりやすく，楽しく画面で説明しょうとしている。

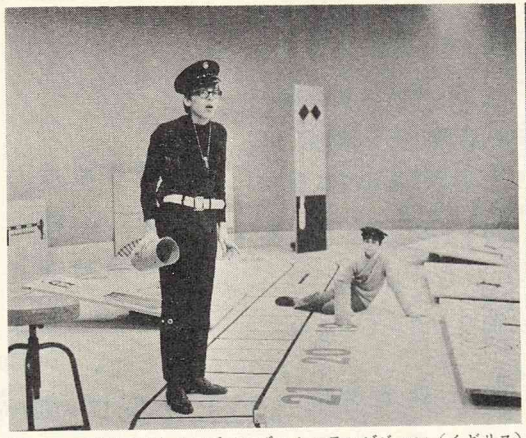
ただ，説明は言葉だけで，図示がないので少しわかりにくい感がある。

連絡先　M. Gian Carlo Pellandini
Chef du Département des Relations Internationales
Société Suisse de Radiodiffusion et Télévision
Giacomettistrasse 1, 3000 Berne, Switzerland

題　　名　**ドキュメンタリーと真実**
部　　門　テレビ学校放送中等教育番組部門
制作機関　スウェーデン放送協会
使用語　英・独・スウェーデン語
番組時間　24分57秒
制作者　ベント・リニエ

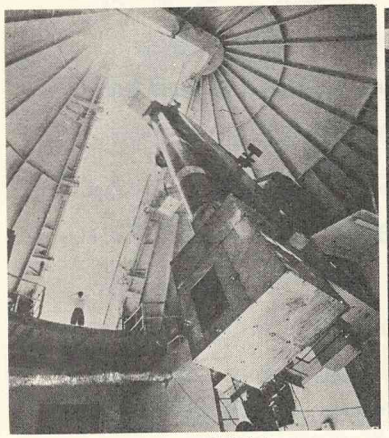
ドキュメンタリー・フィルムの構成方法とその影響を3部分に分けて，17～18才向けに教えている。その例としてニュールンベルグで行なわれたナチス・ドイツの行事を記録したものの一部を見せたりする。

連絡先　Mr. Rolf Lundgren
Head of Educational Broadcasting, Television, Sveriges Radio
105 10, Stockholm, Sweden



「オール・アボード」インデペンデント・テレビジョン（イギリス）

「テレビろう教室〜レストランにて〜」オランダ放送連盟



「太陽観測」タイムライフ放送会社

「土地の侵食作用」コロンビア国営放送

「ドガ」スイス放送協会

「ともに生きよう」マルタ放送協会

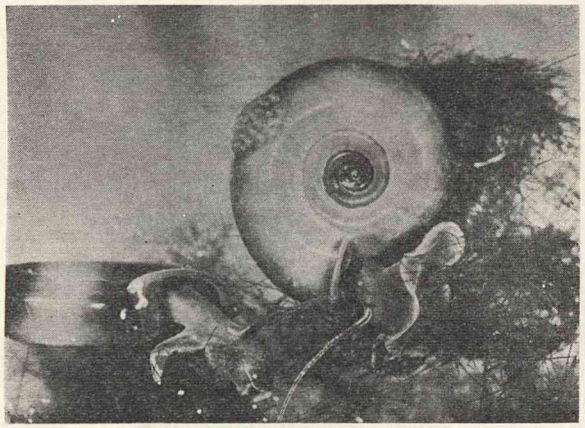
「お空のお星さま」イスラエル国営放送

「海中の生物」北ドイツ放送協会

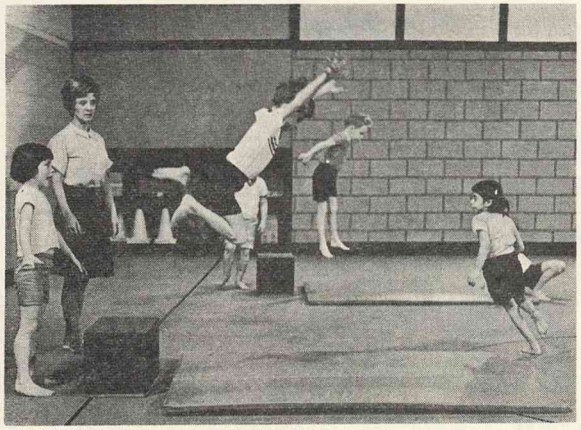
「生と死と」インデペンデント・テレビジョン（イギリス）

「これがわたしの最後」ノルウェー放送協会

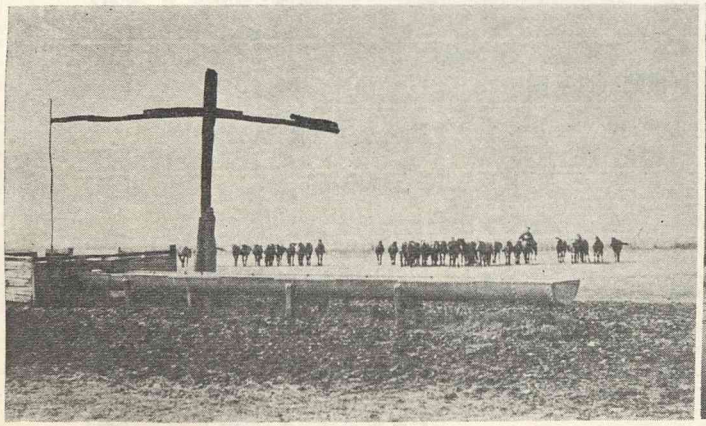
「ウィンポール街のバレット家」シンガポール教育テレビ放送



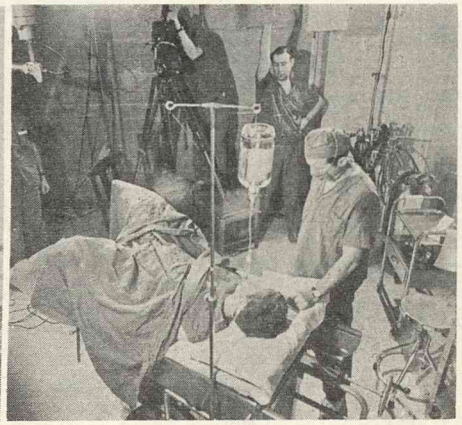
「水が媒介する伝染病」ガーナ放送協会



「曲げつころびつ」アメリカ教育テレビジョン



「ボードバギー平原」フィンランド放送協会



「硬膜外麻酔法」 CFPL 放送会社（カナダ）

「絵入りの手紙」ポーランド放送協会

# 参加番組一覧

〔注〕（初）……初等部門
（中）……中等部門
（成）……成人部門
地域別参加機関名50音順
＊印ははじめて参加した機関

**アジア　15機関（12ヵ国）**

インド　インド国営放送（AIR）
テレビ：「対流」（中）
「テレビ英語教室」（中）
「水牛酪農法」（成）

インドネシア　インドネシア国営ラジオ放送（RRI）
ラジオ：「ココナッツ」（初）
「インドネシアの農作改良」（成）
インドネシア国営テレビ放送（TVRI）*
テレビ：「あやつり人形の神秘」（成）

韓　国　韓国国営放送（KBS）
ラジオ：「かや琴」（初）
「マミー」（成）
テレビ：「おめんつくり」（初）

シンガポール　シンガポール教育テレビ放送
テレビ：「生命の不思議」（中）
「獅子舞い」（中）
「ウィンポール街のバレット家　第3部」（中）

セイロン　セイロン国営放送
ラジオ：「道化師ラーマンと女王さま」（初）
「英語教室 G.C.E. クラス」（中）

タ　イ　バンコック市営放送
テレビ：「ワット・ポー寺院にて」（初）

中華民国　中華民国国立教育広播電台（NETS）
テレビ：「磁石の力」（初）
中華民国放送協会（BCC）
ラジオ：「名誉ある楽隊」（初）

日　本　株式会社日本教育テレビ（NET）
テレビ：「一平と霧の神」（初）
日本放送協会（NHK）
ラジオ：「海におちたピアノ」（初）
「音を利用した漁法」（成）
テレビ：「新しい数学～対応～」（中）
「通信高校講座　物理A～落体の運動～」（中）
「いけ花」（成）

ネパール　ネパール国営放送*
ラジオ：「ばかなライオンのお話」（初）

パキスタン　パキスタン国営放送
ラジオ：「へび（毒へび）」（中）
「農民の広場」（成）

ベトナム　南ベトナム国営放送（VTVN）
ラジオ：「収穫祭と月」（初）

マレーシア　マレーシア国営放送
ラジオ：「錫をみつけた像」（初）
「これからの農村開発」（成）

**アフリカ　11機関（11ヵ国）**

アルジェリア　アルジェリア国営放送（RTA）*
テレビ：「ことばの話」（初）

ウガンダ　ウガンダ国営放送
ラジオ：「とらとけものの戦い」（初）

ガーナ　ガーナ放送協会
テレビ：「歴史劇～ガーナの昔～」（初）
「水が媒介する伝染病」（中）

ケニア　ケニア国営放送
ラジオ:「家庭の食事」（初）
「シーザー　ルビコン河を渡る」（中）

コート・ジボアール　コート・ジボアール国営放送*
テレビ:「稲作講座～田植～」（成）
「酋長ケイタ」物語（成）

スワジランド　スワジランド国営放送
ラジオ:「私たちもやってくる」（初）

タンザニア　タンザニア放送協会*
ラジオ:「タンガニイカ～きょうこのごろ～」（初）

中央アフリカ　中央アフリカ国営放送*
ラジオ:「綿花の栽培」（成）

チュニジア　チュニジア国営放送（RTT）
テレビ:「長方形とその面積」（成）
「地理　第15課」（成）
「Z」という字を覚えましょう（成）

南アフリカ　南アフリカ放送協会（SABC）
ラジオ:「西ドリフォンテン金鉱を訪ねて」（初）

マラウィ　マラウィ放送協会
ラジオ:「とうもろこしは最後まで使いましょう」（初）
「種の発芽」（中）

**北アメリカ　16機関（2ヵ国）**

アメリカ合衆国　アメリカ教育テレビジョン（NET）
テレビ:「曲げつころびつ」（初）
「アウトサイダー」（中）

ウィスコンシン大学 WHA-AM-FM*
ラジオ:「誇りと偏見である アメリカの伝統」（成）

KENS テレビ*
テレビ:「ことばの教室」（初）

タイムライフ放送会社*
テレビ:「昆虫の生命力」（成）
「太陽観測」（成）

WGN コンチネンタル放送会社*
ラジオ:「内線 720」
テレビ:「心臓移植～その法的側面～」（成）

WGBH 教育財団
テレビ:「ある設計思想」（中）

ナショナル放送会社（NBC）
テレビ:「ジョージ・ワシントン」（中）

ニューヨーク州立大学教育放送
テレビ: タイプライター入門（中）

ペンシルバニア州立大学*
テレビ:「比べてみよう」（初）

リバーサイドラジオ WRVR
ラジオ:「歌劇における歌唱の演劇的機能」（成）

カナダ　アルバータ州立視聴覚教育放送
テレビ:「樅の木」（初）

オンタリオ教育省教育テレビジョン
テレビ:「リチャードⅡ世」（中）

カナダ放送協会（CBC）
ラジオ:「リズム・パターン」（初）
「フランソワ・ビヨンとその時代」（中）
テレビ:「レーザー光線」（中）

CFPL 放送会社
西オンタリオ大学医学部 } 共同参加*

テレビ:「硬膜外麻酔法」 (成)

首都教育テレビ連盟 (トロント)*

テレビ:「彼らみずからのもの」 (中)

マクマスター大学*

テレビ:「心理テスト」 (成)

**西ヨーロッパ 21機関 (15ヵ国)**

アイルランド　アイルランド放送協会 (RTE)

テレビ:「ある詩人の肖像
～イエーツ～」(中)

イギリス　イギリス放送協会 (BBC)

ラジオ:「クリスマス」 (初)

「サブトピア」 (中)

「隣人を助ける
～2つのケース～」(成)

テレビ:「お城を見よう」 (初)

「赤ちゃん誕生」 (成)

「新しい生活」 (成)

インデペンデント・テレビジョン (ITCA)

テレビ:「オール・アボード」 (初)

「生と死と」 (中)

「ゴルフ講座　最初の姿勢」(成)

イタリア　イタリア放送協会 (RAI)

テレビ:「タルクイニアの墳墓」 (中)

「ボルタ博士」 (成)

オーストリア　オーストリア放送協会 (ORF)

テレビ:「彫刻鑑賞」 (中)

オランダ　オランダ放送連盟 (NOS)

テレビ:「絵画教室～森の印象～」 (初)

「第二の声」 (成)

「テレビろう教室
～レストランにて～」(成)

スイス　スイス放送協会 (SSR)

ラジオ:「魔法使いの弟子」 (初)

テレビ:「二つの目」 (初)

「ドガ」 (初)

スウェーデン　スウェーデン放送協会 (SR)

ラジオ:「音楽教室3年生(歌と遊び)」(初)

英語教室「わかりましたか」(中)

「音」について (中)

テレビ:「自然の造形」 (初)

「ドキュメンタリーと真実」 (中)

「集合の考え」 (成)

デンマーク　デンマーク放送協会 (DR)

ラジオ:「やさしい
コンピューターの話」(中)

テレビ:「鉄時代の生活」 (初)

「データ～現代社会のかぎ～」(中)

西ドイツ　北ドイツ放送協会 (NDR)

ラジオ:「ピアノの調律」 (初)

テレビ:「海中の生物」 (成)

西部ドイツ放送協会 (WDR)

ラジオ:「音程」 (初)

テレビ:「元素 104」 (成)

ドイツ第2テレビジョン放送協会 (ZDR)

テレビ:「堕胎～ドイツの場合～」 (成)

バイエルン放送協会 (BR)

テレビ:「英語を話しましょう」 (初)

南ドイツ放送協会 (SDR)*

ラジオ:「4度の音程」 (初)

ノルウェー　ノルウェー放送協会 (NRK)

ラジオ：「これがわたしの最後」　（初）

フィンランド　フィンランド放送協会（YLE）

ラジオ：「9・10繰りかえして」　（初）

「言葉」とは何なのでしょう　（中）

テレビ：「ボートバギー平原」　（中）

フランス　フランス放送協会（ORTF）

テレビ：「音楽の世界～リズム　I～」（成）

ベルギー　ベルギー（フラマン語）放送協会（BRT）

ラジオ：「ロンドンからの便り」　（中）

テレビ：「動物のかき方」　（初）

「とびらの文化史」　（中）

ベルギー（フランス語）放送協会（RTB）

ラジオ：「ラジオ教育雑誌B」　（初）

テレビ：「絵と話し方」　（初）

「手紙の旅」　（初）

「骨と関節」　（中）

ポルトガル　ポルトガルラジオ大学

ラジオ：「19世紀ポルトガルの芸術」（中）

マルタ　マルタ放送協会

テレビ：「ともに生きよう」　（中）

**東ヨーロッパ　10機関（7ヵ国）**

ソビエト　ソビエト国営放送

ラジオ：「7つの音符の冒険」　（初）

「赤ちゃんペンギンのお話」（初）

テレビ：「おとぎ話」　（初）

「メジャー」　（中）

「計量の話」　（成）

チェコスロバキア　チェコスロバキア国営ラジオ放送（CSR）

ラジオ：「音楽作品の新しい傾向」　（成）

チェコスロバキア国営テレビ放送（CST）

テレビ：「小羊のおばさまの物語」　（初）

「文の力」　（中）

ハンガリー　ハンガリー国営放送

ラジオ：「ぱたぱた走る」　（初）

「接尾語"CЯ"の練習」　（成）

ハンガリーテレビ国営放送

テレビ：「教室の空席」　（中）

「虫の音楽会」　（中）

「愛　情」　（成）

ブルガリア　ブルガリア国営放送

ラジオ：「石炭とばら」　（初）

「惑星「メディア」の事件」（中）

「沈黙の貴族」　（中）

ブルガリア国営テレビ放送

テレビ：「私はカムチア」　（初）

「遺伝の謎」　（中）

ポーランド　ポーランド放送協会

ラジオ：「絵入りの手紙」　（初）

「ポリフォニィについて」　（中）

テレビ：「Vistula 河と Pilica 河の間で」（初）

「宝さがし」　（初）

「面の断面」　（成）

ユーゴスラビア　ユーゴスラビア国営放送

ラジオ：「自然，生活，そして音楽の中のリズム」（初）

「いつも心にあること」　（初）

テレビ：「テレビで学ぶアルファベット」（成）

ルーマニア　ルーマニア国営放送

ラジオ：「何の動物を画いているのでしょう」（初）

「ダイヤモンドの家族」　(中)

「ベートーベンの第9交響曲」(成)

**大洋州　2機関（2ヵ国）**

英領ソロモン諸島　英領ソロモン教育庁放送*

ラジオ：「一つの国民に30のことば」(中)

オーストラリア　オーストラリア放送委員会（ABC）

ラジオ：「北西航路」　(初)

「日本・その鎖国時代」　(中)

「移民の皆さんの祖国リトワニア」(成)

テレビ：「島人と鳥」　(初)

「造形美術」　(中)

「新教授法」　(成)

**中近東　3機関（2ヵ国）**

イスラエル　イスラエル教育テレビセンター

テレビ：「英語教室モンタージュ写真」(初)

「幾何～長方形～」　(中)

「投影法～製図の基礎～」　(中)

イスラエル国営放送

ラジオ：「少年の丘」　(中)

「宝さがし」　(成)

テレビ：「お空のお星さま」　(初)

トルコ　トルコ国営放送

ラジオ：「すてきなものをあげましょう」(初)

「同じ形・同じ面積」　(中)

「赤ん坊のいけにえ」　(成)

**ラテンアメリカ　8機関（5ヵ国）**

アルゼンチン　アルゼンチン国営放送（LRA）

ラジオ：「ローマの松」　(中)

「歩行者と運転者」　(成)

「リタとポール(子音Rの発音)」(成)

キューバ　キューバ国営放送

テレビ：「浮　力」　(中)

「左右対称の形」　(中)

「こどもに帰ったエルシタ」　(成)

コロンビア　コロンビア国営放送

テレビ：「土地の侵食作用」　(初)

「成人学級～ことばと数～」　(成)

ブラジル　アンチエータ財団教育ラジオ・テレビ放送*

テレビ：「エネルギーとその働き」　(中)

「ブラジルの伝統的スポーツ」(成)

ブラジル新聞放送連盟*

テレビ：「文字をおぼえましょう」　(成)

ペルナンブコ連邦大学テレビジョン*

テレビ：「アフリカ」　(成)

「集合の理論」　(成)

「物質の一般的特性」　(成)

ランデル・デ・モウラ教育財団*

ラジオ：「技能講座」　(成)

ペルー　ペルー教育省*

テレビ：「カジャマルカ」　(初)

# 審査委員・オブザーバーの感想

スタンフォード大学
コミュニケーション研究所長
**ウィルバー・シュラム**

日本賞コンクールの開催期間中，われわれのうち幾人かは，ニュース・メディアとしてのラジオについて，それが教育面ですでに死滅してしまったのでもまた死に瀕してもいないことをはっきりさせる必要を感じた。というのも，テレビの参加作品の数が，今までのうち最高であったのに，漸減の一途をたどっていたラジオの参加作品が，今年は過去4回に比べて最低の数だったためである。このことは，世界中の教育ラジオの利用と有用性について，ありのままの姿を伝えるものでは全くないとわれわれは考えたのである。

われわれが今日審査にあたったラジオ教育番組こそ，こうした見方についての，最も説得力のある証拠となっていた。非常にすぐれた水準のラジオ番組，そして，こうした番組を制作している国々の教育目標に対して，これ等の番組のもっている重要性，こうした諸点から，聴取者は誰であれ，ラジオ教育放送が，今後も生きつづけることを確信せざるを得なかったのである。

私は，今年のラジオ参加作品の内容について寸評を試みたいと思う。

開発途上国のラジオ

審査員がみなはっきりと認めたことは，傑出した効果的なラジオ番組が，先進諸国のみならず，開発途上の国々においても制作されつつあるということであった。事実，多くの場合，ラジオは，経済的に恵まれた国々よりも，教育効果に深い注意を払う開発途上の国々において利用されている。例えば，西ヨーロッパ諸国では，番組の制作には特に慎重であるが，番組の取り扱いは，補助教材あるいは課外授業とし，利用するもしないも自由である。しかし，開発途上の国々では，ラジオ教育放送は重要な仕事となっている。それは，学生に質の高い授業を受けさせるに欠くことのできないものであり，あるいは，村人や農家に有益な情報を提供しているのである。そのため，こうした新しい息吹が感じられる国々にとって，第一義的問題は，円滑な制作のあり方よりも，むしろ，これらの番組による授業方法，実際に情報を伝達する方法となっている。

開発途上の国にとって，ラジオは，教具であって，その費用は，テレビの5分の1とみられている。われわれは，非常に簡素に，しかも安く作られた番組の質に，再三，胸を打たれたのである。例えば，開発途上にある国のラジオ番組のうちで，最も秀れたものの一つは，中央アフリカ共和国提出のラジオビジョンの番組である。これは，勤勉な農夫と怠惰な農夫の物語で，放送の間にフィルム・ストリップを活用し，これを投影させていた。それは，教訓的なところが余りない普通な物語であり，重点を人間の態度においていた。すなわち，勤勉な農夫が，農事担当官の助言を利用し，幾つかの近代農業の教えを適用し，適時にやや多く作業し，収穫期にはむくわれるというのである。この番組の制作費は，35mmカラー・スライド12枚，語り手1名，若干の効果音だけであるから，100ドル以上もかかることは，まずあり得ないことであろう。にもかかわらず，これは，極めて効果的であったことと思われる。

これと同じくパキスタンからは，農村のつどいといったようなラジオ番組があった。この地域は，世界のいずれの地域よりも，ラジオ農業番組の利用に多くの経験を得ており，この経験によって，質疑応答，新しい農作業に関する話し，農事ニュース，それに天気予報などのテンポの早い27分番組が制作された。この番組は，なごやかに，判りよく，費用も少ないが，それでもなお，何か話題とするにたる大切なものがあった。

マラウィの番組，これは農業を学習する中学生を対象に，種の発芽をドラマ化しようとしたものであった。番組内容とは別に，この番組はやや陽気なものであったが，全体としては，一般化したり学説を知らない学生に生物学とはどんなものであるかをはっきりと教

えていた。この番組も，良い台本と，2，3の語り手を要するだけの，単純な費用のかからないものであった。

農事番組だけをとりあげてきたが，ラジオは，音楽，言語，数学，社会学その他の教科を教えるのに利用されてきた。しかし，こうした番組すべてにある特徴は，ラジオが，経費をかけず，大切な仕事をするのに利用されていることであった。発展途上国の多くが全国的にテレビを備えるには幾多の年月を要し，しかも，テレビに要する経費が，極度に増えることを考えるとき，これら諸国の多くが，教育テレビの採用を急ぐよりも，当面，ラジオ教育の完全利用を計る方が賢明であるのかどうか，一考を要するのである。

ラジオによる音楽教育

音楽と語学は，ラジオによって教授するには，明らかに適している教科と思われるが，こうした科目について多数の番組が，1969年のコンクールに参加した。

最も顕著な特色は，非常に変化に富んだ利用方法で，音楽をラジオ教育に取り入れていたことである。1969年度コンクールに参加した，いろいろなラジオ音楽教育番組は，それぞれ，単純なあるいは複雑なねらいをもって制作されていた。例えば，教室の児童とその家庭の教養ある成人の人々だけであったり，児童に，自国の音楽史を教え，あるいは，音楽，楽器の音の高さとかその狂いの聞き分け方，また，世界最大の交響楽団のたすけをかりて，世界の第一人者である指揮者を紹介してクラシック音楽を解説するといった具合であった。

一方では，韓国の魅力ある番組で，韓国古代楽器の一つであるかや琴について，学童にこれを聞かせ学ばせる趣向のものがあったが，他方では，ルーマニアの番組には，第九交響曲があった。

北ドイツ放送協会の番組は，形式は単純であるが，内容には技巧を凝らし，小学校児童に2つの弦楽器の調子が合っているかどうかの聞き分け方を教えていた。これには，ピアノ調律師を登場させ，彼の仕事振りを説明し教える方法がとられていた。ドイツの番組の音楽的な技巧の凝らし方は，実にみごとなものであった。ソビエトの番組は，形式ではこれより幾分凝ったものであったが，内容では，それより劣っており，はなやかな音楽と軽いタッチで楽譜の音程を教えていた。ポーランドは，さらに進歩した概念のポリフォニー音楽を効果的に説明した番組を参加させていた。また，スイス放送協会は，制作費の規模ではトップに位するもので，亡くなられた偉大な指揮者エルネスト・アンセルメを出演させ，音楽を説明し，スイスロマンド交響楽団の演奏で，ポール・デューカス作曲“魔術師の見習い”を指揮させていた。これは学校放送はもとより一般ラジオにも向くと思われる番組であった。

音楽教授のためにラジオが提供するこのようにさまざまな機会を，多くの国々が完全に利用しており，多くの国々の多くの学校が，1969年の参加作品によっても判る通り，豊かな音楽番組を享受しているかに一驚するものである。たしかに，ラジオは，音楽教育の教具教材として死滅したものでもなく，また，死に瀕しているものでもない。事実，この目的のための利用がむしろ低いと見られ，また，テレビが広く利用可能となる時以後も長く音楽に有用な筈である。

語学番組と教授法

語学番組は，また，各教育段階にわたって，多数コンクールに参加していた。これらのうちで最も秀れたもののひとつは，スウェーデンの番組であったが，これは審査委員賞を授与されている。この番組は，英語の聞き取りの単純な練習であるが，たくみな番組構成で，ネイティブスピーカーと生きた言葉の練習ができ，ラジオの特性を，語学教育に最高度に利用していた。

この番組は，新しいカメラを購入したイギリス人の面白い物語で，このカメラの写りがとても悪く，プリントにみると自宅とピラミッド，あるいは妻とアフリカの酋長との区別がつかないほどであった。イギリス人はカメラを買った店でカメラを取り変えようとする。番組構成は，彼がゆっくり話し，なかば弁解するように，故障を説明するところから始まる。この男は，次ぎ次ぎと事務員に引き回わされ，最後に支配人と会う。つかれはて，怒りがこみあげてくるにつ

れ，話し方は次第に早くなる。語いは番組全体を通して同じであるが，次第に速度を増す話し方を演出していた。つまり，この教授法は，英語教育上，全く自然そのものであった。

この番組は，ラジオのもつ特性と巧みな教授法をみごとに結合させたものである。学生は，終始積極的に，かつ英語を聞きとる技術を終始練習しなければならないが，それでも番組のなかのスケッチの面白さに有頂天になり，楽しくなってしまい，学習していることに殆んど気づかないのである。少なくとも幾つかの学校では，後の反復練習のために，この練習をテープに録音できたらと考えるにちがいない。

この番組と，そして事実すべて傑出したスウェーデンの参加作品は，ラジオによる教授法について考えさせるものがある。

ラジオ放送教育についての型にはまった批評は，ラジオ教育放送が常に，放送の知識の殆んどない教師の手中にあるか，あるいは，授業の知識の殆んどない放送事業者の手中にあるということであった。前者の場合は，しばしば退屈であり，メディアのもつ力を実現できない。後者の場合は，大体円滑であり，手なれているものの，実際に教えるものは，極小で，疑わしいものになり勝ちである。

これらの2つのタイプの番組は，両方とも，1969年のコンクールに提出されていた。退屈な教室授業の最たるものを，単にテープに置き換えた番組もあった。印刷して本とし，これを読めばさらによいと思われる歴史上の長い講義があった。ラジオ番組で扱える実例と実習のたぐいと，テキストでさらによく示せるルールのたぐいとが区別できないと思われる文法論があった。また，教育目標が僅かか，または全然なく，また，学生の学習法について，あいまいな考えしかないと思われる番組もあった。総体的に，この後者の番組は，前者よりは良い番組と言える。なぜならば，少なくとも，それらが注意をひきつけ，無害だからである。したがって，退屈で，反発力を起こすラジオ授業は，事実上有害といえるのである。ラジオによる無味乾燥な授業に弁解の余地がないのは，教室のそれに弁解の余地がないのと同じであり，学生の時間を空費し，あるいは，学習意欲を喪失させることに対しても弁解の余地は全くない。しかし，それがラジオによるときは，さらに公共的である。

ラジオによる授業についてわれわれが知っている基本的なもののひとつは，学生が学習するものの多くを積極的に学習することである。それを学習するには，それを実践し，応用し，それにともなう問題を解き，自己の経験においてそれを検討しなければならない。真の意味で，学生は教えられるのでなく，学びとらねばならない。ただ単に，知識を提供するラジオの前に数分間座っているだけでは大切な学習を行なっている保証とはならない。重要な問題は，学生が番組によっていかなる学習活動を起こしうるかということにある。

これが，今回のコンクールに参加したラジオ番組の多くに欠如している点である。このような番組は，知識を系統的に提供すれば，学生は必ず学習するという仮定に基づいて制作されたことは明白である。これとは対照的に，すでに述べたスウェーデンの語学番組を検討してみたい。この番組では，積極的な練習が確保され，それ以後の実習機会も用意されていた。あるいは，また，スウェーデンの「音」を扱った番組を考えてみたい。この番組では，学生は，さまざまな物理的音響の特性と様相を注意するように求められ，番組が終わってからは，自らの経験で傾注する物体が与えられる。フィンランドの語学番組もやはり学習活動の卓越した実例であった。これには，多量の実習が組み込まれ，それとともに，放送後の学生活動を推進させる刺激性もあった。リズムについてのカナダの番組は，学級参加（class participation）を成功させる方法としては，全く理想的な例であった。

語学のみならずその他の教科における，最優秀番組は，メディアの必要条件と教育学のそれとの両者を念頭において制作されたものである。これらの番組は，興味あるもので，メディアの特殊な力（例えば，音響を実際に出し，あるいは，ネイティブ・スピーカーを出席させるラジオの能力）を活用しており，また，学生側の積極的な学習を奨励する工夫もされていた。教育放送機関の関係者への質問は，いつも，番組が学生に何をさせるようにしているかという

ことである。

その他多くの番組の中で，ＮＨＫ制作の“海に落ちたピアノ”という題名のストリンドベリの物語を，鋭敏な想像力に富んだものとして再現させたことについて述べたいと思う。思うに，この番組は，多くの点で，コンクールに参加したラジオ番組全部のうち最優秀のものであった。これは幼児を対象とし，明らかに，文学的伝説を彼らに知らせ，その創造性を刺激する意図をもっていた。それは，同様に美しく，しかもそれよりなお手のこんだイギリス BBC のラジオ・ビジョン番組“クリスマス”と比較してもよいのである。この番組では，キリスト教芸術がスクリーンに写され，サウンド・トラックは，奇蹟や道徳劇，宗教詩や音楽の抜萃を伝えていた。日本の番組は非常に単純であったが，イギリスのは，やや凝ったものであった。両方とも，審美的な，あるいは感動的な経験を伝えていたことは疑いがない。この両番組とも，ラジオというメディアの特性と番組内容を充分検討すれば，どれ程のことが出来るかその可能性を示していた。

しかし，“海に落ちたピアノ”の方が，むしろはるかに，教室では学習活動になると，私には思えるのである。

日本の学校が，生徒の創造力をいかにすすめさせているかを知り，私は，この番組を聴取したのち，生徒に画を描くチャンスを与え，また，放送によって誘発された生徒の考えや感じなどをグラフ式で表現させるチャンスを与えたらよいと思うのである。そうすれば生徒が，別の伝説を読むか，または，その伝説の話しか，あるいは，知っている伝説の話しをするようせがむ気持ちになると思う。したがってイギリスの番組は，一種のクリスマス特集で，その時期のほかの一般的経験に対する補足であったのに対し，日本の番組は，カリキュラムに組み込まれ，このカリキュラムには，児童の想像力を刺激し，文学や芸術の経験に導かせるための多くの関連ある経験を含んでいたのである。

ラジオによる公民教育

音楽および語学教育にラジオを利用することは，意見が一致しており，共通的現象である。公民という教科は，いささか一般的でない話題であったが，1969年コンクールには，極めて興味ある番組が幾つかあった。

参加作品にみられる課題のひとつは，移住者の受入れとか異った文化との共存の問題であった。例えば，イスラエルは，移住少年のあわれな物語を出品していた。この少年は，はじめ，キブツの子供達に受け入れられず，幾多の不幸や困難にあってのち遂に，お互いの不信と誤解が解けるのであった。その要点は間接的であったが，一貫して筋を通していた。オーストラリアは，シリーズ番組のうちから一つを提出していたが，この番組は，最近の移住者間の国籍の相違するグループを対象とし，新来者の順応に資するとともに，先住民が彼らと彼らの問題を進んで理解することを意図していた。ウィスコンシン大学は，大部分街頭のインタビューで構成した卒直で大胆な番組を出していたが，この番組は，ヨーロッパ系移民につづき，最近の黒人移住によって発生したミルウォーキーの人種問題を取り扱ったものである。

やや性質の異なるもうひとつの興味ある番組は，「サブトピア」に関する BBC 制作のラジオ・ビジョン番組であった。この「サブトピア」は，都市周辺居住民の退廃を意味し，人々がユートピアを発見する思いにかられて殺到する郊外や村々をいうのである。望ましい郊外開発の 2, 3 の例証とは対照的な荒廃した情景と，熱のこもった建築上の話しが，最も効果的な方法で，ポイントとなっていた。

これ等の番組のねらいは，各年齢層の人々が，他人に対する行動とか現行の公共政策を再検討するようになることである。特に，現在不満を抱く青年の多い環境にあっては，これに対するラジオ教育番組の役割ははっきりしている。しかし，なおその利用は十分になされていないのである。

結　　び

今回のコンクールについての審査委員の全般的印象はといえば，もちろん，ラジオが時代遅れであるということではなく，いやむしろ，その潜在力については，利用不十分であるということである。

コンクールにおいて，ラジオのもつ潜在力の姿を示すに足るすぐれた興奮をおぼえる番組があったのである。

パキスタン国営放送副総局長
**K・G・アリ**

1. 歴史的にみると，20世紀は，教育理念，教育機関及び教育法などが発達し，教育にとっては画期的な世紀だと思われます。

世界のラジオ・テレビの教育番組を向上させるうえに，日本賞コンクールの制度が大きな役割を果していることを考えますと，教育に意識的な今世紀について，その歴史を記すことになれば，この日本賞というすぐれた制度の歴史，及び影響は，きっと名誉ある位置づけをされることでしょう。

2. このコンクールは1965年，NHKの創立40周年と，第2回世界ラジオ・テレビ学校放送会議が東京で開催されたのを記念して，創設されました。

成長と共にしだいに世界の教育放送界に知られるようになったこの日本賞は，高い評価をうけ，1965年以来，毎年，ほぼあらゆる地域から，政治・社会・宗教的立場に関係なく，熱心な参加をうけています。

参加国50カ国以上，約80の放送機関からラジオ・テレビそれぞれ70～80本の参加番組があるということは，とりもなおさず，この国際的な教育番組コンクールの実施が成功したこと，世界的な反響を呼んでいることを，雄弁に物語っています。

3. 今年も，ラジオ73本，テレビ104本が86放送機関から寄せられました。参加国は，56カ国，アジア，中近東，アフリカ，西ヨーロッパ，東ヨーロッパ，北アメリカ，ラテンアメリカ，大洋州の各地からです。

ラジオ番組73本のうち32本は初等部門で，21本が中等部門，残る20本は成人部門でした。

4. 選ばれたテーマも，美術，数学，音楽，歴史，科学，社会，語学，地理，農業開発，保健衛生，技術及び職業指導など，広い分野を様々な面からついています。

5. 成人向けの番組の中では，いくつかの放送機関が，特に注目に値する力作をよせていました。これは，種々の苦しみをなめているグループや個々人をとりあげ，健全な調整をはかるような社会全体に示唆したものです。例えば，アメリカのウィスコンシン大学から寄せられた「誇りと偏見」と題した作品は，無検閲のままの，代表的な市民の声を通して，黒人問題にとりくんだ大胆な試みでした。BBC 制作の「隣人を助ける—2つのケース」は，自発的な社会事業家が，理解と助け合いの精神を通して，多くのケースにあるざ折感，喪失感を軽くするため努力している様子を，活きいきと描き出していました。

アメリカのWGNコンチネンタル放送会社制作のシリーズ物「内線 720」は，麻薬常用者に対する権威筋の意見をもりこんだものです。

6. 私のように，1930年代末に大学をおえて以来今日まで，職業生活のほとんど全てをラジオの仕事でおくったものにとっては，1969年度のコンクールで，テレビ番組の参加数が比較的多かったという現象は，個人的にも，大いに関心のあるところです。

しかし，たえず科学技術の変化している現代において，少くとも一つは人間活動の分野がある——そこでは，人類全体の福祉のために，ラジオ・テレビをコミュニケーションの手段として，じん速かつ最大限に利用することが，切実に望まれている——というのは，幸せなことです。先進国では，教育の分野でテレビを利用する動きが盛んですが，発展途上の国々では，当分は，テレビ同様，教育面で，ラジオはますます大きな役を果たすことでしょう。

7. ところで，教育という仕事，特にラジオ・テレビというマス・メディアを使っての教育は，善悪両方の可能性をもっています。

偏った野望や，更に悪い場合は，特定の政治目的を達成するために，様々な教育のメディアを使うのであれば，歴史や伝統，教育は，人々を啓発する代りに，専制的なものとなり，世界平和をおびやかすことにもなります。その具体例がドイツのナチ政体です。

しかしながら，1，2の参加作品——これは，あるはっきりした理由から，その名を口にするのは控えます——を除いて，私たちが審査した番組は，幸い，全て誠実で素朴なもので，ラジオという媒体をフルに利用して，様々な理解水準の聴取者に教育的アプローチをはかっていました。

8. ほとんど全ての参加作品が，演出・内容共に充実した質の高いもので，それらが熱心に競い合ったわけですから，審査員として入賞作品を決めるのは，極めてむずかしいことでした。

この役目は，特別賞をきめる段になるとますます複雑になってきました。特別賞は，発展途上の国々を対象としたもので，これらの経済状態，社会状態がそれぞれ違い，その結果，機械，才能，財源，制作手段が全くちがったレベルにあるのです。

9. これは，皆さんが，どう考えるかということですが，奇妙というか，正しいというか，受賞作品の中には，劇化された作品が目立ちます。

これは，強調したり，聴き手の心を刺激するために，伝説や現実の素材に肉づけし，想像力豊かな構想を与えたものです。日本賞受賞作品を例にとります。これは，ブルガリア語の作品でした。この作品の成功は，架空の人物の姿を効果音を有効に使ってつくりだしたことにあります。彼らは，宇宙に打ち上げられ，惑星「メディア」の観測所に着陸します。この星は銀河系の一番外側にあり，寒くて静かな酸素のない世界という設定です。冒険のエピソードがあった後で，彼らは，ビデオ・レコーダーのスイッチを入れ，地球に向けて，銀河系の酸素の量，その特性を報告するのです。

これと同じような手法を，文部大臣賞受賞の作品にも指摘できます。これは，NHK制作の幼稚園児向け番組です。海におちたピアノの物語りで，聞かなければ分らないと思いますが，素朴で純真なこの物語りを，これだけ美しく再現するのは，他の方法では無理だったでしょう。この作品は幻想の世界を通して，言葉のイメージをつくりあげるという，むずかしい仕事にとり組み，子ども達の言葉の範囲を広く豊かなものにさせています。

10. 審査員には翻訳台本が渡され，また，国によって審査員に全く馴染のない言葉の場合などは，種々な外国語を英語やフランス語に翻訳した場合もありました。

しかし，それでも，作品のテーマや言葉に対する審査員の個人的好みや関心，及び主観的な要素が，受賞作品を決める上に，何らかの影響をもつことは，避けられません。ただ確信をもっていえることは，作品を比較して出来・不出来を決める時，私たちは，主として，ラジオ放送について世界中で通用する次のような事を基準にしました——筋が一貫している，内容がある，整っている，知的である，効果音や音楽，言葉が明瞭でかつバランスある想像力に富む。教育的効果を高めるためとか，聴き手の関心をそそったりとらえたりするための新しい試みについても，勿論，それが必要なものであるなら，しかるべき評価をうけています。

11. 主観的要素は，場合によっては審査にも影響を及ぼしますが，このことに関連して，私は，第1回の投票の時，審査員のみせた当惑した反応を，興味深く思い出します。

幼児・初等向け，中等向け，成人向けの3部門の番組をきいた後で，それぞれの部門で第1回の投票が行なわれました。

審査員は，自分の所属している放送機関が寄せた作品には投票してはいけないことになっており，各人，印刷されたリストから5つを選んで×印をつけるのでした。

さて，最初の投票で，7人の審査員は，誰も5つという数にしぼれませんでした。

各部門，平均25本の参加作品のうち，私たちは，15本以上も，のこしていました。

ところが，驚いたことには，第2回，第3回と投票がすすむにつれ，とうとう私たちは，今度の受賞作品のグループに対して，一様

に満足することになったのです。

12. 私の感想を終えるにあたって，NHKの日本賞事務局の行き届いた配慮と温かいおもてなしに対して，感謝のことばと，私個人としても深い感銘をうけたことを，つけ加えさせて頂きます。

1週間という短い期間に，私たちは，様々な言語とテーマ，全くちがったテクニックをもった総計20万5,000語にものぼる作品を審査しました。

この様な困難な仕事は，すぐれた事務処理の力や，放送をきくための技術的コンディション，社会環境が，完全にととのっていなければ，不可能です。事務局のスタッフの方々は，過重な労働にもかかわらず，いつも笑顔で，親切に，こういったことを全て，整えて下さいました。また，幸いなことに，ラジオ部会の審査員の方々が，とても陽気な人たちでした。

広島，大阪，京都付近の史蹟をたずねて実にうまく組まれた旅行，数多くの日本式の昼食会，レセプション，夕食会や，社交的な催しなど，私たちのために用意して下さった骨休めも，とてもうれしい忘れることのできない思い出となりました。

各人の専門的経験が豊かになっただけでなく，私たちは，日出ずる美しい国に住む勤勉な国民と偉大な国の生活，食物，習慣，伝統について，じかに知るという，素晴しい機会を持つことができました。

スウェーデン放送協会学校放送部長
**ロルフ・ルンドグレン**

日本賞コンクールの審査委員の一員であることは，世界における教育放送の現状を一瞥する上で，まさにまたとない機会である。コンクールに寄せられた数多くの番組——これらの番組は非常に多くの種類の視聴者を対象に，多岐にわたる話題について学習素材を提供しているのであるが——を審査することは，責任も重く，興奮を覚えるものである。今こうして審査をふり返ってみると，種々な感想——そのうちの一部は授賞式のテレビジョン部会報告のところでもふれておいた——が湧いてくるものである。

特筆すべきことは，教育テレビは広範囲にわたり利用されうるということであり，日本賞コンクールの参加国では，現に教育テレビが利用されつつあると言える。教育テレビは，一般大衆に新しい興味を作り出させるために利用できるものであるがまた，これは，私が思うに，教育テレビと総合テレビの間に境界線を引くことが，可能であるにしても，非常に困難な場合なのである。(本文の後段でこの点について再度ふれたいと思う。) この種の作品には非常によい例が多々ある。例えばドイツの会社から参加した海の生物学に関する番組，また北米の1放送局による昆虫に関するカラー番組などがこれである。

また，ゴルフの如き余暇利用のためにも利用できるのである。(イギリスの商業放送会社の場合は，この好例である。)

別の利用法としては，BBC の子供の誕生についての番組が，あげられる。この場合，テレビの教えは，誰かがある特定の状況で抱く心配を軽減し，BBC の番組の場合は，母となるべき女性およびその夫が，初産がどんなものであるかについて抱く心配を軽減するために利用されていた。

テレビでなければ思うように利用できないような学習素材を視聴者に提供することにより，テレビ番組がいかに教育レベル——学校の内外ともに——の向上に寄与しているかを示すすぐれた番組もいくつか見られた。例えば，活動する二十ねずみと人間のX線写真および顕微鏡下に増殖するバクテリアをあつかったベルギーのすぐれた番組などがそれである。テレビというメディアを利用したこの種の番組は数多く見られた。このことは，学校でテレビが非常に効果的に利用されているよい例であると言ってよい。

しかし，教育水準というものは，次のような手段によっても向上

してくるものなのである。即ち，より新しいより広い養成方法で現場の教師に現職教育をほどこし，教師を対象に特別の番組を制作して，教師をまず訓練することである。ではここで，オーストラリア，アメリカ，カナダおよびスウェーデンについて言及したい。これらの諸国は，われわれが2段階の番組とよぶ興味あるこうした教育番組を提出したのである。（最初にテレビで教師を指導し，ついでこれらの教師が生徒を教える。）

ご存知の通り，教師だけが，その知識と熟練とが教育テレビによって向上させられる専門家ではない。ある国々では，医師が，特別のテレビ番組によって，各種の活動分野における最新の開発について，いかに情報が与えられるようにしてあるかという興味ある実例をいくつか見てきた。

最後に述べた方法に近い利用法には次のようなものがあった。ある国では，何かにつけてハンディキャップのある人々の状態を軽減しようとする強い傾向が，今まさに見られるのである。このためには，テビが大いに役立っている。オランダでは，その良い例として，ろう唖者のために読唇術講座を放送しているのである。（勿論この番組は，日本の視聴者には決して新規のものではない。）

さて，われわれが接した各種の教育テレビ利用の実例について，もう少しふれたいと思うが，それはこの辺にとどめ，そのかわり，さらに一般的な批評のいくつかについて述べることにする。

相当の期間この事業にたずさわってきた者にとって，もともと番組の制作条件の相違する諸国が制作する番組の水準の差が，昔ほど大きくはないことを知って，心強い思いがした。これは勿論総合的なものであり，やがては，発展途上国が教育番組の制作水準で，われわれ工業国に追いついてくるといっても間違いではないことを十分に承知している。例えば，チュニジアの番組の中には，非常に立派なアニメーションがあり，イスラエル，シンガポールおよびマルタのテレビ番組には非常に精巧なミニチュアが使われていた。またコート・ジボアールの農事番組のカメラ・ワークには特筆すべきものがあった。このことは限られた制作条件を可能な限り利用することにより，立派な教育ができることを示すにほかならない。

当然のことながら，私は，他国の教育放送事業における業績について，判断をくだす地位におかれる資格もなければ権利もないのであるが，やはり，ここで，なお否定的な感想——これは，放送教育番組制作の常に重要な仕事に関与している者の間で討論する際の起点の作用をするものであるが——を少し述べてみたい。

われわれは104本の番組を視聴したが，みている間に笑をおこさせるような番組は多くなかった。教育番組の担当者は，なぜ，それ程に真剣さに徹しているのであろうか。ユーモアは，教育の有効な手段であり，事実，教師という職業において，最良のトリックの一つとはならないのであろうか。さもなければ，コンクール参加番組がかくも真剣そのものであったのは，まさに偶然の一致であったのだろうか。いうまでもなく，文盲と戦うユーゴースラビアの番組やインドの英語番組のような例外もあり，またNHKの日本賞受賞の数学番組には，ほっとするようなユーモアが多分にあった。

一定の状況で発生する事柄を明確に説明しようとするテレビ制作チームの能力は，全般的に賞讃に値するものであった。研究室の実験の演出においても，また実生活で発生する事柄の演出においてもともに，それのみごとな実例を多数視聴したのである。しかし，テレビの特殊技術が全面的に利用された場合の制作に，なぜ，これほど想像力に富む番組に乏しかったのであろうか。学校であれ，家庭であれあるいは学習グループであれ，他の方法では得られないユニークな何かを，学生に与えることがよきテレビ教育のはずである。そこで，このことは，勿論，制作条件の問題となる。しかし，それのみではない。極度に制限をうけた状況で制作されながらも想像力に富んだテレビ番組の例を確かに見たのである。イスラエルは，この問題の要点を提供していたと思う。その英語教育番組「モンタージュ写真」は，英語教育に想像的なアプローチを試みたものとして傑出していた。番組のなかには，警察官と同じ服装を使用した人たちが登場し，ありふれた会話のなかにも，実に楽しい物語があった。総合テレビと教育テレビの間で共同制作をもっと多くすべきではな

いだろうか。なぜなら，これらの二つの言葉，綜合テレビと教育テレビ——即ち綜合テレビにみられる想像性あふれるアプローチの仕方，視聴者の綿密な分類研究，対象視聴者の要求と生活環境に関する話題の適用（これは教育の特徴の一つでもあるが）など——をうまく組合わせるならすぐれた教育番組を制作できるからである。

このほか，番組の映像と音声との間には驚くほどの不一致が終始存在していたのである。制作チームのすべての努力は，ほとんど番組の映像の部分に投入されたように思われ，したがって，音声の部分は，ないがしろにされていた。こうして，弱点は，カメラ・ワークにおけるよりも，音声の質において，語り手のコメントとか演技において，音楽の選択において，はるかに数多くあったのである。テレビ担当者とラジオ担当者との間でさらに共同研究を行なえば，このジレンマを脱する道が開けるかも知れない。でなければ，何ぜ教育テレビの担当者の訓練にあたって，ラジオ番組の担当としての訓練から始めないのであろうか。（国によっては，これを実施していることをすでに耳にしているが，所によっては，これを実施することはむずかしいと思われるものの，非常に良いアイデアであると私には思われる。）

こうした一般的感想の中に，日本賞コンクールのもつ現実のジレンマと思われるもの，すなわち，成人教育番組の定義についても言及させて頂きたい。成人教育部門の参加作品の審査にあたって，この成人教育という用語の解釈は参加機関の間でまちまちであり，この部門のコークール参加番組に公分母をみつけることは審査委員にとって事実困難である。綜合番組と成人教育番組の間のどこに境界線をひくのであろうか。この問題には，伝統の相違，国によって異なる放送機関と教育，マス・メディアによる教育とその他の形式の教育との関係，別形式の成人教育の有無等々，混乱を生ぜしめるものがこれほど存在するのである。これは，EBU（ヨーロッパ放送連盟）の諸機関において，今までに大いに論議された問題であり，われわれの多くが，進んで受け入れる定義を発見しようと努めたのであった。しかし，この定義は，ヨーロッパ以外の多くの国々における状況にはあてはまらない事実を，私は十分に承知している。

では，これについての解決策はあるだろうか。ほとんどないと私は思う。審査委員の１人としては，見るものまたは聞くものは，たとえ，それが審査委員の考える教育放送と一致しないとしても，番組を参加させた放送機関が教育放送と認めているものであれば，これを受けいれねばならない。こうして，広島で見た参加作品の多くは，私の考えでは，教育番組というより，むしろ一般教養番組であったのである。しかし，いうまでもなく，これらをおしなべて受けいれなければならなかった。思うに，審査委員全員が，やはり，この部門で当惑していたのである。

教育放送に関してわれわれの意見がまとまる一致点が，やはりないのだろうか。教育番組制作に際しては，制作上生ずる事項のみならず，受信者の末端に生ずる事項にも関心を払わねばならないとする意見に同意されるであろうか。教育番組は，教育的な多数の事実を視聴者に提供しさえすればよいとは限らない。視聴者の側においては，心的なあるいは物的なある種の番組への参加がなければならないのである。番組は，視聴者に何らかの活動を与えることが必要であり，これによって，番組自体より幅広い教育的内容の部分がなければならない。この内容は，何としても，番組自体で作り出さねばならないもので，さもなければ，つまり別方向の回り道となり，番組は，他の手段で作り出された教育内容の一部として役立つのである。ともかく，これは視聴者側において生じる事に関係があり，教育番組担当者が常に念頭におかねばならないことである。われわれがこの文言を受けいれるときは，成人教育番組の定義を軌道にのせることができると思われる。

冒頭に申し述べた通り，日本賞コンクールは，世界中の教育番組を見，かつ聞く，無比の機会をわれわれに与えてくれたことをくり返し申し上げ結びとしたい。事実，これが無比の機会であることを遺憾とするものである。優秀番組のこの集りを見，かつ聞いた審査委員はほんのひとつかみの人数でしかなく，またオブザーバーも少人数にすぎない。この機会にめぐまれた幸運な人々はすべて，同じ

機会が多くの同僚にも与えられるよう望んでいると思うのである。NHK は，手もとの資料の重要性を認め，毎年，参加番組のうち優秀なものを数本選び，抜粋・編集してフィルム・アンソロジーを制作している。しかし，これで十分であろうか。できれば，やはり日本以外のところで，毎年の優秀番組の視聴を行なうようお膳立をすることがよいのではないだろうか。かくして，コンクール終了後，優秀番組を選び（参加番組のうち25本位）ヨーロッパ，北米，南米，アフリカおよび大洋州に送付し，関係プロデューサーの視聴の用に供するのである。こうした番組のオーディションの主催役を進んでひきうける放送機関はいずれであろうか。試みる価値があると思われる。これは，全世界の教育放送機関関係者の仕事に，最も刺激的な効果を与えるものと信じている。

シンガポール教育テレビ局長代行

**ピーター・スー**

日本賞は，優秀な教育テレビ番組を制作するための目標を与えるという点で，非常に成功しています。世界中の教育テレビジョン局は，年間を通じての自分達の努力をふりかえり，応募作品を選ぶわけであります。この自己評価と内省そのものが非常に大切なものであります。何故なら，この評価は，要員，設備，財政的条件を自覚し，さらに対象の視聴者をよく理解している放送局や教育機関の自己評価であるからです。こうした考慮ののちに応募作品を選んでいるということを，審査委員たちは，往々にして，みのがしています。

また，参加作品をみて，驚いたことは，放送機関の規模には関係なく，特定の目的を達するために各機関とも制作活動の面だけを重視しているということです。

しかし，小さな放送機関に課せられたいろいろの制約が，かえって新しい工夫を生み出している事実は，まことに心強いことであり，また，学者，医師，音楽家，建築家その他の有能な専門家が貴重な時間を割いて教育テレビに出演して，教育テレビを支持してくれていることは，喜ばしいことです。

日本賞を受賞したＮＨＫの参加作品「新しい数学～対応～」は，優れた作品だと思います。企画がよく練られており，細心の注意を払って制作された努力がよく判る作品です。15分という短い番組の中で，啓発し，教授しているほか，スクリーンのうえで学習環境を楽しいものにして視聴者に経験というものを与えています。

日本放送協会教育局長
山　崎　　誠

私は前回のテレビ番組の審査に引き続いて今回はラジオ番組の審査を担当したのですが，テレビとちがって聴覚のみにたよるラジオでは言葉がわからなくては全然番組の内容が理解できないわけで，はたしてその点がうまくいくものかどうか，審査が始まるまでやや心配でありました。しかし，実際に何本かの番組を英文のスクリプトで追いながら注意深く聞いていくうちに，添付された資料や写真などの助けもあって意外なほどによく内容が理解できることを発見しました。もちろん，全くわからない言語のこまかいニュアンスにいたるまでを理解することは不可能だとしても，すぐれた番組であれば番組の雰囲気を通して人間的な感動というものが十分伝ってくるのであります。そして審査の本数を重ねていくうちに，ラジオのもつ独特のイメージの世界へと引き込まれていきました。

私達は40年前にラジオでスタートしたのですが，今や完全にテレビの時代となって，すべてが映像を通して語られることに慣れてしまっています。しかし，ラジオの審査をやってみて，ラジオのもつ，テレビとはちがった可能性の広がり，また，教育の分野に占めるラジオの地位と役割といったことについて，あらためて認識させられたのであります。

そこで，今回の参加番組をラジオの特性を生かしたいくつかの型に分類しつつ，印象に残った番組のいくつかをあげてみることにしましょう。

なんといってもラジオはテレビとちがって映像をともなわないということから，聴く者を自由なイメージの世界に入らせることができます。これはラジオのもつ何よりも大きな特性の一つでありますが，この点を生かした数々のすぐれた番組が寄せられていました。

日本賞を受賞したブルガリア国営放送の「惑星メディアの事件」はまず最初にあげなければならない番組でしょう。この作品は中学生に理科を教えるにあたってサイエンス・フィクションの手法をとり入れ，それをすぐれたドラマに構成することによって生徒を広大な宇宙の世界へと誘い，自然に理科の学習ができるようにすることに成功したものです。この番組ばかりでなく東欧からはドラマタイズされた理科番組がいくつか参加していて，その高い演出技術によってラジオにおける理科教育の新しい分野を切り開いているといってもいいでしょう。

文部大臣賞を受賞したＮＨＫの「海におちたピアノ」もストリンドベリ原作のこの物語をラジオの特性を生かし，音楽や効果音をうまく使うことによって幻想豊かに作り上げています。この番組は幼児のための名作鑑賞番組ですが，このような手法は児童の文学的情緒を高めるうえで有効であろうと思われます。

ラジオは音だけの世界なればこそ森羅万象，あらゆるものを疑人化することができ，その世界に入って直接対話をすることが可能となってくるわけですが，この疑人化の手法を使ったものですぐれた番組がいくつかありました。特に審査委員賞を受賞したソビエト国営放送の「７つの音符の冒険」はド・レ・ミの音符が楽譜の中から逃げ出して街に出て，子ども達とよいお友達となり，楽しく遊びながら音楽を勉強するという番組で，疑人化された音符をめぐるドラマは実に秀逸でありました。このほか同じソビエトの作品で児童に北極と南極を中心とする世界の地理について教える「赤ちゃんペンギンのお話」やルーマニア国営放送の図画指導番組「何の動物をかいているのでしょう」などもドラマの演出において特にすぐれていると思います。このほかにもイメージ豊かな番組は枚挙にいとまがありません。

次は音楽の世界です。今回参加した番組の中で音楽はかなりの本数にのぼりましたが，入賞したラジオ番組11本のうち５本が音楽に関係した番組であったことをみても，音楽がラジオの特性を生かすことのできる分野であることがうなづけると思います。

広島市長賞を受賞したリバーサイドラジオ（アメリカ）の「歌劇における歌唱の演劇的機能」は成人向けの専門的な番組で，ちょっと特殊対象ですが，この方面に趣味をもっている人々には十分たのしめる番組であろうと思われます。また，佳作に選ばれたルーマニア国営放送の「ベートーベンの第9交響曲」は楽聖ベートーベンが晩年に到達した哲学的境地の表現である第9交響曲をたくみに分析して聴かせる感動的な番組であったし，このほか入賞は逸しましたが，先年亡くなった世界的名指揮者エルネスト・アンセルメが自ら子どもたちに語りかけながらオーケストラを指揮して聴かせるスイス放送協会の「魔法使いの弟子」や，ポーランド放送協会の「ポリフォニー」，カナダ放送協会の「リズム・パターン」などすぐれた音楽番組がありました。特に「リズム・パターン」はラジオ・ティーチャーの指導に従って児童が楽しく手を打ったり飛びはねたりする生き生きとした番組で，子どもたちを完全に番組の中に参加させることに成功していました。

第3の分野として語学教育が考えられます。審査委員賞を受賞したスウェーデン放送協会の「英語教室・わかりましたか」はその中で最もラジオの特性を生かした，すぐれた英語番組でありましたが，テレビが主として文字を見せながら視覚的に語学々習に入るのに対し，ラジオの場合はヒヤリングを中心とした聴覚的アプローチによる語学教育が適していると思われます。

ベルギー放送協会制作の「ロンドンからのお便り」もヒヤリングを中心としたものですが，内容に今話題のミュージカル「ヘアー」のロンドンにおける公演の是非をめぐる論争など，トピカルな題材によって生徒を惹けていました。このほか開発途上の国からはおしくも入賞を逸しましたが，セイロン放送協会の英会話番組「英語教室（G・C・Eクラス）」はスキットが気がきいていて面白く，カリキュラムの構成もしっかりとした出色の番組でした。

このほか開発途上の国々では，一般に文盲追放のためにラジオの語学教育番組がいろいろと工夫され，現実にもよく利用されているようで，その国の教育水準の向上に大きな役割を果たしている様子がうかがわれます。次は国民の生活にすぐ役に立つインフォメーションを提供するようなタイプの番組で，将来はテレビの方がより有効かも知れませんが，ラジオでもかなりよくその目的を達しているように思われます。この種の番組では技術指導番組などが中心となりますが，開発途上の国々では特に大きい教育効果を上げています。マレーシア国営放送の「これからの農村開発」，パキスタン国営放送の「農民の広場」などは農民のためのテクニカル・ガイダンスで，土壌の改善や生活の改善など農漁村生活者に必要と思われるインフォメーションをレコードをはさみながら親しみやすく解説したり，番組終了後ラジオ聴取グループに討論をさせたりしています。これらの番組はトランジスタラジオによって広く農漁民の間で聞かれており，大きな効果を上げているとききました。なお佳作に選ばれたNHKの「音を利用した漁法」も農漁村向けのインフォメーション番組ですが，そのものズバリ，ラジオ向きの番組といっていいでしょう。

このほかラジオでは専門の分野を深く追求する番組が考えられます。前に述べた「歌劇における歌唱の演劇的機能」もこの種の番組として数えられますが，テレビでは手の届かない広い層の意見をこまめに集めて構成し，聴取者と一緒になって社会のいろいろな問題を考えていこうとする長時間の録音構成番組がいくつかみられました。ウィスコンシン大学 WHA-AM-FM の「誇りと偏見であるアメリカの伝統」（黒人差別問題を扱っている）や WGN コンチネンタル放送会社の「内線 720」（麻薬の問題を扱っている），イギリス放送協会の「隣人を助けろ～2つのケース～」（ケースワーカーの問題点をさぐっている），トルコ国営放送の「赤ん坊のいけにえ」（封建的因習を扱っている）などはいずれも1時間近い長時間の力作ぞろいで，その国の社会問題を鋭く深く追求しているのが印象的でありました。特に「内線 720」は電話によって聴取者をも参加させながら番組をオンタイムで進めるやり方で，この種の電話利用の手法はイスラエル国営放送の「宝さがし」でも使っていましたが，放送局とその地域の人々との交流に効果があるように見うけました。

ラジオとカラースライドとを組み合わせたラジオビジョンは日本ではあまりなじみがありませんが，欧米各国やアフリカなどではかなり以前から利用されて独特の効果をあげているようであります。今回はイギリス放送協会の「クリスマス」（児童向けの聖画によるクリスマス物語），「サブトピア」（ユートピアの反語で美しい自然を守ろうというキャンペーン），スウェーデン放送協会の「音について」（理科番組），中央アフリカ国営放送の「綿花の栽哉」（農業講座）の4本がありましたが，テレビとちがって安定した広いスクリーン，すぐれた解像度と美しい色彩によって美術教育や技術指導などの分野で独特の効果をあげています。特にスウェーデンの「音について」は音の周波数と音域との関係を教えるもので，細かい図表をスライドで長い時間フィックスして見せてくれるので正確によみとることができます。また，中央アフリカの「綿花の栽培」では文盲の農民に絵本をみせるようにしてやさしく，かみくだいて綿花栽培のポイントを教え込んでいました。

最後にラジオとテレビの両方のメディアを総合的に使ってコンピューターの原理を教えようとするデンマーク放送協会の番組が注目をひきました。この番組はラジオでは「やさしいコンピューターの話」，テレビでは「データ・現代社会のかぎ」となっていますが，この二つの番組は相互に関連性をもち，両方で相補い合って情報化時代の立役者であるコンピューターについての理解を深めさせようとするもので，ラジオではあらかじめ配布された豊富な資料（テキスト・参考書・図面・パンチカードの実物など）によってコンピューターの原理をきめ細かに教え，テレビではそれが実際にどんな方面にどのように利用されているかをロケフィルムによって紹介しながら，ラジオで得られた知識を視覚の面からもう一度たしかめ，まとめていくような構成をしていました。このR—T結合番組はこれからの教育番組におけるラジオとテレビの関係について示唆するものが多いように思われます。

スタンフォード大学教授
**パトリック・スッピーズ**

1969年度日本賞コンクール審査の際にオブザーバーとして視聴した数々の番組の印象が今もなお混沌として私の心の中を去来しています。特に印象深かったものを幾つか挙げて書き留めてみたいと思います。

何よりもまず，番組に取り上げられていた主題の多様さに驚きました。全体として，最も基本的なレベルの番組が提出されていましたが，その中のあるものはごく初歩的な文学教育を意図したものがあり，また，ある番組は非常に技術水準の高いものでした。今回に見られる番組の多様性は教育の各段階における教育指導にテレビ・ラジオを広範囲に亘って活用し得る可能性を指摘しているのです。

参加番組の数だけでも感心したのですが，この催しにこれほど多くの国が参加して来たことに感銘を更に深めたのです。まあ9カ国か10カ国程度の先進国が参加するのではないかと思っていましたが，このように多数の発展途上にある国々が，教育テレビや教育向けラジオ放送などにこれほどまで活発に努力を払っているとは全く驚きました。一例を挙げますとガーナが寄せてきた番組の一つに見られた優秀な知性には特に感動しました。この他，番組全体を通して見られる教育番組の制作に対する幅広い能力にも心を打たれました。例えば第二国語としての英語教育に関して多数の番組が寄せられたことです。これらの番組の中で最も優れたものは，たしかによいものでしたが，一方非常に出来の悪い番組は実際の英語教育に効果が無いし，殆んど役に立たないものであったように思います。これに関連して，ある科学教育番組の技術水準は番組の内容並びにその提示方法においても極めて優れたものでした。特に名をあげたいものは海洋生物学に関するドイツのテレビ番組でした。昆虫の生活につ

いてアメリカ合衆国で制作された番組に見られた写真技術は驚くべきもので実に技術の勝利というべきものでしたが，番組内容の知的レベルは他と比較して特に優れたものではありませんでした。昆虫の生活に関するこれらの番組は特定な教育機能を持たせるとか，あるいは教育機能を指標にして企画制作されたものでないことは事実のようです。科学的概念について正統的な観点から実に明瞭に説明をしているのは“落体の運動”をテーマにＮＨＫが制作したテレビ番組でした。この番組の制作に当たって払われた細心の準備はテレビの果たし得る可能性を示す好例となっていて，基本的な科学概念の意義がテレビにより伝えられましょう。教育テレビが視聴者に大きな影響を及ぼし得ることを指摘するフィルムもありました。

産児制限と妊娠中絶に関するドイツ制作のフィルムは他のテレビドラマよりも遙かにドラマチックでした。この番組はこれから先10年に亘り問題となる人口のコントロールや環境汚染という基本問題に対して教育テレビが演じ得る重要な役割を提示していました。

科学教育フィルムや芸術を取り扱ったフィルム中の素晴らしい写真技術に変わった影響，即ち純美術以上の影響が見られました。非常に美しいこれらの番組が子供達に与え得る感銘は確かに大切です。これに関連して，数多くの番組に添えられたバックグラウンド・ミュージックの持つ人心に訴える大きな力についても言及したいのです。視聴の際に聴いた優れたサウンド・トラックに心歓び感銘を受けたのですが，とりわけ科学や芸術を扱った教育番組に添えられていたバックグラウンド・ミュージックの果たしている役割に深い印象を受けました。参加各国の番組に流されていたこの背景音楽に共通した特徴は，私どもの文化が増々国際的性格を濃くしていることを証拠立てていることでした。様々な番組を視聴して失望する大きな問題が一つあります。それは視聴する学生側から広範囲に亘り番組をフィードバックすることや，学生の参加が教育番組にとって重要なことだとする番組がなかったのが残念でした。今後10年には学生から番組のフィードバックを求めるものや，学生がもっと能動的に参加する役割を盛り込んだ番組が寄せられればと願うものです。

1969年度日本賞について私の感じたことを纏めますと，様々な課題についての教育テレビ・ラジオ番組を開発するために数多くの国々で如何に広く努力が払われているかを知り得た機会こそ，今回私が経験した最も大切なことだと申し上げたいのです。

スイス放送協会
バーゼル教育テレビセミナー事務局長
**フランク・R・タポレ**

ジュネーブ州では，「教育，自由の基本的保証」という文句を州立大学の入口にかかげ，教育をたたえている。

ところで教育放送のこの驚くべき発展をどう解釈したらよいのだろうか。教育放送によって，自由を実現しようという切なる願いなのだろうか。放送事業者たちが，自由にできる放送手段を，現代の巨大な見世物ではなく，何か別のものとして利用しようという良心にかられているのであろうか。あるいは，学校制度が，不備であったり，社会情勢に適応していなかったり，要するに無意味なものになっている現実を前にして，教育放送が最後の希望となっているのであろうか。

世界中あらゆる場所で，電波は絶えず授業をおこない，人々を啓発し，技術者の再教育にあたっている。ガーナでは，テレビドラマで国史を教えている。タイ，アルジェリア，インドでは，言語と文学教育にあたっている。ペルーではすぐれた地理番組が制作されており，キューバは，1969年を民衆教育の年であると定めた。インドネシア，ブラジル，そのほか多くの国々で，成人教育講座による国民教育を考えている。要するに，読み書きを教えている開発途上の国々にも，視聴者に現代数学入門や生け花の秘伝を伝えようとしている先進国にも，ひとしく人間の運命を切り開いていこうという意志が感ぜられる。

全世界の教育放送番組が，日本に集るのも偶然ではない。この勤勉で意志強固な国民は，ひとつの巨大な学校となっている。国民の3分の1は常に勉強している。というのも，絶えず放送を利用できるよう，NHKの教育テレビ放送が，朝6時から深夜まで放送しているからである。日本の，こうした真摯な雰囲気は，その心のこもったもてなしととけあい，教育番組コンクールを全くすばらしいものとしている。そして私には，日本以外のところでは，これほど成功するとは思えない。

日本賞コンクールの主催者は，不統一なテレビジョン技術の現状にたいし，寛大にも，あらゆるシステムの作品を受入れている。こうしたコンクールは世界でただひとつのものである。衛星中継の時代に，こんなことを問題にするのは時代錯誤なのだろうか。走査線525本とか625本，またNTSC，PAL，SECAMといったカラーテレビジョン方式の差，他の国々では変換がむずかしいとされているのに，こうしたテレビジョン放送の技術上の差異も，日本の技術陣には何の問題でもないようだ。

しかしながら，日本賞コンクールも全能ではない。部分的に字幕をつけることはできるものの，放送は言語表現にたよっているものであるため，教育番組はそれ自体で，国際間の交換にほとんど役立たない。さらに，教育放送は，地域の要求に答えて企画制作されているため，必ずしも，他の地域を満足させるものではない。したがって，ある番組を国際的に利用しようとしても，言語と教育目的の相違から失敗してしまう。しかし，コンクールに集っている番組は，大部分，教育者や放送事業者といった専門家にとっては，非常に興味をそそるものである。

したがって，多くの人々に，この貴重な資料ともいえる番組をみる機会を与えるため，日本賞コンクールの参加番組を選択し，各地で閉回路方式で上映できたらと思う。こうすることによって専門家の人々は，その知識と情報を完全なものにすることができるのである。コンクール終了後，参加番組を選択して人々にみせることは簡単に実現出来ることであり，ルンドグレン氏も指摘するように，正に教育テレビジョンのメッカともいえる重要な意味をもっている。そして，こうすることにより，教育番組に関心をもつ多くの人々は，その思想と豊かさを生かして使うことが可能となってくる。

ロンドンタイムズ編集長
教育顧問
**ウォルター・ジェイムズ**

教育放送に直接関係していない者にたいして，ありがたいことに，日本賞教育番組国際コンクールは，広範囲にわたる教育放送の現状を示してくれます。教育放送は量も多く，また，内容も多岐におよんでいます。基礎教育番組もあれば，最近の科学上の発見をたくみにみせる番組もあるといった具合です。この教育放送の多様性は，どんな国でも，その国の中だけでは経験され得ないものです。しかし，日本賞教育番組国際コンクールでは，この多様性を目のあたりにすることができます。

といっても，こういろいろな番組があっては，テレビジョン部会の審査員の苦労は大変なものであったにちがいありません。参加番組は，初等，中等，成人教育と分類されてはいますが，たとえば，この成人教育部門を例にみても，審査委員会は，コロンビアの番組と西部ドイツ放送協会の番組を比較するのにどうしたのでしょうか。コロンビアの番組は特別賞をとりましたが，文盲教育の番組であり，西部ドイツ放送協会の番組「元素 104」は，一般視聴者にとっては高度すぎるような，科学番組なのです。これらの番組を制作した2人の担当者が直面していた仕事は全く異なったものなのです。

初等教育部門ならば，そう問題はないと思われるかも知れません。しかし，今度は，教授法が，世界中同じではないので，比較することがむつかしくなります。ごく平凡な番組もあれば，よく考えた番組もあります。ある番組では，教師の指導に重点がおかれ，また，

他の番組では，児童が学習の中に組み込まれているものもあります。私のみたところでは，ポーランドの番組「宝さがし」，この番組は，博物館見学といった形をとっていましたが，この作品は，昔しからのごくありふれた教授法のものでした。ところで，イギリス放送協会の作品「お城を見よう」は，２人の登場人物のお城をめぐる攻防が，子どもを番組に引き込み，登場人物とともに能動的に学習していくというタイプのものでした。幸なことに，この２番組はともに受賞しませんでしたが，もし，このふたつの番組のあいだで決定を迫られたとしたら，審査員は，教授法に賞を与えるのか，あるいは，番組の出来具合に賞を与えるのか，迷ったにちがいありません。

さらに，番組で教科内容を直接教育するダイレクトティーチングスタイルの番組と，教科課程に，教師ではできないような内容をつけ足そうという，いわゆるエンリッチメント番組の間にも，差異があります。前者のすぐれた例としては，イスラエル教育テレビセンターの番組「投影法製図の基礎」がありました。また後者，エンリッチメント型の番組には，フランス放送協会制作の音楽番組「音楽の世界リズムＩ」があります。この番組は優秀番組賞をうけました。

番組のねらいが非常に異なっている場合，審査員は，どんなふうにして優劣をつけるのでしょうか。特に，「教育番組とは何か」という，根本的なむつかしさがあるのです。シェクスピア劇のフィルム番組は，広い意味で教育的でありますし，テレビジョン放送会社が，一般向け番組として放送しているような，麻薬や産児制限に関する討論番組も教育的です。しかし，こうした番組は，日本賞教育番組国際コンクールの枠内に入っているでしょうか。アメリカ合衆国の NBC から参加した，すばらしい１時間番組「ジョージ・ワシントン」，また，アイルランド放送協会の番組「ある詩人の肖像―イエーツ」，こうした番組をみて，私は，学校や大学といった教育施設で，これらの番組を自然なかたちで利用するのはむつかしかろうと思いました。テーマが大きければ，それで教育的なのです。そして，ある意味では，この二つの番組も教育的です。しかし，私は，日本賞コンクールの参加作品を，学校や大学といった教育機関のいわゆる教育課程に無理せず自然にとけ込むような番組に限定すれば，選択がよりたやすくなるであろうというように感じました。事実，これが日本賞コンクールのねらいになっております。しかし，私個人としては，参加番組の中に，2～3，すぐれた番組ではあるものの，何か異質な感じの番組があったと思います。

審査員が直面したにちがいない困難について述べましたけれど，これは，今年の審査員が，如何に美事にこれらの困難を克服したか敬意を表するためです。受賞機関が公表されましたとき，オブザーバーの人々は，判定の正しさを賞讃し，その選択に同意しました。

テレビ部門で日本賞をさらったＮＨＫの番組「新しい数学―対応」には，一同賞讃を惜しみませんでした。この番組では，完全に習得したテレビジョン技術と非常に明快な演出がひとつになっております。同時に，この番組を引き立たせているのは，教育には得難いウィットがあるということです。日本のこのすばらしい教育放送番組は，みる者を大いに勇気づけてくれました。日本には，教育放送の分野で，ますます成長する大きな資産があります。そこで，新興国の多い広い地域で，日本が，この方面の主導権をもつようになっているのです。日本賞をとったこの番組，あるいは，私の滞在中に見聞したＮＨＫの番組からみて，日本は年々増大すると思われる教育放送の分野での役割りを十分に果たせることでしょう。

参加全番組の中には，驚いたことに，学校で１回に利用可能と思われる放送時間，20分を超過している番組が数多くありました。また私は，科学番組が，専門外の人々には理解しにくいものであったのにも驚きました。カナダ放送協会制作の科学番組「レーザー光線」の言葉は英語で，イギリス人の私にとってはよく理解できるものでありましたが，その魅力あるカラーにもかかわらず，レーザーの作用や，その本質について，理解することはできませんでした。西部ドイツ放送協会の番組「元素 104」もまたおなじように，はっきりしない番組でした。ところで，科学者たちが，我々とコミュニケーションの道を見出すことができなければ，科学者の怠慢は，テレビジョン番組の範囲をこえてひろがっていきます。

今年のコンクールのテレビ部門は，審査員もオブザーバーもともに熱心でした。批判をお許しいただけば，すこしばかり熱心すぎたといいたいのです。食事，休息の時間はありましたが，ときには朝9時から夜7時まで，次々に番組を理解して見ようとすれば，心身ともにつかれ，判断力もにぶることにさえなりかねません。

こうした負担を分散させることができるかどうか考えてみるのも，意味あることと思われます。事実，1969年度の審査員は，初等教育部門30，中等教育部門37，成人教育部門37本と100本以上のテレビ番組を視聴したのです。ことを簡単に運ぶために，将来は，審査員全員ですべての番組をみるのではなく，コンクールの第一段階として，分科会にわけたらどうでしょうか。例えば，第1分科会が初等教育部門，第2分科会が中等教育部門，第3分科会が成人教育部門を審査するとします。その場合，各分科会は，その部門の最もすぐれた作品を10本選び出すのです。ついで，審査員全員で，再びこの30本の番組をみて，その中から受賞番組を選定していくのです。1969年度のコンクールで，この手順をとったとしたら，審査員1人が視聴する番組数は68をこえることはなかったわけになります。テレビジョン番組の参加が，毎年増えつづけるなら，当然，このような工夫を，何か考えなければならないでしょう。

コンクールの期間中，私は，ラジオ番組を聞くよりも，テレビジョン番組の視聴に全時間を使ってしまいました。そのため，テレビジョンと同様に，コンクールで大切な部門であるラジオについては何も述べませんでした。自分自身聞かなかったのですから，何も記すことはできません。私がラジオについて何も述べていないからといって，それで，私が，教育におけるラジオの役割りを認めていないとか，ラジオは過去のものであると考えているのだと解釈されては困ります。ラジオは経済的ですし，広く普及しておりますし，また，テレビジョンでは，映像に気をとられて注意を集中することができないようなことが起こりますが，ラジオでは，精神を集中することが可能です。

主催者は，コンクールのきびしさをまぎらわすために，近郊への旅行を実施してくれました。こうしたもてなしは，心のこもったものであることはもちろん，コンクールの運営上からみて，まことに賢明な企画です。人工的なもののあとには，自然の美しさのすくいが必要になります。宮島を眺め，瀬戸内海の日に照り映える海面に，生きかえった思いでコンクール業務にもどることができました。コンクールの最後に，京都で気分を新たにした時もちょうど同じようでした。工業都市の中では，緑におおわれて丘にかこまれているこの広島ほどに美しい都市は数少ないのです。また，具合よく，広島市の山田市長が，オックスフォード出身者であると知って，心からくつろぐことができました。心のこもったコンクールの計画と運営，世界各地から訪れる人々にとって，このコンクールは，日本の姿を知るよい機会となっています。

アラブ連合国営テレビ放送
教養番組主幹
**サミラ・エル・キラニ夫人**

数年前，テレビジョンが実現したとき，多くの人々は，この魔力の小箱が贅沢に類するもの，それどころか時間をつぶす小道具と考えた。この小箱を教育目的に使用するのは極めて困難であると信じ込んでいた。現在，この意見が正しかったと証明されているだろうか。テレビが広く利用されている国へ行って見よう。極東の日本へ行って見よう。そこでは，特別のチャンネルを朝6時から夜半まで教育番組にあてている。日本では，毎年，初等，中等および成人教育番組のうちから最優秀番組を選び，これに日本賞を授与する教育番組の国際コンクールが開催されている。このコンクールの主たる目的は，その規約にある通り，すべての国々の教育放送番組の振興を支援し，諸国民の間の理解と協力の推進に寄与することにある。

私は，1969年11月5日から広島で開催されたコンクールに出席

した。幸いにも私は，アラブ連合を代表し，オブザーバーとして参加した。

このコンクールには，ラジオとテレビを合わせ，56カ国が参加した。コンクール開催第1日目に，会場への道すがら，一行は，原爆犠牲者の慰霊碑に詣で，審査委員長ウィルバー・シュラム氏が一行を代表して，花輪を捧げた。

そこには，諸国民すべてに対する戒めとして，平和の火が永久に燃えつづけているのである。

2週間にわたり，審査委員およびオブザーバーは，約104本のテレビ番組を視聴した。初等教育番組は，全体として良好であったが，番組のなかには例えばスイス放送協会の「ドガ」のように初等水準より高いものもあった。そのアイディアは，オリジナルなものであり，作品も人をひきつけ，生気あるものであった。私は，ほとんどの番組が児童に向く大変立派なグラフ，モデル，それに図式を利用していることに気付いた。

中等部門では，芸術，科学，数学，歴史および言語など多種類の番組が提出されていた。

番組のあるものは，私の意見では，本当の意味で教育的ではなかった。あるものは教養的であり，またあるものはドキュメンタリーや，伝記的なものであった。

例えば，60分番組「ジョージ・ワシントン」は，実に立派な史実の作品であった。写真，図式，フィルム・ストリップおよびドラマを導入することによって，この歴史上の人物の物語りを完全に知ることができた。

もう1つの例は，アイルランドの参加作品で，48分の「ある詩人の肖像—イエーツ—」であった。これもやはり，教育要素を備えるドキュメンタリー風のものである。この番組は，われわれに情報を与えてくれたが，番組形式は，やや教養的であった。

なおまた，学校用として60分あるいは48分番組を考えることはいささか困難である。標準番組時間は，1番組につき20分であるのが普通である。3番目の例として，アメリカが提出した番組は，単なる討論に過ぎないものであった。その課題は健康に関する非常に大切なものではあったが，だからといって，それを教育的とみることができるであろうか。ついで，アメリカ教育テレビジョンの番組「アウトサイダー」を見るとき，この番組は，2人のギャングが互いに粗暴な振舞いをする様子を物語のきっかけとしている。この作品は，いくつかのグラフを用い，2人のギャングを実際に闘わせる場面まで写し，大変魅力的であった。それが最高頂に達したとき，司会者は，話の全体を小説を読むように語ったが，これは教育番組というよりはむしろ広告に似通っていた。このような番組をみて，教育という用語の真の定義について多分に考えさせられた。このような番組には，幾分かの教育的要素があるといえるものの，教育的な学校放送番組の範疇にこれをいれられるものであろうか。

NHK制作の番組「新しい数学～対応～」は本当に非凡な，また高く賞讃されるものである。これこそ初等段階の真の教育番組である。この番組では，数学の1項目をとり上げ，種々異なった方法でこれを説明しようとした。これは，終始注目の的となった。教師はすぐれ，立派な出来であった。

もう1つ素晴しいNHKの番組は，「落体の運動」という科学番組であった。教師は，前述の番組と比べ，それほどの出来ではなかったが，番組は，新しい工夫（少くとも私にとっては新しい）として，スローモーション・ビデオテープを利用していた。

成人教育では，課題は広い範囲に及んでいた。私は審査委員一同に同情した。なぜなら，このように相異なった課題から選出することは，全くむずかしいことであったからである。

多くの番組が文盲を取扱い，世界がこの問題に真剣に援助の手を指しのべ始めたことを示していた。

番組のなかには，「堕胎—ドイツの場合—」という番組のように，大胆な課題を取扱っているものもあった。

BBCの「赤ちゃん誕生」もまた大胆な課題の一例であった。この番組は，姙娠と出産のありのままをこと細かに描写していた。この作品で重要なのはカメラであった。カメラは，はっきりした，賢

明な方法で細部をいちいち写し出していた。課題の観点からすれば，この番組は，不安をもつ母となるべき女性に完全な知識と安心を与えるものであった。

キューバの番組「こどもに帰ったエルシタ」は，科学的方法により正しい愛児の導き方を母親に教える別の例であった。これは内向性の児童の実際の例を取り上げていて，解説には，心理学者が当っていた。この番組の担当者は番組形式としてドラマを用いていたが，非常に出来栄えはすぐれ，真にせまり，不自然さはなかった。

今回から，日本賞ではカラー番組はカラーで審査された。カラーによって，博物学，科学，それに地理を取扱う課題に対しては，さらに活力と明確さが与えられたのである。

コンクールについて，このように一般的な寸評をしてきたが，私は，次の提案を討議されるよう望むものである。

1. オブザーバーを審査委員と切り離さないこと。オブザーバーも，審査委員の討論について，例えば，審査委員室からの拡声装置つきの音声ラインにより，これを「傍受」することができるようにする。これによってオブザーバーには，審査室で取り交わされる論議をたどる一助となり，オブザーバーのうちで特に開発途上国を代表するものにとっては，知識を深めることになる。このような「新技術の接触」による恩恵は，ありあまるほど大きいのである。
2. 開発途上国は，1人またはそれ以上の教育番組の担当者を進んでこのコンクールに派遣すべきこと。これは担当者が，多くの有用な経験を収集できるからである。経費に関する取決めは，コンクール開催国と参加国の両者によって互に処理することができよう。

最後に一般的なことについてひとこと述べたい。

日本へ初めてきた者は非常にめぐまれている。日本賞事務局長および全協力者の労を惜しまぬ努力のお蔭で，2週間に及んだ生活は，喜びそのものであった。日本の自然と社会の美しさは，参加者の目や心におおらかにくりひろげられた。この体験は忘れ難い。このように日本賞は，最も確実に，日本国民と参加諸国の国民の間の友好関係を促進する一助となっている。

北ドイツ放送協会
教育テレビ番組局長
**カール・ハインツ・グロスマン**

グーテンベルグが500年前に印刷術を発明して以来，ラジオとテレビのように教育過程を完全に変貌させた機械は他にはなく，また，これまでのところ，この革命はまだ開始早々に過ぎないと推定するのが妥当である。多くの国々では，公開大学についての論議が行なわれており，また，一般教育制度のなかに通信講座を統合しようとしている。こうした動きは，新しい技術的，経済的な開発が可能となれば，教育放送はさらに発展することを示している。

日本，スウェーデン，イスラエルおよび開発途上にある数カ国が短期間に示した通り，補助教育としてのラジオとテレビの利用は，贅沢なものではなく，文化的政治的に極めて重要な過程である。人類史上初めて，各人の社会的階級や経済状態に関係なく，個人の能力にもとづく教育はすでに到来し，あるいは遠からずいずこの地においてもこれを受けることができるようになろう。他の教授方法を結合させれば，放送は将来の教育制度の中で強力な役割を果たせるのである。

これを納得のいくまで立証してくれたことが，1969年度日本賞コンクールの最も重要な成果であったと思われる。1965年以来，5回にわたり，NHKは，全世界の国々から寄せられた最良の教育番組を視聴するまたとない機会を提供してきたのである。オブザーバーの一員として，このコンクールに参加することは，極めて興味深いことであり，貴重な体験となるものである。。

コンクール参加の104本のテレビ番組は，幾多の異なる教育目的

の達成を目指ざし，広範囲な各種の教科におよんでいた。またそれらは対象視聴者の特殊な文化的，教育的要求に応えるものでもあった。

今日の教育放送は，幼稚園年齢層の子どもたちを対象とする番組はもとより，大学院生対象の講義および教師養成講座，全学年対象のテレビ学校放送，それに成人教育番組の全域にわたる番組をいうのである。教科の範囲もおとぎ話から硬膜外麻酔法の講義まで，また，水が媒介する伝染病から心臓移植の法的側面にまで及んでいる。

教授法，演出方法，そして専門的な技術などのレベルは高度なものであった。近年教育放送が果たして来た進歩をみるのは，実に頼もしいことである。総じて言えることは，視聴者に漸進的に知識または技能を習得させ，また，新たに何かを学習する喜びを与えるといったぐあいに，番組を制作しており，この間の平衡は正しく保たれていたことである。

私は，さらに効果的な演出方法の研究についてのすさまじい努力の成果に極めて深い印象をうけた。教育テレビは，課目の説明について黒板とチョークだけに依存し，テレビ・スタジオのカメラから送出され無線放送とはもはや同義語ではなくなっている。ドラマ化作品，ドキュメンタリーおよびテレビ映画の数は，講義型式の番組よりはるかに多かった。

フィルム，グラフ，スチール写真およびアニメーションなどを巧みに利用して，近年，多くの興味ある，効果的番組が制作されてきた。この傾向がつづくなら，国際的な番組交換と協力が将来さらに重要性を加えることは確かである。

このように，テレビ学校放送および成人教育番組は，その制作方針とか教授法が変化しつつあると言える。これは，番組制作の際，テレビ教師に依存するよりは，教育目的にかなったテレビ技術の可能性を想像力豊かに利用する方向に向っていることを示している。

ＮＨＫ制作の「新しい数学～対応～」で明瞭に判るように，教えるということは，教育の初期に典型的とみられる厳格にして厳粛な雰囲気は感じられないものの，今なお真剣な仕事といえるのである。

教育放送がマルティ・メディテ・システムの一部となるとき，その目的を最も効果的に達成できるという，一般的意見の一致にも拘わらず，この種の番組で1969年のコンクールに参加したものは，ほとんどない。その理由としては，もちろん，こうした放送番組の審査は，番組の構成要素をすべて審査員に提出し検討をうける場合に限り公平になるということであろう。

テレビ部門では，初めて，カラーの作品が参加できるようになった。このことは，カラーが番組の主題に不可欠の特性であり，それ自体重要な情報となる場合，教育テレビの全分野にわたって新たな可能性を展開させるものである。しかし，カラーの価値を視聴者の積極参加または動機となる刺激剤として，評価するのは早すぎる。

かくも多岐にわたる歴史的，文化的背景を有する諸国の番組を視聴し，社会構造や経済状態には格別興味深いものがあった。しかし，こうした番組が放送されている教育的背景の知識がなければ，番組の価値や効果について審査することは，極めて困難である。とはいえ，誠に傑出した番組が幾つかあったのでこれについて意見をのべてみたい。

ＮＨＫ制作の「新しい数学～対応～」は，専門家チームが，所要の熟練，想像力，献身，経験，知性，勇気および財源を統合させるなら，成就できるテレビ学校放送と通信講座の実例であった。この番組は，得心のいく教授法と，扱かう教科の明快さと鮮明さ，理解し易い方法および，刺激的，娯楽的演出等を結合させたものである。この番組は，学習はおもしろく，かつ最も楽しい仕事となりうることを立証したのである。

ユーゴスラビア国営放送の「テレビで学ぶアルファベット」についても同じことが適切にあてはまるのである。この文盲者対象のドラマ化作品のシリーズものは，読み書きの方法について情熱と想像力をもって教えるばかりでなく，成人視聴者の学習能力と継続する意志について，自信を強化させるあらゆる資質を備えている。

コート・ジボアール国営放送の「稲作講座―田植」は，テレビの

機能を成人教育のために極めて効果的に利用したもので，非常にモダンな，うまく構成された教育的なドキュメンタリーである。

以上の受賞番組とは別に，教育テレビの開発に従事する者すべてに興味あると思われることがらを2,3述べてみたい。

スウェーデン放送協会の「自然の造形」は，都市を児童に見せることによって，自然の中に発見する幾多の変わった形体に児童の注意をひきつけ，彼らの周囲をよく注意して観察させるために，大いに役立つものである。

BBCの「お城を見よう」は，中世紀の城の機能と，その城が，外敵の攻撃から住民を守るためにいかに効果的に建造されているかを想像させるために，小学校年齢層の少年少女に大いに役立つものである。これは，児童が，昔の生活がどのようなものであったかを身をもって知るためには，有効な方法と思われる。

古典文学は，文化遺産の単なる一部分ではなくて，人間の習性・ふるまいについての最も興味あるその時代の研究なのである。これを立証するには，シェイクスピア劇の理解を深める上で貢献している，オンタリオ教育省の「リチャードⅡ世」の顕著な功績をあげることができる。

もし一つの国からの各種の参加作品をひとまとめにして審査するとすれば，第1位は日本とNHKに落ちつくことは殆んど確定的である。第2位は，今年は多分イスラエルとイスラエル教育テレビセンターが受けたことであろう。そのなかで，イスラエルの「幾何（長方形）」とNHKの「通信高校講座　物理A」（落体の運動）は，私が今回のコンクールでみた最良のダイレクト・ティーチング番組であった。

最も印象をうけたドキュメンタリーは，BBCの「赤ちゃん誕生」とブルガリア国営放送の「遺伝の謎」であった。もちろん私は，北ドイツ放送協会（ARD）の「海中の生物」はよい番組であると思ったのであるが，私自身もこの制作にあづかっていたため，当然のことながら，これについて発言しないことにする。

最後ではあるが重要な2つのドラマ作品をあげなければならないと思う。すなわち，アメリカ教育テレビセンターの「アウトサイダー」とハンガリア国営放送の「愛情」である。これら二つの番組であつかっている人間についての研究は，我々に種々な考える材料を与えてくれ，討論のために豊富な素材を提供したのである。

過去5年間にわたり，日本賞コンクールは，全世界の多くの国々における教育放送の発展に効果的な役目を果たしてきた。このようにNHKは，各国の教育放送関係者に協力を惜しまず，これらの教育放送のあるべき姿のよき模範を示して来た。NHKの学校放送，通信講座，幼児番組および教養ドキュメンタリーを見る者は誰もが，その卓越した仕事を尊敬し，賞讃する。こうした番組は，日本が教育と訓練の全分野で行なってきたぼう大な努力の一部分にすぎない。

日本賞コンクール参加の放送機関すべてのために，あらゆる支援を与え，もってこの行事が引きつづき，新しいアイデアと経験交流の市場としての役目をさせたいものである。日本賞にふさわしいより広い周知を行ない，番組制作者，教育者および関心ある家庭の視聴者に最近の教育放送の発展について情報をながすためには，審査委員は，決定について詳細な理由を明らかにしなければならない。こうすることにより，世界中の視聴者を，より秀れたより効果的な教育番組制作方法の討論に参加させることが可能になるだろう。また，それは各国の番組制作者と担当者の間で，教育放送がその強い要求に応えるための最善の方策についての理解を促進することにもなるのである。それはすべての国々における教育放送機関の関係者の仕事に関する基準を発見し，また，おそらく審査委員がWGNコンチネンタル放送会社（アメリカ）の「心臓移植～その法的側面～」に賞を与えた理由についての質問に答える一助ともなるのである。そして，各国の放送機関が受賞番組のうちからできるだけ多くの番組を審査委員の審査結果をいれて放送すべきである。

教育放送は，諸国の教育に課せられた重要性を，よかれ，あしかれ反映するものである。日本賞参加作品を比較して，私は次のような印象をうけた。すなわち，今年の番組のなかで，幾つかは質において満足できなかったが，その原因は手段とか経験の欠如というよ

りむしろ公共放送の教育上の潜在力に対する社会の無関心さであるということである。この意味からすれば，各国はそれ相応の教育放送を具備しているといえるように思われる。

広島大学教育学部教授
林　重　政

日本賞は回を重ねるごとに，その参加国，参加機関，参加番組本数も増加している。昨年は参加国53カ国に対し，本年は3カ国が増え，56カ国になり，参加機関数も11機関増えて86機関となっている。昨年はラジオ87本，テレビ80本，計167本に対し，今年は177本におよび，過去4回までの国際コンクールよりはその規模も増大し世界最大の国際コンクールであるといえる。

これら番組は，絵画，社会科(地理歴史)，語学，文学，音楽，科学，数学，道徳，性教育などの分野や，それらいくつかの分野にわたった総合番組もあった。

番組を視聴して特に感じたことは，それぞれの国や民族のくらし，風俗習慣などはすべて歴史性をもっているため，これらを本当に熟知しておらなければ番組が十分理解できないようなことが非常に多いということである。表面的には一応理解出来ても真の理解はなかなか難しい。例えば英領ソロモン教育庁放送の「一つの国民に30のことば」など30以上の方言があり，同じ民族でも言葉が異っているのは，たいへんだろうなという感はしても，実感としてわいてこなく，統一言語を求めるのも無理はないという表面的受け取り方しかできないのは残念であった。カラー放送はさすがに人に訴える力も強く，モノクロよりも何か強烈な力をもっているような気がした。

音楽，絵画

音楽のラジオ部門は毎年入賞しており，その点すばらしいものが多い。今年もその例にもれず特別賞・審査委員賞・阿部賞・佳作それぞれ1本づつ入選しているのである。それだけに水準も高くむつかしいものがあったようだ。テレビ部門はただ一つの出品であるフランス放送協会の「世界の音楽　リズムⅠ」は，われわれの日常生活の中で見出され，われわれをとりまく平凡な音，例えば汽車の走る音や教会のゴーンという鐘の音，ベルリオーズ，モーツアルトの曲をとりあげ，リズム・韻律などの違いを分析，身のまわりの音がいかに音楽へと発展してきたかを，わかりやすく，しかも楽しくとりあげており，テレビ分野では他に音楽番組がなかっただけ実に新鮮な感銘を受けた。

ラジオ部門では，12本出品されており，やはり音楽は耳を通してだという印象が第一にしたのであるが，韓国国営放送は第2回日本賞で受賞したこともあって，その参加番組「かや琴」は韓国の伝統的な楽器かや琴の伝統美の美しさを存分に味わせてくれながらドラマ式に説明しているのには感心した。また子どもにとってはどちらでもよいようなめんどうな音符を何の抵抗感も与えずわからせるということをねらったソビエト国営放送の「7つの音符の冒険」もユニークな作品であった。

成人向として作られたものは相当専門的なものである筈なのに素人がきいても楽しめるもので好番組であるといってよい。一般にいってとっつきにくい楽理の基礎を難なく体得できるように配慮工夫されていて，さすが音楽教育番組であると好感を覚えるものであった。

絵画は音楽とともにラジオ・テレビにより最も放送教育の成果を純粋に期待されるものであり，音楽は主としてラジオ，絵画は主としてテレビに負うところが大きいと考えられている。特に絵画はその点で古典から現代美術までを簡単に比較検討させることもでき，実際の風景を絵画へ投写させる仕方を一目でわからせることもできるのである。

本年度参加番組のうちで入選し郵政大臣賞を受けたオランダ放送連盟の作品「絵画教室―森の印象」はこの点特に上記のことがいえるのであり，小学校高学年を対象としたペン画指導であったが，太

い線，細い線，長い線，短い線など自由自在に駆使して陰影をあらわし，立体感をもりあげ，子どもが自然を深く凝視し，実際の場面から構図を考えさせるなど，視聴していたものに対しても，ペンを執ってみたいなという意欲を起さしめる感があり，さすがにと思わせるものがあった。

数学，科学

人工衛星が飛び始めて以来，数学の領域では今までの教え方でなく，本当の数学的考え方を早期から何とかわかりやすく教え，数学的思考を早く身につけようということで「数学の近代化」が叫ばれだした。集合の概念もその一つであり，できるだけ平易に抵抗なく集合の考え方を身につけさそうとしてスウェーデン，ブラジルなどが工夫して成人むけにエントリーしたものであろう。今後日本での小学校で扱う集合の指導に対しても一つの示唆を示しえたものとみてよい。

ラジオ部門で出品されたものは著者としては驚異であった。数学の放送はやはりテレビの方が勝るという著者の考え方が間違っていたのか，新しい数学をやさしく言葉で教えることでテレビ以上の役を果しているのか，そのあたりを明らかにしなければならない。特にアルゼンチン国営放送の「ローマの松」などは，集合の考え方を教えるのによく知られている音楽を素材として取りあげ，音楽と結び合わせて理解させるなど，今後研究すべきものがある。

数学でうまいと思ったのはやはりＮＨＫ制作のテレビ番組「新しい数学―対応」である。小学生にでもわかるように，また，現在放送中のＮＨＫの幼児番組「よくみよう」の最後に出てくるような形でアニメーションを用い日常生活の中から問題を拾い対応の性質を限って概念を明確化し，何の抵抗もなく受けとらせているのである。中でも，飛行機の座席と予約，荷物の預り証と荷物の荷札の対応からこれを数におきかえてゆくことなどがそれである。またキューバ国営放送の「左右対応の形」は対称と非対称の幾何学的な特性を理解させることをねらったもので多少説明がゴタゴタした感がなきにしもあらずであるが，注意して見て欲しいところには音楽をうまくつかって効果的な成果をあげている。

参加番組本数の最も多いのは何といっても科学番組である。テレビ23本，ラジオ10本である。「20世紀は科学と技術の時代である」といわれているので，各国がそこへ力をそそぎ参加番組の多いことも当然であるとともに格調高いものが多い。ラジオでは幼児番組として，ソビエト国営放送の「赤ちゃんペンギンのお話」は子どもにも楽しい話をきかせながら南極に住んでいた赤ちゃんペンギンが路に迷って遂に北極へ来てしまったという筋で地球には南極と北極があることを知らず知らず教えるという水準の高いものもあり，日本賞を受賞したブルガリア国営放送の「惑星メディアの事件」など秀れたものが多かった。テレビでは時には説明が多すぎたり，苦心した個所のフィルムを沢山出しすぎたり，模型や実験でわかりやすく説明しすぎたため，かえって平凡になりすぎたり，あまりにも専門家むきで一般受けしなかった作品などもあったが，一般的には各国が苦心をし，国の科学水準を高めようという努力が見受けられ，来年に期待される部門である。

職業指導

成人むけ教養講座といったものが多く，そのことが当がい国の産業の水準を示しているようであり，それぞれの国で最も将来考えるべき産業，現在問題として考えるべき職業が取扱かわれているようであった。コート・ジボアール国営放送の「稲作講座～田植～」は特別賞受賞だけあってコート・ジボアールの在来からの稲作の方法を改良し新しい現代技術を取入れることを教えようとして，こと細かく紹介し，最後に復習の意味で要点をもう一度解説し，コート・ジボアールの農夫にはわかりやすく工夫したものであろう。これは，キース・タイラー教授（Prof. K. Tyler）のいう教育放送の二つの大きな性格，curriculum enrichment program と basic presentation program のうちで，むしろ後者の働きを考えているようである。

歴史・その他

その国の歴史もその国の人が見るのと外国の人が見るのとでは，

同じ事実でもその全体像のつかみ方は異なってくる。そこにむつかしさがある。しかし企画として面白いのはクイズ方式の「首長ケイタ物語」，コート・ジボアールのものであった。

多くの番組を視聴しているうち気付いたことは，一つの概念を明確化するために視聴覚的方法を用いる手法と，ポエティックなものを逆に視聴覚化する方法で，この両者を止揚して放送の真価を発揮することが可能である。例えばイギリスのインデペンデント・テレビジョンの「生と死と」は詩の朗読にのせて誕生から死までの人生のサイクルをシェマテックかつ幻想的にとらえており，詩情の視覚化に成功している型と，スイス放送協会の「二つの目」は，1)人々は身分がものを見ているのであるが，それを自分自身あまり気づいていない，2)同じものを同じように見ている人はひとりとしていない，という二原則を子どもにわかりやすく説明しているいわば「生活の知恵」式番組の型である。これらは共に格調が高い番組であった。

オランダ放送連盟の「テレビろう教室—レストランにて」などは聴力障害者への意欲的取組みで読唇の重要性をレストランを舞台にろう者に学ばせているが，そのような身体障害者番組を意欲的に取組んでいるところに好感がいだけ構成もうまかった。

文盲者を対象にした番組はアルゼンチン国営放送の「リタとポール」(子音Rの変音)，チュニジア国営放送の「Zという字を覚えましょう」，ブラジル新聞放送連盟の「文字を覚えましょう」，コロンビア国営放送の「成人学級—ことばと数」，ユーゴスラビア国営放送の「テレビで学ぶアルファベット」などがある。国がテレビを利用してまたラジオとラジオテキストを用いての文盲遂放は今後の国家の方向を決定する重要なことであり，それだけに熱意もみられ努力もうかがわれる。ここに特別賞として「成人学級—ことばと数」，「テレビで学ぶアルファベット」が入賞したことも国の施策とその努力のあらわれと評価したい。

このように教育放送が教育の中で果す役割の大きさ，意義とそのあらわれる効果が理解されてくればくる程この方面における教育と制作がより発展すると共に，各国が協力と刺激を求めあいながら，世界の相互理解に近づくよう期待したい。

# あとがき

日本賞教育番組国際コンクール
事務局長　吉　田　　正
（NHK 放送総局副総局長）

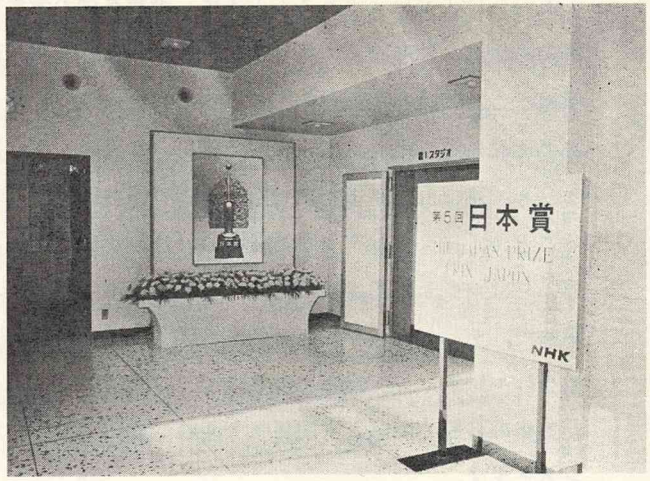
原爆記念碑が立つ平和都市広島で開かれた第5回日本賞コンクールは，晴天にめぐまれました。とくに瀬戸内海の船旅の日と，大阪万博建設地と京都見物の旅行は，秋の最後の美しい日和に恵まれました。百数十本の番組を見るため，朝から晩まで2週間余りも生活を共にしていますと，疲れもしますが親しくもなります。審査が終ってからの旅行はいつも楽しいものです。今度は特に京都の紅葉が美しく印象的でした。

第5回のコンクールから日本賞ではカラー番組はカラーで審査することにし，さらに，日本賞レクチャーを創設しました。日本賞レクチャーは，毎年のコンクールにお招きする審査員またはお客さまのなかから，教育と放送について権威ある先生に講演をお願いし，将来の世界の教育放送の展望とその向上への指針としたいという趣旨によるものです。今度はアメリカ・スタンフォード大学マスコミ研究所長のウィルバー・シュラム教授にお願いしました。この報告書の次に掲載しましたのでお読み頂きたいと存じます。

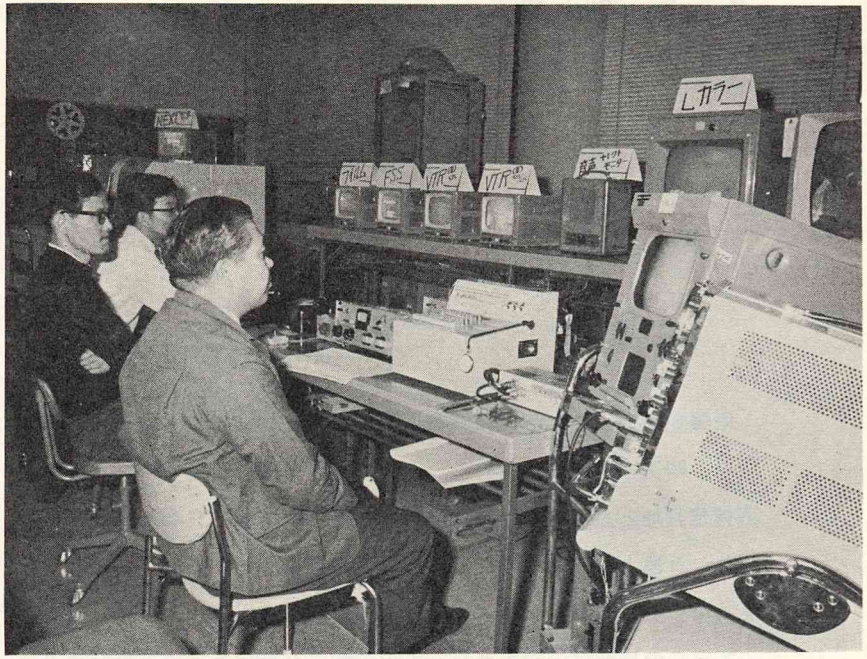
例年のように今回もコンクールに出席された方々から日本賞についての率直な助言やご要望をうかがうことが出来，感謝しております。われわれは第6回のコンクールをよりよきものにするために，それらのご意見の具体化を検討しています。たとえば審査員の審査のスケジュールをより楽にする方法，通訳の改善，ラジオの優秀番組の抜粋集を編集し，参考用に回覧することなどです。また，オブザーバーの出席が増加し，皆さんが審査員と同様に熱心に番組を視聴されるので，オブザーバー室の改善なども考えています。

年を追って日本賞コンクールへの参加は先進国も発展途上国も増加し，参加番組も増えています。これは日本賞コンクール設立の趣旨が広く皆さまのご理解とご支持を得てきましたことで，事務局のわれわれは大変励まされるとともに，世界各国の教育放送への献身的努力に深く敬意を表すものです。毎年各国の選ばれた代表的教育番組をこれだけ多く網羅的に見られる機会はこのコンクール以外にありません。このコンクールの意義をより高めることは，このコンクールで選ばれた番組を出来るだけ多くの各国の関係者にお見せすることで，従来通りテレビ優秀番組の抜粋集を編集すると共に，今年からはラジオ優秀番組の抜粋集の作製も準備中です。また，この意味で，テレビ番組審査部会長をお願いしましたスウェーデン放送協会のルンドグレン氏のご意見のように，このコンクールで入選した番組の各国での試写も関係各方面のご協力で実現すれば有意義だと考えます。

最後にこのコンクールが年を重ねるにつれて痛感しますことは，世界のある国々には非常に優秀な番組があり，またある国々はそのような優秀な番組を欲しているということです。そして，このコンクールが，教育放送についての新しいアイディアを吸収し，交換に最も適した番組を発見するのに役立つことでしょう。さらに希望されますことは，広い各国の協力によって，教育番組の国際ライブラリーを設けることです。完成した番組とともに優良な番組セグメントも有効に使用できるでしょう。これらのサービスを必要とする国々の要望をきき，総合的計画をたてて，各国が受け持ち分担を決めて，番組または番組素材を製作し，各国語版を作ってライブラリーとし，そのコピーを世界の必要な都市にブランチとして設立し，各国の利用しやすいようにすることです。衛星時代，コンピューター時代を迎えました今日，21世紀に向って各国の教育放送の向上のため，われわれはもっと協力していくべきことがいろいろあるのではないかと考えます。

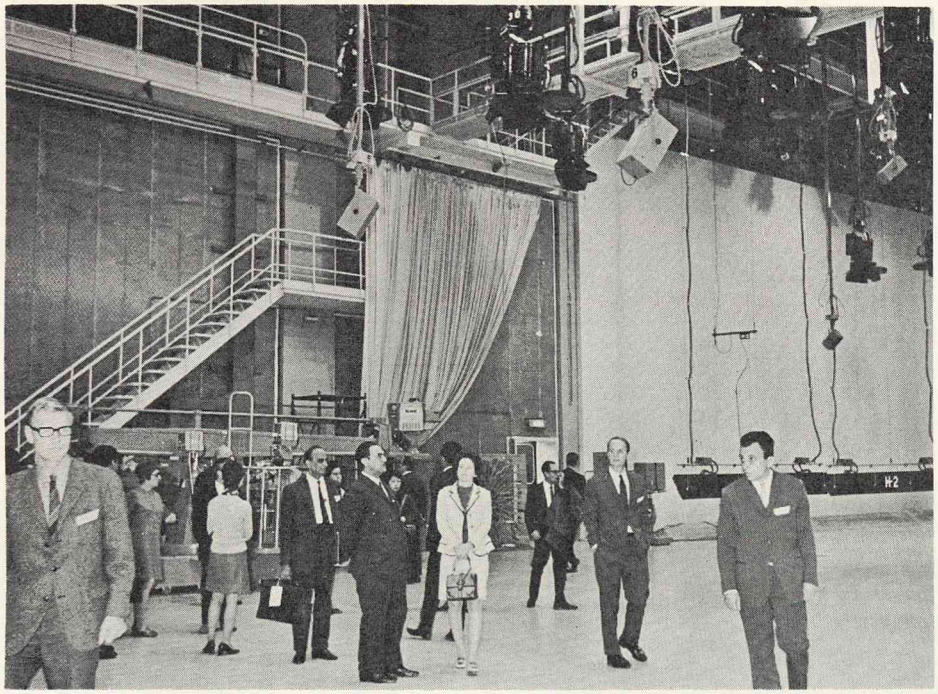


授賞式会場入口


テレビ番組再生機械

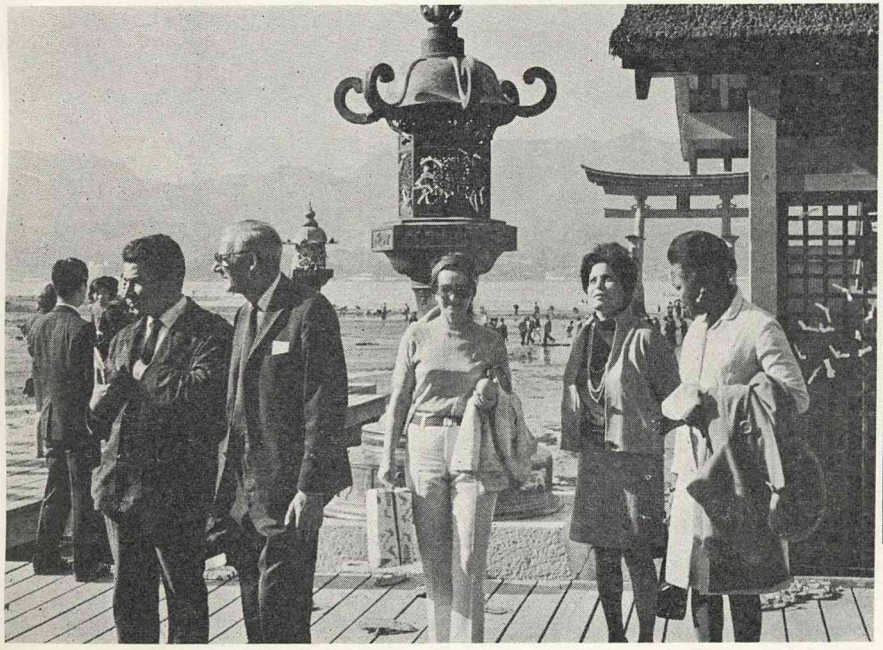
番組保管室

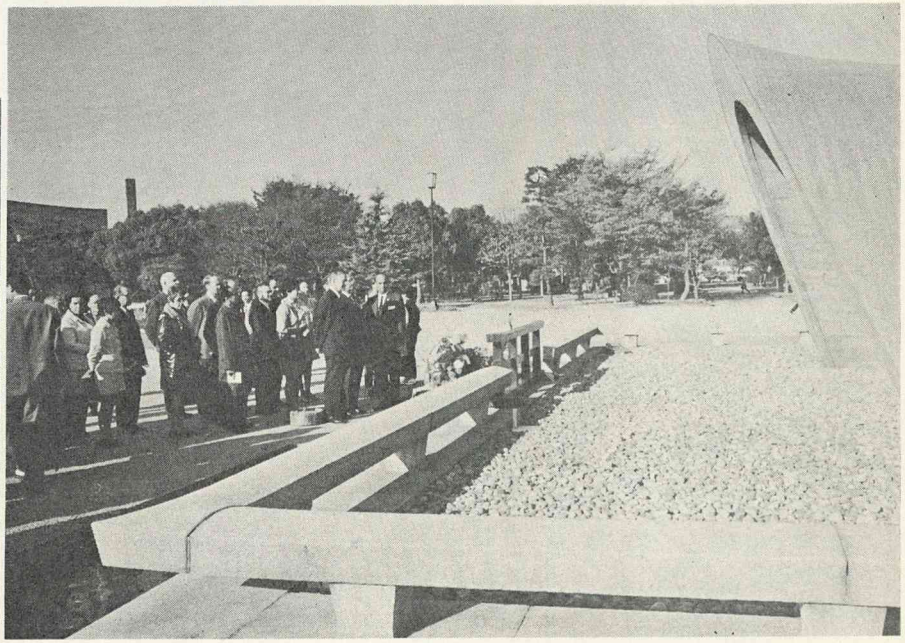
NHK放送センター見学



NHK放送センター見学

宮島見学





原爆慰霊碑に花束を捧げる審査委員

# 「日本賞」コンクール記念講演

# あすの教育放送

## ——その役割と可能性——

スタンフォード大学
コミュニケーション研究所長
**ウィルバー・シュラム**

本日の話題を考えておりました時，私の脳裏に浮んだのは，2千年前に書かれた美しい詩の一節でした。皆さんのお国においては，私達の国ほどには知られていないかもしれませんが，きっとご記憶に残るものであると存じます。

すべてのものに時がある
何事にも時がある
生まれる時と，死ぬ時
泣く時と，笑う時
悲しむ時と，おどる時
沈黙する時と，話す時

頭の中でこの一節をくり返えしてみた時，今こそまさに教育放送の将来について話すときであると思いました。今年は記録すべき1960年代の最後の年です。この10年間に，テレビが世界中に普及し，人類最初の月着陸の様子が細大もらさずテレビで同時中継放送されました。テレビとラジオは，開発途上の国々の上に根本的に新しい将来性ある状況をもたらしたのです。

テレビとラジオは，学校の内外を問わず，教育及び情報のほとんどあらゆる仕事にとり入れられています。マクルーハンがやっと言い始めたように，今や昔にかわり，印刷から得られる情報よりテレビのチャンネルから得られる情報の方が多くなったのです。

テレビとラジオは，およそどこにでもあるので，私達がそれをどう活用するかが重要な問題になってきます。オーストラリアのへき地では，最も近い学校でも300マイルも離れていることがあり，今の子供達は自分の家庭で制服を着て勉強机に向い，ラジオや通信教育で勉強しています。こういう教育の効果を疑う理由は一つもありません。私は，数年前，2人の学生に紹介されましたが，2人はオーストラリアのある大学の医学部の優等生でした。彼らは，大学までの教育の全てをラジオと通信教育によって受けたと言う事です。私が昔持って歩いたサモアの写真は，かっ色の肌の少年達がヤシをとるため，ヤシの木にするすると登っているものでした。今私が持っているのは，同じような少年達が，教室でテレビの「新しい数学」を勉強している写真です。イギリスは放送公開大学を開校しようとしています。初年度の学生は，2万5,000人，彼等は全ての講義をテレビで受け，通信教育によって勉強します。イギリスに於て，この大学に寄せられた大きな関心もさることながら，それをしのぐ大きな関心は，開発途上の国々に於けるテレビです。数年前のことですが，ある晩，インドの北部で私は1,000人もの群集が村の広場へ群らがって行くのを見ました。彼等は，村の役場のポーチにすえつけられたたった一台のテレビを見ようとしていたのです。

しかし，この発展は決して完全な成功を物語るものではありません。少なくとも開発途上の国々に於けるテレビ番組の半分は，むずかしい問題をかかえていますので，大きな革新が待たれています。ラジオ教育は，まだその可能性のほんの一部しか利用されていません。工業国に於ては，テレビの社会的影響が問題にされていますし，開発途上の国々ではテレビの文化の面に及ぼす影響が重視されています。概して，まだまだ解決されていない問題が多いと言えるでしょう。それ故に，今こそ調査のときであり，ラジオ・テレビ教育の将来について話すときなのです。

「とき」ばかりでなく，「ところ」もです。日本に於けるこの問題について今考える事は非常に適切であると思います。

20年の間に，日本の電子工学は驚ろくべき成長をとげ，性能がよくてしかも安い受信機，レンズ，レコーダー等が日本の工場から生

まれて世界中に送り出された事は目をみはるばかりです。数カ月前，東アフリカで私は，マサイ族の兵士が日本の電子工学の優秀性を認めているのをみて面白いと思いました。マサイ族は，ご存じのように狩りといくさの名手です。彼らがカメラの前でポーズをとるのをみると，はだかの上半身は絵具がぬってあり，長いヤリを持ち，カメラのシャッターがきられるまできっと遠くをにらみつけています。カメラのシャッターがきられてしまうと，この部落民は陽に照りつけられている泥でつくった小屋へ入り，小さな日本製のトランジスタラジオを持って出て来ました。そして，そのラジオで彼は，ナイロビからのニュースに聞き入ったのです。

また，日本のテレビとラジオ放送の発展にもめざましいものがあります。世界に類のない人口飽和の状態に於ける番組編成上の想像力と優秀性，すぐれた視聴者調査，すぐれた公共奉仕——これがNHKの通信教育と日本賞コンクールを生み出したのです。

こんにち，すでに50以上の国が学校にテレビをもち，100以上の国が何らかの方法でテレビを教育に利用し，教育放送が新しい可能性に向って発展しようと揺れ動いている現在，先進工業国も開発途上の国々も，今こそ放送の力を再検討し，今後どう進むかを考えるべきでしょう。

**通信技術開発の現状について**

いまもし宇宙のどこかの惑星から宇宙船がやって来て，地球という星に，到着したとしましょう。飛行士が地球上におそるおそる足をおろす，岩石を採集する，標識と旗をたてる。そして，大急ぎで立ち去る。月世界に着陸した地球の飛行士と同じように。しかし，もし宇宙人が時間があって，地球上の通信制度を詳しく調べたとしたら……。自分の惑星に帰って何と報告するでしょう。

彼らはこう言うかも知れません。地球という惑星は，通信戦争をやっていると。2つのグループの科学者と実業家と通信技術の専門家達は互いに通信技術の開発方法についてあらそっています。一方は，通信の流れを増大させようとあらゆる資源を動員しています。もう一方は，その通信の流れを人々が利用出来る様にするため，制限しようとやっきになっています。情報の流れに関しては，信じられない程の急速な進歩をとげています。我が国に於ける例をあげると，1967年に約700チャンネルが大西洋を渡っていたのが，1970年には4,000になり，更に5年後には1万2,000になるであろうと思われます。アメリカ合衆国の国内チャンネルは，1975年には6倍に増大するであろうと思います。通信衛星が出来てからまだ12年ですが，その出力は2倍も大きくなり，通信衛星から直接家庭へ放送できる日は目前にせまっています。スタンフォード大学のコミュニケーション研究所の電子計算機は秒速10サイクルで動きます。ところが，そのそばにある新しいコンピューター・コンソールは，ナノセカンド（10億分の1秒）という単位でなければ計れない高速で動きます。ライノタイプの職人は，現在1分間に175字セットできます。ところが，試験的に使われている新しいコンポージング・マシンでは，何と1秒間に1,000字，1分間に6万字の能力を発揮するのです。

こういう速度で通信技術は進歩しているのです。数百のチャンネルのケーブルから通信衛星の数千のチャンネルへ。おそらくそのうちに「レーザー光線」による数十万のチャンネルへ。

こうした進歩に平行して，情報と情報源に対する欲求が増大してまいります。数十年前は，私達は探検家が帰って来るのを待つことが出来ました。何カ月も何年も，彼等がニュースを持って地球上の遠い所から帰ってくるのを。しかし，今，私達は月着陸の様子を，着陸と同時にテレビで見ることが出来るのです。1957年，科学関係出版物が大量に発行されました。今日は，1957年のおよそ2倍の科学関係出版物が出ています。1981年には，今日の2倍になるだろうと思います。

その結果は何か？　私達はその大量のものを全部読む事は出来ません。それをしまっておくことも出来ません。科学者達は他の科学者の発見を知る暇がありません。ニュースはあふれる程あります。ところが，いろいろな種類の要求があります。その結果，人々の要

求にピッタリのニュースを供給することは困難です。我が国の場合などは，放送されているテレビのおそらく１％程しかみる時間はありません。１都市の新聞はおそらくその10～15％しか読めません。

そこで過剰な競争をさけ，他部門に力が向けられます。情報を伝達したり，保存したりする簡単な方法，たとえば，マイクロフィルムなどが，簡単に手に入るようになって来ました。そして，3,000ページを，４×６インチのカード１枚に圧縮することが，今は出来るのです。早く情報を得たい時は，ある項目のため，索引のサービスが研究されています。こうした情報競争には，また，コンピューターが非常に有能な道具となっています。コンピューターは，ぼう大な資料を分類し保存できます。また，利用者が読みたい，あるいは，見たい資料を探す時間を短縮します。図書館では，索引の自動化を始めました。コンピューターは学校でも使われています。学校に必要なぼう大な資料を処理し，学生に練習問題を提供し，どんな教師よりもはるかに，辛抱強く働きます。

通信量の調整において，一方では，発信者に主体性をもたせようとし，他方では，受信者に主体性をもたせようとしています。これが問題の核です。チャンネルがふえ，通信が敏速になれば，それだけ発信者に主体性がそなわるわけです。ところが，利用者の情報選択が容易になれば，必要なものを必要な時に得られるようにしてやれば，それだけ利用者が主体性を持つのです。

今世紀中に，通信がどの位発達するかは，この戦いの決着如何にかかっているのです。両者はきっと平和的解決に達するでしょう。そして，そこから新しい方法，新しい制度，新しいサービス，新しい利用法が生れるでしょう。従って肝心なのは，発信者側と受信者側との間の力のバランスを早くみつけることです。

私が期待する発達の様式は，発信側と受信側の「連結器」（カプリング・ディバイス）と呼んでよいと思います。増大する情報や情報需要を結びつけ，調節する用具及び組織です。言葉をかえて言えば，誰もが利用したい方法で，情報を手に入れられるようにすることです。

通信の歴史は，連結作用のあるカプリング・ディバイスにあふれています。新聞がその一つで，世界のニュースをすぐ利用できる形で集めたものです。百科辞典もその一つで，いろいろな事に関する情報の要約がすぐ探し出せるようになっています。教科書は，公立学校の主要なカプリング・ディバイスでした。映画とラジオが用いられるようになった時，視聴覚教育にそのまま使われるようになりました。今世紀の終りまでに，私達はたぶんすばらしいカプリング・ディバイスを得るでしょう。それは，印刷，音，画面を巧みに組み合せたもので，おそらく何か新しい社会的な形をとると思います。さて，ある人々が「有線都市」と呼んでいるものについてふれたいと思います。有線都市というのは，すべての家庭，学校，工場，会社に同軸ケーブルがとりつけられ，種々の情報がこの１本のケーブルを通して流され，20～40のテレビチャンネルが受信でき，音声はもっと多くのチャンネルが受信出来るところを言うのです。これによって，商工業界では，遠隔操作でとりひきしたり，オートメ工場を動かしたり出来ます。市場のとりひきも，このチャンネルを通じて出来ます。会議も出来ます。有線都市は，家庭と商店，弁護士，医師，図書館とを結びつけます。成人教育センターで一生勉強することも出来ます。映像電話も出来て，今よりも，もっともっと多くのニュースや娯楽を好みのままに選ぶことが出来るでしょう。

おもしろいのは，有線都市によってもたらされる社会慣習です。たとえば，コンピューターの助けをかりて，初めて人々は自分の得たいニュースを選んだり注文したりすることが出来，そのニュースを印刷することが出来るのです。一方，テレビはそれぞれに関係あるニュースの写真を利用者の必要な時に提供します。新聞には，どんな変化が起るでしょう。有線都市には，どんな種類のニュース・サービスが成長するでしょうか。録音・録画が増々大きな役割を果すようになり，私達は著作権ということを，即ち作者，出版者，演技者の権利について考えなおさなければならないでしょう。ある年令の間，学校や大学へ通うという現在の概念が，一生勉強しつづける，何度も勉強し直す，という風に変って行くと（すでに変わり始

めていますけれど）有線都市にはどんな教育制度が発達するでしょうか。

ここで，カプリング・ディバイスのもう一つの例を取り上げてみたいと思います。有線都市ほどのものではありませんが，まもなく市場に出されようとしている EVR (Electronic Video Recorder)，それは CBS エンジニアリングが開発した電子録画機です。ここでお話したいのは，製品の一つとしてであって，商品とか商標云々というものではありません。非常に興味ある製品であることは確かです。

EVR の正体は映像プレーヤーです。非常な速さで開発が進み，ここ日本で「日本賞」教育番組国際コンクールのために集まっている間にも，新型が発表され，1970年代後半には市場に出るということです。従って，この機械が実用化されるまでにはまだかなりの改良がなされるものと思われます。大型のアタッシェ・ケース位の大きさで，持ち運びや操作はいたって簡単なものとなるでしょう。普通のテープを使わずカセット・テープを使い，テレビ受像機に直接映し出します。カセット１個でテレビの１時間分が映ります。さらに進むと，好みの１画面が映し出せるようになります。つまり，図表や印刷したものを同一画面に結合出来るわけです。理論的には，一つの百科辞典全部を一つのカセットに入れて，テレビの画面に映写して読むことも出来ます。この機械は，カラーテレビ１台の価格よりやや安く，カセットは多分ＬＰレコードの２枚分の価格ですから，この機械は家庭や学校でも十分買えるわけです。これでこの種の機械の限りない可能性がいくらか解っていただけると思います。

### テレビ教育の将来について

さて，こういった背景を考慮に入れた上で，テレビ教育の将来について考えてみましょう。そのあとでラジオ教育についてもふれようと思います。

教育テレビには二つの相反する問題があります。それはよい番組を必要とする一方，この種の番組は教師と生徒間の教育の場で管理する必要があることです。

今申し上げた良い番組の必要性についてはこれ以上何も申しません。なぜなら受信者も製作者もその必要性を認めていると思うからです。日本においても，番組制作における日本人の並々ならぬ優秀性をもってすれば，もっともっと興味ある効果的なものになると思うのです。

教育テレビの受信者側の管理が必要であることは，現代的な教師ならどこの国でも感じられていることです。教師は，クラスの要求にかなった番組を計画する能力を備えていなければなりません。どんな特殊な番組をクラスが必要としていても教師はそれを満たしてやらなければなりません。教師は適当な所でその番組をとめて，それについて解説し学生の質問に答えなければなりません。必要とあれば，繰り返し見せてやらねばなりません。教室が「近代的」になればなるほど，学生は自分自身で，自分のペースで勉強する時間が多くなるのです。テレビ教育はこうした型の教室には必ずしも適しているとは言えません。

といっても決してテレビ教育番組の利用価値に疑問があるわけではありません。むしろ問題は，テレビが近代教育の二つの主流に，いかに合流するかということです。二つの主流，つまり，教師の新しい役割と，個人指導教育の新しい重要性です。教師は舞台監督のようなもので，各種の勉学活動を演出するのです。テレビ，映画，書物，講座，説明，討論，実習，実験，個々の研究，修学旅行等々，教師の仕事はもはや学生に教えることではなくなりました。教師の仕事は，個々の学生の希望と能力に適した勉強の機会を与えてやること，学生が自分自身に適した，能力に応じた自分自身の方法で，自らの力で勉強出来るように指導してやるようになって来ました。教育におけるこうした傾向が強くなればなるほど，広域制のテレビでは対処することがむずかしくなって来ます。

ここに，前にも申しましたように，私たちは相反する二つの問題をかかえているのです。もし，より良い番組を制作しようとすれば，私たちはすぐれたタレントを中央に結集して制作に時間をかけなけ

ればなりません。その結果，番組制作に非常な費用がかかることになります。学校が支払える程度に費用を下げるためには，その番組を大勢の視聴者に同時に見てもらわなければなりません。ところがこれは，地方的な制限という問題にぶつかってしまいます。

もし，地方的制限を求めるなら，地方で制作し，その地方で放送すればいいのですが，これは制作費は安いけれど，すぐれたタレントを使ってというわけにはいきません。したがって，これは，より良い番組の要求と相容れないことになります。一方を解決すれば他方が問題になります。

送り手側の技術と，受け手側の要求と相容れないこと，これはコミュニケーションの発達の古典的な問題であるといわざるをえません。この問題をとく為には，どんな種類の連結器（カプリング・ディバイス）や手はずが必要でしょうか？

それに関して，二つほど提案があります。一つは「有線都市」案です。将来，現在でもかなりみられるのですが，学校組織が有線のネットワークで連絡されるとしましょう。その場合，学校組織の中に「神経中枢」のようなものが作られ，テレビ番組はビデオテープにおさめられ，フィルム，プログラム化された教材，語学用テープ，その他の教材，教具と一緒に保存されると考えてはいけないでしょうか？　この場合には教師が必要な時，テレビ番組は教室に持ち込まれ，教師は彼の組に最適と思われる教材をいろいろと組み合わせて使えるわけです。生徒は準備されたコンピューター教材や，学ぶべき語学テープを各自選択するのです。

これは全くの科学空想小説ではありません。多くの学校は，現在，秀れた学習教材センターを持ち，通信連絡の設備も各種できています。例えば，今，カリフォルニア州パロアルトでは，学生達は，スタンフォード大学のコンピューターに直結されたコンソールで，個別に数学を勉強しています。同じ時に2,000マイル離れたところにあるミシシッピー州のマコムの学生達は，同じコンピューターから遠距離用の電話線で接続された彼等のコンソールを使って数学を勉強しています。このように，テレビ，テープレコーダやコンピューターを含めて，高い電気容量のケーブルを使って学校組織に供給できる学習教材センターの構想は決して夢物語ではないのです。

もし，この方向に発達するのならば，学校に新中枢神経ができた時，従来の教育テレビはどうなるでしょう？　教育テレビは恐らく，次第にある地点から他の地点の送信用に移行するようになるでしょう。また，広い地域にわたって，あるいは僻地とかに同時に教材を送りこまねばならない必要がある間は，放送として使われ続けるでしょう。当分は，地上の放送局から送り出されるでしょうが，究極的には，人工衛星から送られるようになるでしょう。いずれにしても教育テレビは，今後ますます一地域の教育中枢センターにすぐれた教材番組を送るのに利用されるでしょう。

では，もうひとつの案をみてみましょう。EVR が，その可能性をフルに発揮出来るようにまで発達したとしましょう。EVR は一地域の教材センターの設備としても使えますが，安くなれば教室でも使えるし，学生個人の机の上にもおけるようになるでしょう。EVR は，映画の持つ全機能を備えているばかりでなく，安価で，取り扱いが簡単で，テレビと同じように身近かなものになります。

EVR が家庭にも普及したとしましょう。演劇とか，オペラの歴史のコースを取りたいと思っている家庭の主婦や，電子工学とか，手術の新しい発達に関する講義を聞きたいと思っている父親達は，カセットを買うか借りるかして，家庭で学ぶことが出来ます。生徒達はカセットを家へ持ち帰り，宿題の一部として勉強することも出来るでしょう。

これらは，私達の気持を湧きたたせるすばらしい可能性です。私達は誰も，このようなテレビの発達の可能性に対して，正確な予測をすることは出来ません。沢山の可能性の中で，一つだけは予測できるように思えます。即ち，教育テレビは数は少なくなるが，より高度な番組を供給する方向へと向い，地域別教育に役立つでしょう。

この可能性を教育放送関係者に話したところ，かなりの人達は，失望の色をみせました。もし，番組を放送するというより，むしろある地域から地域へ供給するのならば，面白味がなくなるというわ

けです。私は違うと思います。ただ単によい番組というだけでなく，最高の教育番組を作るのに，十分な金と資材をもつのは楽しいことです。単に良い先生というだけでなく，本当にすぐれた先生を教室に送りこむことができ，検討されていない番組を送るよりも，よく検討した番組をスケジュールに即して送ることが出来るのは楽しいことではありませんか。学生の進歩と必要に合うよう用意された教育の一部に参加するのは，心のはずむことです。

教材の地域間の供給の可能性は，まだ殆んど開発されていません。送信，受信のできる人口衛星テレビは，世界のもっとも辺ぴな土地に経験豊かな医者の診断を送ることが出来るチャンネルを備えています。そのチャンネルを使って世界の有名な医科大学を訪ねることも出来ます。各種の病気や，技術に関する経験や社会問題やそれの解決法を，場所や国に関係なく伝えることも出来ます。大学は他の大学と共同セミナーや共同のクラスを組むことが出来ます。数年前に，通信衛星を通してアメリカとフランスの学生が1時間にわたって，テレビで話し合いました。互に相手国の言葉で話しました。遠慮もすぐとれ，彼等は同じ一つの教室にいるように話し合い，熱心な討議がたたかわされました。お互の国語を使って話し合ったのですが，時々，海の向うから言葉をなおされて，笑いがおこりました。これは，少なくともどんな時代がこようとしているかを示すものです。

もう一つの例をあげましょう。最近私の教え子の1人が，コンピューターのプログラム化された講座の幾つかを人口衛星を使って，全米数万の学生に同時に与えることが出来る案を作り出しました。彼は経済性を検討し，実験衛星の一つを使って，試みることを提案しました。これも，教育放送が地点間伝達を主にしても，つまらなくならないことを示唆しています。

更に私の予測出来る限りにおいては，教育番組の生放送は，必要でしょう。有線であれ，直接受信であれ，これらの番組には，実況放送，ニュース，ニュース解説等があります。テレビは視聴者を事件の現場に案内してくれます。たとえば月面歩行がそうです。ケネディやチャーチルの葬儀もそうです。東京オリンピックも。テレビが世界を目の前にみせるのにすぐれた効果を発揮することを多くの人々はみとめています。娯楽と同時に，私達のまわりの教育界の動きや事件の報道も放送するのはテレビの責任であります。

ですから，もし教育テレビの発展する方向が点対点，有線組織，ローカルコントロールの方向へ発達するのであれば，教育テレビに対するみとおしは，放送関係者を失望させるものでも，落たんさせるものでもないと思います。むしろ，放送関係者は，放送の歴史のもっとも輝かしい1頁を書くことが出来るようになるでしょう。

### 将来の見通しについて

要約して言えば，未来をうらなう私の水晶のボールは，ままくもるのですが，教育ラジオ・テレビは，かなり変化のある時代にさしかかっていると告げています。その時期は急には来ないでしょう。むしろ新しいシステムのふ化期間は，工業国では，多分25年位，開発途上の国々では50年または，それ以上でしょう。この期間は，ハードウェアは，常にソフトウェアに先行します。ラジオやテレビがかかえている問題は少なくはならないでしょう。規模の大きなものはなくなるかわりにもっと専門化していくでしょう。

さて，さしあたりの見通しはどうでしょうか。教育放送についてはどのような要望が出て来るでしょうか。これはかなり大きな課題ですが，私の持ち時間も殆んどなくなりましたし，もうあなたがたの忍耐もしびれをきらしているでしょう。ですから簡単に，二，三話すにとどめましょう。

基本的項目は，勿論，私達の現在のシステムを使いながら，移行期間に，新しいシステムに対して備えることです。

放送の新時代において高度の番組を作ることについて，私達は気楽に話します。が，それらの番組を制作する為には，どんな機構を作ったらよいでしょうか？　ただ単に，制作を中央集権的にするのは駄目です。実際に，制作者を商業競争させるには異論が充分にあります。教育番組にはどんな教師を起用すべきでしょうか？

普通の教師では無理でしょう。テレビの新しい時代の教師はどんな準備が必要でしょうか？　高度の番組の中で教師はどんな役目を果すべきでしょうか？　番組を事前に検討し，作り直せば，番組の効果を非常に高めることはわかっていても，お金がかかるし，作家や演技者や制作者の創作意欲を傷つけるので，作り直すことは殆んどありません。番組を事前に検討できる方法はないか。将来，制作は全課程にわたるものよりも単一主題のものが多くなるでしょう。その方が教室での経験や個人学習に組み入れやすいのです。何が基本の単位になるでしょう？　ラジオやテレビは他のもの，例えば，通信教育，ある種の教室活動のようなものと一緒に使われるともっと効果をあげるのを私達は何度もみて来ました。効果的組み合わせの原理は何でしょう？　プログラム学習の原理はラジオやテレビに応用出来ることがわかっています。が実際には殆んど応用されず，どう応用するか殆んどわかっていません。これらの問題は小さくもなく簡単でもなく，今後の課題です。

教育放送を利用する教室について少し考えてみましょう。教材を集めたり，一連の学習活動の取り扱いにおける教師の役割について，ちょっと大胆すぎたかもしれませんが，私達は話して来ました。こんにち，どれ程の教師がこうしたことを行なえるでしょうか。テレビやラジオ・テープをはじめ，近代的学習用具を使えるように教師を訓練していくためには，どのようにすればよいでしょうか。

カセットや他の視聴覚機材による家庭学習について私達は数回言及して来ました。家庭で最も役立つ番組と教室で最も役立つ番組との相違は正確に言って何でしょうか？

新しい番組を利用させるにはどんな供給機構を開発しなければならないでしょうか？

供給の形は衛星によるものから，カセットテープによるものにまでわたるでしょう。周知のようにフィルムを教育的に利用する上での最大の障害は供給の問題であります。必要な時に，必要な所へ適当な価格で明日の教材を供給するためには，どうすればよいでしょう？

教育放送に関する我々の経験・洞察・研究による発見等をどうしたら，わかちあい，集めることが出来るでしょう。知識はつんでおくものでなく，活用することが肝要です。現在，放送関係者，教育者，学者が教育放送に関する研究や事例研究，教育放送の関係資料を見たくてもそのような機関が現在どこにもない，また，教育放送の資料センターがない，というのは異常なことです。

最近5年間に，日本賞と関連して集められたＮＨＫの教育番組のストックは世界最高です。だが，日本のラジオやテレビに関する重要な研究でさえも，せいぜい，世界の人口のたった4％を占める日本語を読める人達が手に入れられるだけなのです。どうして，私達はこのような状態が存在するのをだまってみていられるのでしょう？　もし私達が世界数カ所にセンターを建て，教材や研究成果を集めて，数カ国語に要約し，必要な時には，それらのものを交換し合ったら，それは大きな助けとなるでしょう。

次にラジオの将来を展望してみます。テレビの華々しさのためにラジオは影がうすいようです。が，教育や報道に関してはテレビと同じだけの役に立ち，しかも費用は5分の1ですむということを私達は殆んど疑いません。ラジオに課された役目をもう一度ふり返って考えてみる必要がありはしないでしょうか？　特に，ラジオを他の学習経験と組み合わせて達成できること，例えばオーストラリア人やニュージーランド人が通信教育にラジオを使った例，またはインド人やその他の国の人達が部落の集合にラジオを使用したように——このことを再考すべきではないでしょうか？　テレビでは効果がないと言うのではなく，ラジオはもっと役に立つということを言いたいのです。

これは困難ですが，やりがいのある仕事です。例えばインドがテレビ，ラジオや衛星も使って文盲や文化の違い，地理的隔り等の障害を乗り越え，56万の村々を近代化する為の番組を送り込んだなら，30年から50年は早く開発が進むでしょう。新しい技術を理解する次の世代の能力が，平均10％程度向上したらどうでしょう？　環境汚染と地球上の人口増加の傾向をくいとめられたらどうでしょう？

世界の豊富な知識や，問題解決の能力を万人に等分にわかちあうことが出来るとしたらどうでしょう？　この惑星上の人間が教育をうけ他の文化に対して，もう少し寛容になれたらどうでしょう？

余りにも大げさすぎるというのでしたら，もう少し簡単なことで結論にしましょう。最近ちょっとした経験を二つほどしました。数カ月前，中南米のある国で，40人程の学童達が，その学校でたった一台テレビを備えつけてある教室をのぞきこんでいるのを見ました。テレビ学級でした。外にいる子どもたちは遊び時間の筈でしたが，テレビのレッスンを見にきていたのです。「いつ僕達はテレビを持てると思う？」と彼等の１人が羨しそうに私に聞きました。２年のうちに持てるようスケジュールには組まれていましたが，普通半数の子供達は，それまでには学校をやめてしまうのです。今，テレビがあったら，学校から脱落する割合はどの位少なくなるでしょうか？

また別の国では，ある家族が，そこの家の息子が字を書くのをみるよう私を招いてくれました。その息子は，ちょっとの間学校へ通いましたがやめてしまいました。その後11才の時，テレビを使って教えてくれる先生のグループに入れられたのです。父親が「この人に，お前の名前を書いて上げなさい。」と，促しました。「名前が書けることをみせてあげなさい。」そこでその少年は書きはじめました。ゆっくりと注意深く字をなぞっていきました。その間，彼の肩ごしに，彼の両親や祖父母は，家族の中ではじめて字の書き方を知った少年をほこらしげにみていました。余談になりますが，アフリカのコート・シボアールで会った男の話をしましょう。

彼は読み書きができなかったのです。しかし，その後，国家の方針として，中級管理職に自国民を多く登用しなければ国の発展も望めず，外からの援助もたちきれないので，自国民の中級管理職登用を決意し，彼らに管理職に必要な読み書きを教え，設計図も読め，記録もとれる人間をつくりました。それをどのように行なったかというと，テレビ教育を実行したのです。

工場側は時間と場所と監督を提供しました。私の友人はアフリカの将来の指導的産業人の１人になりました。これは真実の話です。

あなた方も最近亡くなったスイスの有名な音楽指揮者エルネスト・アンセルメ氏のことを御存知でしょう。

彼は亡くなる前，彼自身の偉大な作品について，如何にして作曲の発想をしたか，またテーマは何であるか，どのような楽器を使っているかを解説し，スイス・ロマンド管弦楽団を彼自身が指揮して演奏するのを教育番組として録画しました。

40分間に渉る番組でした。これを見た子どもたちは優秀な交響楽団と，偉大な指揮者による番組でどんなに大きな体験を得るかわかりません。これが素晴しい未来なのです。

やがて私たちは，次のコミュニケーション時代に入り，そしてこれまで話してきたような様々の媒体により人間の可能性は拡大するのです。

私は，日本の教育放送関係者と電子技術者の各位が，常に，この運動の前衛として進まれることを確信して止みません。

# 過去4回の受賞番組

| | | 日本賞 | 優秀番組賞 | | | 特別賞 | | | 審査委員賞 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1回（昭和40年度） | ラジオ部門 | 「ライダー夫人と議員さん」<br>西部ドイツ放送協会 | さあ勉強をはじめましょう「英語会話第27課」<br>スウェーデン放送協会（文部大臣賞） | 真の民主主義「民主主義の新旧の次元」<br>カナダ放送協会（東京都知事賞） | | 「ラジオ幼稚園」<br>セイロン国営放送 | 栄光の道「タブマン夫人」<br>アメリカ・ニューヨーク教育委員会 | 「何のために税金をおさめるか」<br>ニジェール国営放送 | | |
| | テレビ部門 | 自然のカレンダー「むかしむかし」<br>フィンランド放送協会 | 理科教室小学校3年生「紙玉でっぽう」<br>日本放送協会（郵政大臣賞） | ザ・フル・マン第9回「アラビイ」<br>イギリス・サザン・テレビ番組会社（阿部賞） | | 「動物の謝肉祭」<br>ユーゴスラビア国営放送 | 「テレビ英語第26課」<br>インド国営放送 | 中等近代数学「集合」<br>アイルランド放送協会 | | |
| 第2回（昭和41年度） | ラジオ部門 | リズムあそび「五月の陽光」<br>ポーランド国営放送 | 「原子をさがして」<br>ブルガリア国営放送（文部大臣賞） | 「どんなことがあっても～国家と個人～」<br>リバーサイドラジオ（アメリカ）（大阪府知事賞） | 「あすの婦人」<br>ニジェール国営放送（ユネスコ賞） | 音楽教室「弦楽一家」<br>韓国国営放送 | 「農家の皆さんへ」<br>イラン国営放送 | 「歴史のはじまり」<br>ザンビア教育省放送 | 「タイ国むけ英語講座」<br>オーストラリア放送委員会 | |
| | テレビ部門 | 幼児の世界「反抗」<br>日本放送協会 | 「影絵人形」<br>イギリス放送協会（郵政大臣賞） | 「テレビで英語を」<br>インド国営放送（阿部賞） | | 英語の時間「宝さがし」<br>タイ・バンコク市営放送 | 「方位のはかり方」<br>ウガンダ教育省放送 | 初等幾何「円のはなし」<br>イスラエル教育テレビ事業団 | 「絵をかきましょう」<br>デンマーク放送協会 | 「Hという字」（文盲教育番組）<br>イタリア放送協会 |
| 第3回（昭和42年度） | ラジオ部門 | 「ビンセント・バン・ゴッホ」<br>イギリス放送協会 | 「国語教室」<br>ユーゴスラビア国営放送（文部大臣賞） | 「名曲の分析」<br>スウェーデン放送協会（愛知県知事賞） | | 「うたとおどりの第21課」<br>マラウイ放送協会 | 「みんなで11番の歌をうたいましょう」<br>ザンビア教育省放送 | 「7年生の英語第17課」<br>タイ教育省放送 | 「英語教授法第7課」<br>フィリピン教育省公立学校局<br>フィリピン国営放送 | |
| | テレビ部門 | 「婦人と職業」<br>チリ・カトリック大学テレビ局 | 「なにしてあそぼう」<br>日本放送協会（郵政大臣賞） | 「真空の利用」<br>西ドイツ放送連盟（阿部賞） | 「コナンとアメナ」<br>フランス放送協会（ユニセフ賞） | 「ことばの力」<br>シンガポール教育テレビジョン | 「若い科学者」<br>ガーナ放送協会 | 「毒へび」<br>ハンガリー国営テレビ放送 | 「知られざるゴール文化」<br>ベルギー（フランス語）放送協会 | |
| 第4回（昭和43年度） | ラジオ部門 | 「ピッポピッポボンボン」<br>日本放送協会 | ジョージ・ガーシュイン（オーケストラのジャズ）<br>西部ドイツ放送協会（文部大臣賞） | 「健康第一」<br>アルゼンチン国営放送（東京都知事賞） | | 「小犬を助けて」<br>ユーゴスラビア国営放送 | 「イララ号の航海」<br>マラウイ放送協会 | 「郷土音楽の宝庫」<br>インドネシア国営ラジオ放送 | 「数のおはなし」<br>ルーマニア国営放送 | 「音楽がいっぱい」<br>アメリカン大学 |
| | テレビ部門 | 「最終バス」<br>イギリス放送協会 | 「もののすわり」<br>日本放送協会（郵政大臣賞） | 「エリック・サティ～人と作品～」<br>フランス放送協会（阿部賞） | 「トランペットを吹く少年」<br>カナダ放送協会（ユニセフ賞） | | 「若い科学者」（発電機）<br>ガーナ放送協会 | 「大地」<br>シンガポール国営放送 | 数学第1課「1から5」<br>チュニジア国営放送 | 「子どもはどうして生まれるか」<br>インデペンデントテレビジョン（イギリス） |

# 過去4回の審査委員

## 第1回（東京）

| | | 地域別 | 国名 | 審査委員名 | 現職 |
|---|---|---|---|---|---|
| 参加放送機関代表（8名） | ラジオ | アジア | インドネシア | **ストヨ** | インドネシア国営ラジオ放送副会長 |
| | | アフリカ | ウガンダ | **ジュヴェナル・ティンディエバ** | ウガンダ国営放送学校放送担当官 |
| | | 北アメリカ | カナダ | **デイビッド・ウォーカー** | カナダ放送協会情報・成人教育番組担当官 |
| | | 東ヨーロッパ | チェコスロバキア | **ミラン・マラリク** | チェコスロバキア国営ラジオ放送 青少年部次長 |
| | テレビジョン | アジア | インド | **B・P・バット** | インド情報放送省ラジオ・テレビ顧問 |
| | | アフリカ | チュニジア | **ハッサン・アクルー** | チュニジア放送協会テレビ局長兼渉外部長 |
| | | 西ヨーロッパ | イギリス | **ケネス・フォードリー** | イギリス放送協会 テレビジョン学校放送部長 |
| | | ラテンアメリカ | メキシコ | **ラファエル・ソラナ** | テレシステマ・メキシコ広報部長 |
| 学識経験者（4名） | ラジオ | 西ヨーロッパ | 西ドイツ | **ゲルハルト・マレツケ** | ドイツ新興国政策研究所研究所員 |
| | | 日本 | 日本 | **西本三十二** | 国際基督教大学教授 |
| | テレビジョン | 北アメリカ | アメリカ合衆国 | **エドガー・デール** | オハイオ州立大学教育学部教授 |
| | | 西ヨーロッパ | フランス | **ジョセフ・ロバン** | フランス文化テレビジョン協会事務総長 |

## 第2回（大阪）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 参加放送機関代表（10名） | ラジオ | アジア | マレーシア | **I・C・メノン** | マレーシア国営放送教養部長 |
| | | アフリカ | ニジェール | **ガルバ・シディクー** | ニジェール国営放送副総局長 |
| | | 西ヨーロッパ | スイス | **エドアール・アース** | スイス放送協会テレビ教育局長 |
| | | 大洋州 | オーストラリア | **ウォルター・S・ハミルトン** | オーストラリア放送委員会副総支配人 |
| | | 中近東 | イラン | **アーマド・ガラチェダギ** | イラン国営放送ラジオ教育番組主管 |
| | テレビジョン | 西ヨーロッパ | イタリア | **イタロ・ネリ** | イタリア放送協会テレビ教育局長 |
| | | 東ヨーロッパ | ポーランド | **アンジェイ・ワシレフスキー** | ポーランド放送委員会芸術番組部副主幹 |
| | | 中近東 | アラブ連合 | **アバス・アーメド・オスマン** | アラブ連合国営放送テレビ編成局長 |
| | | ラテンアメリカ | ブラジル | **アルフレディナ・デ・パイバ・エ・ソウザ女史** | ジョアン・バティスタ・ド・アマラル財団放送テレビ教育局長 |
| | | 日本 | 日本 | **豊田昭** | 日本放送協会教育局次長 |
| 学識経験者（4名） | ラジオ | 北アメリカ | アメリカ合衆国 | **ハロルド・E・ウィグレン** | 全米教育協会教育テレビ顧問 |
| | | 日本 | 日本 | **西本三十二** | 国際基督教大学教授 |
| | テレビジョン | アジア | タイ | **アンボーン・ミースク女史** | タイ教育省教育情報局長 |
| | | 西ヨーロッパ | 西ドイツ | **ゲルハルト・マレツケ** | ドイツ新興国政策研究所主任研究員 |

## 第3回（名古屋）

| | | 地域別 | 国名 | 審査委員名 | 現職 |
|---|---|---|---|---|---|
| 参加放送機関代表（10名） | ラジオ | アジア | フィリピン | **オルランド・S・ベノーサ** | フィリピン教育省公立学校局教育放送部長 |
| | | アフリカ | セネガル | **ジブリ・バ** | セネガル国営放送編成局長 |
| | | 西ヨーロッパ | スウェーデン | **ロルフ・ルンドグレン** | スウェーデン放送協会学校放送部長 |
| | | 大洋州 | ニュージーランド | **ライオネル R. スキーツ** | ニュージーランド放送協会ラジオ局長 |
| | | 中近東 | レバノン | **ハッサン・エル・ハッサン** | レバノン国営放送ラジオ局長 |
| | テレビジョン | アフリカ | ナイジェリア | **クリストファ・O・コラーデ** | ナイジェリア放送協会テレビ局長 |
| | | 北アメリカ | アメリカ合衆国 | **エドウィン・G・コーエン** | 教育テレビジョン学校放送番組制作センター専務理事 |
| | | 西ヨーロッパ | フランス | **ルシアン・ルノー** | フランス放送協会渉外局次長 |
| | | 東ヨーロッパ | ソビエト | **バレンティン・F・ドビニン** | ソビエト国営放送国際放送局長 |
| | | ラテンアメリカ | チリ | **エドアルド・チロニ・アルセ** | チリ・カトリック大学テレビ局副会長 |
| 学識経験者（4名） | ラジオ | アジア | タイ | **アンボーン・ミースク女史** | タイ教育省教育情報局長 |
| | | 日本 | 日本 | **坂元彦太郎** | お茶の水女子大学教授 |
| | テレビジョン | 西ヨーロッパ | 西ドイツ | **ジーグフリート・G・マゴールド** | ミュンヘン青少年賞コンクール事務局長 |
| | | 日本 | 日本 | **西本三十二** | 帝塚山学院大学学長 |

## 第4回（東京）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 参加放送機関代表（10名） | ラジオ | アジア | 韓国 | **ハン・スーク** | 韓国国営放送全州放送局長 |
| | | | ラオス | **ウドンビライ女史** | ラオス国営放送青少年番組担当官 |
| | | アフリカ | コンゴ(キンシャサ) | **パスカル・マコソ** | キンシャサ・コンゴ国営放送局長 |
| | | 北アメリカ | アメリカ合衆国 | **ジョン・P・ウイザースプン** | アメリカ教育放送連盟ラジオ番組委員会委員長 |
| | | 中近東 | トルコ | **スアト・シナノグルー** | トルコ放送協会番組企画部長 |
| | テレビジョン | アフリカ | ガーナ | **レオ・ライビー・ウィリアムズ** | ガーナ放送協会テレビ番組次長 |
| | | 西ヨーロッパ | イタリア | **イタロ・ネリ** | イタリア放送協会渉外局次長 |
| | | | オランダ | **J・J・A・カステライン** | オランダテレビ放送連盟編成総務 |
| | | 東ヨーロッパ | ルーマニア | **イワン・グリゴレスク** | ルーマニア国営放送副会長 |
| | | 日本 | 日本 | **山崎誠** | 日本放送協会教育局長 |
| 学識経験者（4名） | ラジオ | 西ヨーロッパ | フランス | **アンリ・アピア** | ソルボンヌ大学人文科学教授 |
| | | 日本 | 日本 | **坂元彦太郎** | お茶の水女子大学教授 |
| | テレビジョン | 北アメリカ | カナダ | **ルイス・ミラー** | トロント大学スカーボローカレッジ副学部長 |
| | | ラテンアメリカ | アルゼンチン | **ホセ・ブラウデ** | ブエノスアイレス大学教授 |

# 部門と賞の説明

部門は，ラジオ，テレビジョンごとに次の3つである。

1. 学校放送初等教育番組および幼稚園，保育所向け教育放送番組部門
2. 学校放送中等教育番組部門
3. 成人教育放送番組部門

（高等専門教育，大学教育のための番組を含む。）

賞は次の番組に贈られる。

「日本賞」

高度の教育的価値を有するラジオおよびテレビジョンの最優秀番組各1篇計2篇。

「優秀番組賞」

ラジオ番組の各部門のそれぞれ最優秀の作品3篇のうち，「日本賞」以外の2篇。「文部大臣賞」と「広島市長賞」。

同じくテレビジョン番組の各部門のそれぞれ最優秀の作品のうち，「日本賞」以外の2番組。「郵政大臣賞」と「阿部賞」。

なお「阿部賞」は日本賞コンクールの提唱者，阿部真之助NHK前会長を記念したものである。

「特別賞」

参加機関の属する国または領域の経済的社会的特殊性と，参加機関の制作条件等の特殊性を考慮して，著しく教育的成果をあげたと認められるすぐれたラジオ，テレビジョンそれぞれ3番組。

（注） 上記の賞には賞状・賞牌および賞金が贈られる。

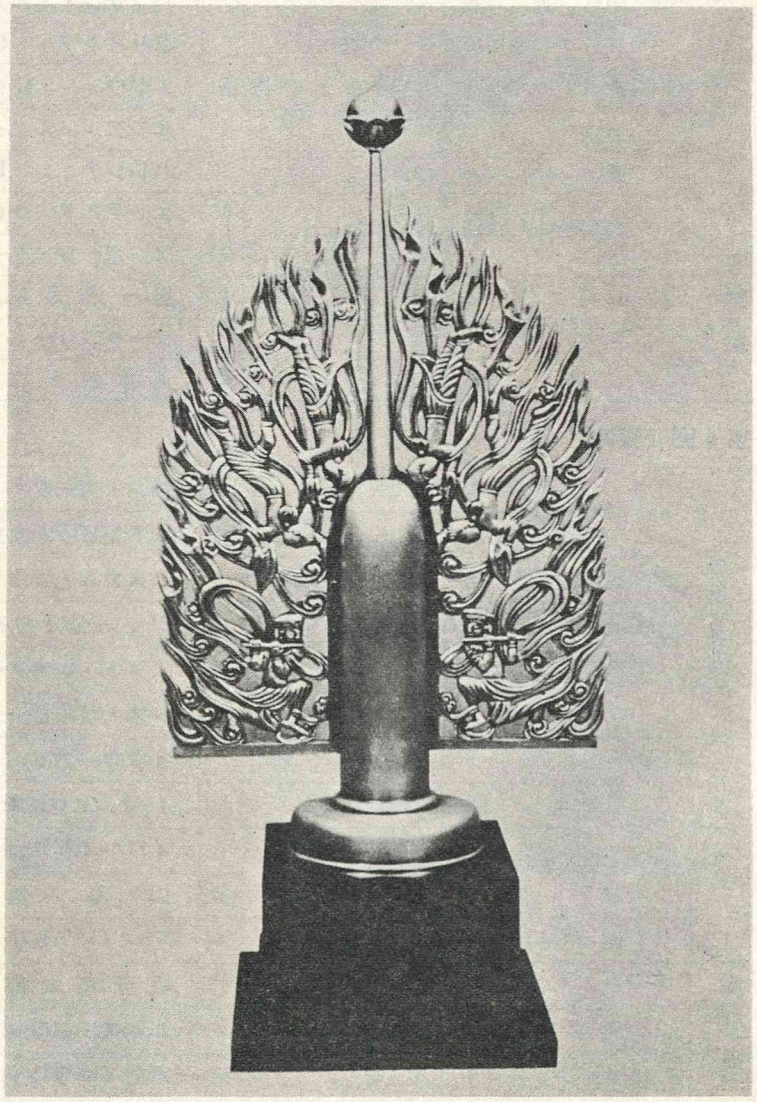
「ユニセフ賞」

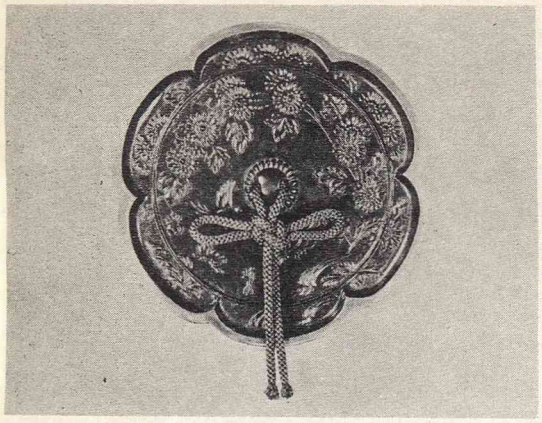
ユニセフ（国連児童基金）の申し出により開発途上にある地域の幼児と児童がいかなる状態におかれているかを理解する上で役立ったテレビジョン1番組に対して「ユニセフ賞」が贈られる。

「審査委員賞」

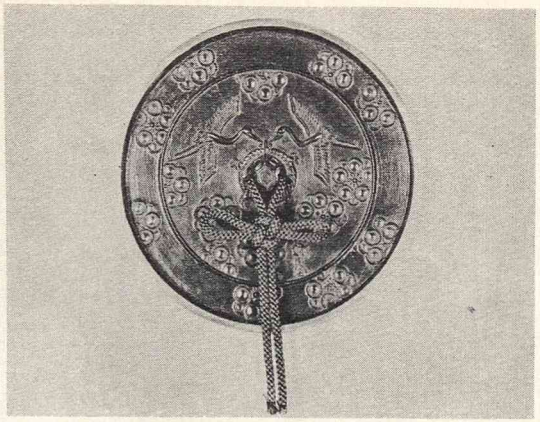
優秀ではあるが前記の賞を逸したラジオおよびテレビジョン番組それぞれ2本づつに「審査委員賞」が贈られる。賞金各500米ドルはニューヨークのエドワード・E・フォード財団（Edward E. Ford Foundation）から国際的な教育活動を促進する目的で寄附をうけたものである。

日本賞賞牌



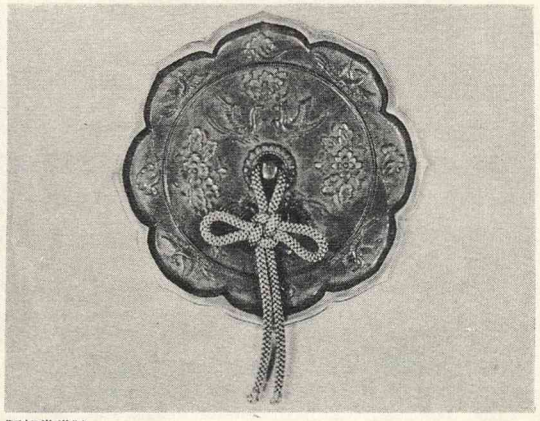


文部大臣賞賞牌

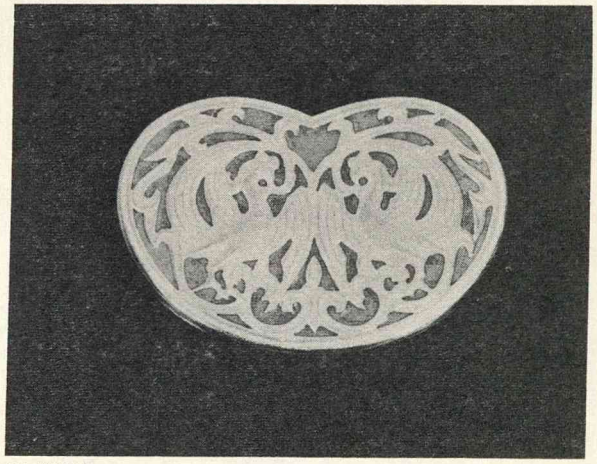


広島市長賞賞牌

郵政大臣賞賞牌



阿部賞賞牌



特別賞賞牌

ユニセフ賞賞牌

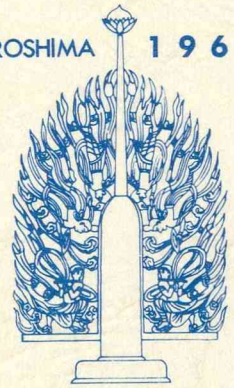
「日本賞」教育番組国際コンクール事務局

〒100　東京都千代田区内幸町 2-2-3

日本放送協会

電話 (501) 4111

HIROSHIMA 1969



NHK